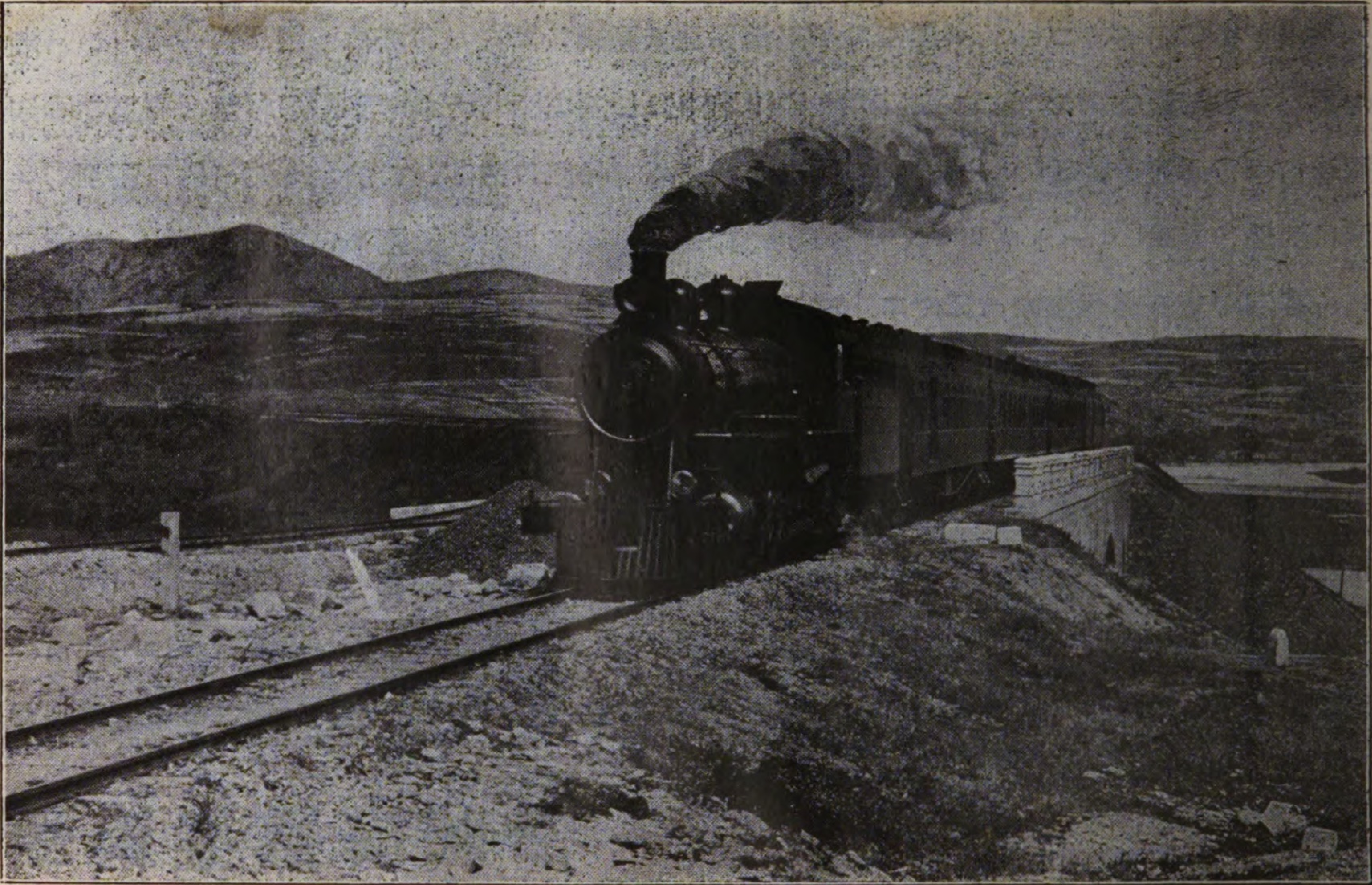
南滿洲鐵道案内

南滿洲鐵道案内

我南滿洲鐵道は南、大連に起り遼東半島を縱貫して大石橋に至り遼河に並行し該流域を經過して北、長春に達するものを幹線とす、其亘長四百三十七哩五分あり、沿道の地勢概して平夷にして一の隧道なく、橋梁は遼河、渾河、太子河に架するものを其大なるものとす、到る處樹林少なく遼東半島を離るれば彌望空濶平野天に接し、夏時は禾黍蒼々萬頃の浪の如く豆人寸馬其間に點綴するの光景又旅中の一快たり

從來の狹軌は既に廣軌式(四呎八吋半)に改められ、軌條は一碼八十磅の鋼軌條を使用し、歐米諸國の一等線路に比して遜色なく、明治四十一年六月一日を以て全線廣軌車輛を運轉するに至れり、車輛は總て米國最新式に則り機關車は「アメリカンロコモチーブ」會社の製造に係り、同國に於て最も有名なる種類に屬す、優等客車は同國「プルマン」會社の製造にして米國最急行列車と同等の設備を有し、急行列車は一週三回大連及長春を發し兩地の間、時を要すること十八時間、長春にては直に露國東清鐵道列車に接續す、急行列車には食堂車及



急行列車

寝臺車を連結し、旅客をして愉快に長途の旅行を遂げしむることを得べし



一等車内部

若し夫れ沿道各地の觀光を行はんか、先づ大連より旅順に至りて要塞激戰の跡を偲び、南山に登りて奥軍勇士の魂を弔し、貔子窩、復州に天日製鹽事業を見、熊岳城及湯崗子の温泉に旅塵を洗ひ、千山に攀ぢて神斧鬼工の奇勝、唐碑、寺觀の古雅を探り、營口に商工業及交通運輸の狀勢、遼河流域の南滿洲に貢献する利便を察し、遼陽奉天に古來治亂興亡の迹を鑑み、撫順支線に入りては豊富なる炭層、明の撫順城址を訪ね、安奉支線に至りては沿線溪山の奇勝我耶馬溪に優ると稱せられ、夏時の新綠秋後の紅葉過客をして恍として身の仙境にあるを覺へしむ、且一山一丘盡く日露戰役の新戰場ならざるはなく、憑弔感慨の趣亦殊に深し、鐵嶺方面に於

ては物資集散の狀況を尋ね長春に於ては東淸線、吉長線(未成)と我南滿線と聯絡して東西の文明を融會し、將來中部滿洲經濟上の基地として、異彩を放つべきこと等を察せば、其興趣と裨益とは蓋し鮮少に非ざるべし

本鐵道は又內外鐵道汽船との間に連絡を有し、內地鐵道院線に對しては、左記各驛に於て相互旅客の連絡券を發賣す(小荷物の連絡亦同じ)該券通用期限は鐵道船舶を通じ發行日共に四十日間とす

●社線● 旅順、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、長春

●院線● 新橋、平沼、名古屋、京都、大阪、神戸(門司經由の場合に限る)、廣島、博多、長崎、熊本



寢臺車內部

又大阪商船會社との間には左記各驛及各港に於て旅客連絡券を發賣す（小荷物の連絡亦同じ）

●社線● 遼陽、奉天、鐵嶺、開原、長春、旅順、營口、千金寨

●大阪商船寄航地● 大阪、神戸、門司、下關、各港

右連絡券の通用期限は、鐵道船舶を通じ發行の日共三十日間とす、而して鐵道院線及大阪商船會社汽船との連絡の場合に限り、社線内の手荷物無賃制限を一等百五十斤、二等百二十斤とす

京奉線に對しては、左記彼我各線に於て連絡券を發賣す



食堂車内部

●社線● 大連、旅順、遼陽、長春

京奉線 新民府、山海關、天津、北京其他東淸鐵道及我安奉線を經て、韓國統監府鐵道及同線經由內地鐵道院線に對する連絡に至つては長春驛及安奉線の部に掲述す

貨物代金引換取扱 左記各驛に發着する貨物に限り其取扱を爲す

爲換料 金額十圓迄每に金五錢但し金額百圓以內は百圓分の爲換料を申受く

大連、熊岳城、蓋平、大石橋、海城、遼陽、奉天、新臺子、鐵嶺、開原、昌圖、雙廟子、四平街、公主嶺、范家屯、長春、寬城子、旅順、營口、千金寨、

公衆電報取扱 左記各驛に於て公衆電報を取扱



神戶丸

西京丸

ふ

着信電報は停車場を肩書し又は留置となすものゝ外之を取扱はず但湯崗子取扱所は停車場所在地附近に配達す

歐文電報は日本及滿洲內に限る、電報料は滿洲及韓國內七字十錢、日本內地七字三十錢なり

大連、旅順、瓦房店、大石橋、遼陽、奉天、鐵嶺、昌圖、公主嶺、長春、沙河鎮、湯崗子



◎大連驛 Ta-lien. (Dalny)

鐵道起點
臭水子驛迄五哩五

大連は元青泥窪と稱する金州半島の南端大連灣頭の一寒村に過ぎざりき、灣頭に三澳あり南なるを「ビクトリア」澳、東南なるを手澳、北なるを船澳と云ひ青泥窪は其の第一澳に位す露國の一たび關東州を租借するや同國政府は技師「ゲルベッチ」の獻策を容れて此處に築港し東清鐵道を延長して旅順及び青泥窪に至らしめ地名を改めて「ダルニー」(遠方の義)となし市制を發布し財帑を吝まず盛に工事を起し咄嗟の間に東洋屈指の良港を建設せり時方に千八百九十八年(明治三十一年)なり

市街は歐羅巴街、支那街に分たれ歐羅巴街は更に分れて商業區、別莊區、市民區、政廳區の四となり其他歐羅巴街と支那街との中間に横はれる谷地を卜して一大公園と爲せり、市街は道路廣濶區劃整齊特に商業區の如きは兩側に鐵製臺の電柱を樹て樹木を植ゑ人道には煉瓦石材を敷き家屋の構造は露國式に加味するに支那風又は獨逸風を以てせるなど頗る趣味に富む而かも全市未だ成るに及ばずして日露の役起り南山陷るや全市擧つて旅順に退却し所在の鼠

賊其虚に乗じ財寶を奪ひ高樓を燬き輪奐の美多くは燒殘の慘を見るに至れり、我軍の占領後は鋭意修理に着手し市街も亦露國の設計を踏襲し鐵道線路を以て官有地と鐵道附屬地とを區劃し線路に跨り十五萬金を投じて鐵骨「コンクリート」の一大橋を架し名けて日本橋と呼べり日本橋より埠頭に通ずる街路は監部通、大廣場に走るものは大山通、西公園に向ふものは伊勢町通と云ひ、其他兒玉町、乃木町、山城町、東鄕町、山縣通、寺內通、美濃町、信濃町、飛彈町、吉野町、隱岐町、羽前町、盤城町、若狹町、近江町、越後町、播磨町、薩摩町、丹波町、淡路町、石見町、加賀町、紀伊町、浪速町、駿河町、長門町、敷島町等の諸街路縱橫に交叉して區劃整然たり



大連日本橋の夕景

大連停車場は目下假停車場にして日本橋の西、山城町に在り我軍政を布きたるは明治三十七年五月にして、翌三十八年二月十一日大連と改稱し同年六月關東州民政署を此地に置くや州行政の中心となり、次で九月自由渡航開始せられてより移住者日に多きを加へ一瀉千里の勢を以て今日の盛を見るに至れり、越ゑて十月平和克復後商業狀態益々發展し殊に從來軍需品輸送の專用たりし鐵道は同月二十一日より普通輸送を開始せしにより滿洲地方特產の大豆、豆粕、雜穀等は急激の勢を以て輸出せられ鹽、絹綿布、綿絲、麥粉、石油、木材、金屬器具類、雜貨、酒類等の輸入亦漸を以て大に增加せり

●戶數及人口　日本人戶數七千餘人口約二萬、支那人戶數千五百餘人口一萬餘、外國人戶數二十五人口四十六（四十二年三月末調）

營業種類は六十餘種にして其內最多數を占むるものは雜貨商、料理店、飲食店、運送業、肉類販賣業、質屋、吳服商、酒類及食料品商、旅館、理髮業等とし淸國人に在りては雜貨商、布類、毛織物商、料理屋等を營むもの多し外國人の商舖は其數甚だ少なけれども漸次增加の趨勢あり



南滿洲鐵道株式會社

埠頭、船渠及倉庫業　埠頭は大工事を施して建設したるものにして規模の宏大なること東洋稀に見る所なり、第一埠頭は電氣作業所發電所(大煙突所在地)より東方に突出し、第二埠頭は海岸埋立地より東北に向へる大埠頭にして、長さ一千九百尺水深約二十八呎優に一萬噸以上の巨船を横付けするを得べく鐵道線路を導きて貨物の積卸に便す、東清鐵道時代に於ては會社專用の繫船場なりき、第三埠頭は港の東端より第二埠頭と並行し遠く海中に突出して外港との境界を劃し其尖頭には長さ千二百二十一尺の防波堤を築き尚其尖端より千二百尺を隔てゝ第二第三兩埠頭を保護する爲め長さ二千八百五十尺の北防波堤を築造する計畫なり、埠頭事務所は第二埠頭に在り給水、曳船、水路嚮導及小蒸汽船使用の需に應じ、貨物の積卸し並に倉庫業を營む

明治四十一年中當埠頭の輸出入貨物は輸入三千二百萬圓餘、輸出三千五百五十餘萬圓なり

埠頭に待合所あり飲食品を販賣す

船渠は第一埠頭の南に在り優に三千噸の船を容るべし、今は川崎造船所之を經營す

航路及船舶　明治四十一年中當港出入の船舶數は入港汽船千四百五十九隻、九十五萬九千二



大連埠頭に於ける大豆積載



大連市監部通

百四十噸（登簿）出港汽船千二百六十六隻、九十一萬四千七百三十四噸、帆船は入港二千八百三十四隻、三十八萬三千六百二十五石、出港二千四百九隻、三十二萬七千三百四十五石を算す

内地との交通は頻繁にして大阪商船會社の汽船四隻は大阪を起點として神戸、宇品（宇品のみは月三回寄港）門司を經由し毎週二回航海す其

賃金		
大阪、神戸迄	一等	四二・〇〇円
	二等	二四・〇〇
	三等	一二・〇〇
門司迄	一等	三六・〇〇
	二等	二〇・〇〇
	三等	一〇・〇〇

亦長崎を起點として仁川、鎭南浦經由一ヶ月三回航海し其賃金

長崎迄（仁川經由）		仁川迄	
一等	二八・〇〇円	一等	一六・〇〇円
二等	一八・〇〇	二等	一〇・〇〇
三等	一〇・〇〇	三等	六・〇〇

以上の外日本郵船會社及社外船ありて内地と頻繁の交通をなせり

又當地より芝罘、安東縣、旅順、貔子窩等に航行する船舶少なからず殊に我會社は日本郵船會社より神戸丸及西京丸を傭入れ一週二回大連、上海間を航海し西比利亞經由歐洲行旅客の便を計れり、其賃金一等片道四十圓往復六十四圓、二等片道二十五圓往復四十圓とす

●●●●●工場及製造所　南滿洲鐵道會社工場は海岸に於ける元海軍防備隊跡に在り、東清鐵道時代の建物にして機關車及貨車客車の組立修理製作其他汎く機器修理製作等の需に應ず、又工場の傍に會社の電氣作業所發電所あり、社内外に電力、電燈を供給す、其烟突は露國が六十五萬留を投じたるものにして高二百九尺東洋第一と稱せらる、其他製造所としては市の附近に數個の煉瓦製造所一個の石灰製造所、三泰油房（豆油、豆粕、製造業）、日清豆粕製造株式會社、製鹽所等あり

●●●●公共市場　西公園の近傍、西通に公共市場あり、日用品、雜貨、魚類、肉類、蔬菜等店頭に備はらざるなし、一ヶ年賣上高約五十萬圓（四十二年六月末調）

官衙　大連民政署（大廣場）通信管理局（監部通一丁目）大連郵便局（監部通一丁目）同岩代町出張所（岩代町）同兒玉町出張所（兒玉町）同大棧橋出張所（大棧橋）大連觀測所（寺兒溝）關東倉庫本部（東公園町）陸軍運輸部大連出張所（第二埠頭）中央試驗所（伏見臺）農事試驗場（西公園内）海務局（第二埠頭）電話交換局（大山通）憲兵分隊（監部通一丁目）大連税關（大山通二丁目）英國領事館（越後町）米國領事館（越後町）露國領事館（龍田町）大連水道事務所（兒玉町）

銀行、會社等　大連實業會（大山通）大連華商公議會（大山通）南滿洲鐵道株式會社



大連民政署

（東公園町）大阪商船株式會社出張所（大山通）滿洲興信所（若狹町）横濱正金銀行支店（大山通）正隆銀行支店（羽前町）日本鹽業公司關東總局（美濃町）日本賣藥株式會社大連出張所（浪速町）東亞烟草會社支店（大山通）川崎造船所大連出張所（濱町）三井物產合名會社大連支店（山縣通）大山勸商場（浪速町）大連勸商場（浪速町）磐城勸商場（磐城町）東京印刷株式會社出張所（東公園町）遼東新報社（若狹町）滿洲日日新聞社（東公園町）泰東日報社（近江町）大連衞生組合事務所（西通）

學校　大連第一尋常高等小學校（東公園町）同第二尋常高等小學校（西通）同第二尋常高等小學校分敎場（兒玉町）私立大連商業學校（愛宕町）本願寺幼稚園（越後町）大連公學堂（愛宕町）大連女子技藝學校（信濃町）

社寺敎會等　出雲大社關東分祠（南山麓）本派本願寺關東州別院（信濃町）日蓮宗布敎所（逢阪町）淨土宗布敎所（奧町）眞言宗布敎所大師堂（近江町）日本基督敎會（西廣場）曹洞宗布敎所（越後町）

公會堂等　大連公會堂（伏見臺大劇場跡）大連俱樂部（兒玉町に在り内外人組織）ゴルフ會（伏見臺内外人組織）大連海友



大連公會堂

會(寺内通)臺灣倶樂部(伊勢町)

劇場、寄席　歌舞伎座(敷島町)惠比須座(若狹町)大連演藝場(信濃町)花月席(吉野町)大山席(大山通)支那劇大觀茶園(近江町)浪花席(浪速町)

南滿洲鐵道株式會社大連醫院　市内山城町停車場前に在り諸般の設備頗る整頓し内科外科を始め耳鼻咽喉科、眼科、小兒科、産科婦人科、齒科に分ち盛名ある博士學士專ら診療に從事せり

入院料　特等　拾　圓

一等　五　圓

二等　參　圓

三等　壹圓五拾錢（食事付）

其他南山の麓に西醫院（婦人病院）、伏見臺に基督敎慈惠病院、寺兒溝に東醫院（避病院）あり、市内各所に開業醫十數戸及西公園町に大連家畜醫院あり

●牧場●　老虎灘街道に一二三牧場、遼東牧場等四ヶ所あり牛乳を配達す

●公園●　●東公園●　は露國租借時代に其敷地を劃したるのみにして未だ園を成さず唯楊柳數十株と日露戰役忠魂碑あるのみ●西公園●　は規模廣濶樹林蓊蔚、春は桃李萬朶、彩霞淡く抹し楊柳千絲、翠烟深く罩む、初夏の新綠、秋夜の明月一



滿鐵會社大連醫院



大連西公園（虎公園）

として吟賞に適はざるなし、檻中の猛虎は露國時代の遺物にして雄姿舊に依て颯爽たり、故に俗に虎公園と稱す、園内の西園亭は酒饌の需に應ずべく、山月庵は小憩して茗を啜るべし、園内には亦農事試驗場及南花園あり、共に花壇を設け盆栽を配列し一般の縦覧に供す

●北公園　は俗稱露西亞町の一角に在り周圍七丁餘、周らすに瓦壁を以てし庭園式にして鳥獸を飼育し氷滑場、テニスコート、大弓場、器械體操場等あり又料理店北園あり

●常盤公園　規模小なれども老松槎枒として淸蔭愛すべく一名松公園と稱す

●伏見臺　は市西の山麓に連なる高地にして臺上に舊露國兵舍を存す、今改めて滿鐵社宅及民政署員の宿舍となす、四周寬豁山を負ひ海に臨み左右に大連小崗子を俯瞰し最も眺矚に宜し、山腹は松樹點綴翠蒼掬す可く、秋季は柞樹霜に染み樊川の駕を駐むるに足る、潺々たる臺下の澗流に沿ひ古刹あり松山寺と云ひ、乾隆年間の碑を存す、其他陽春踏靑の候には隨處に野花の芳を擷すべく、初秋の凉風に浴しては菌を山間の樹蔭に探るべし、亦近郊の一勝地なり

●小崗子　は大連市を西に距る千餘丁、海に沿ひ丘陵に倚れる支那街にして戸數二千三百、人

口一萬一千を有す、此市は輓近大連市の繁榮工事の勃興に隨つて長足の發達を遂げしものにして住民の多くは苦力を業とし、旦暮大連市間の街道を往還するもの絡繹として絶へず、各種の店舗亦彼等の需用に應ずるを主とするもの多し、其他支那劇場あり菜市あり、現今工業亦興り二十餘の油房ありて豆粕の製造に從事す

●●●老虎灘　大連の南一里餘の海岸に在る水郷なり、海水灣入藍碧深く湛ねて村を擁す、西方海中に突出する一岩嶕老虎の空を睨んで嘯くが如きものあり、是れ老虎灘の名ある所以にして背後左右の丘陵には松樹翠色を滴らし、前は即ち烟波渺茫として白帆去來し、人寰炎熱に苦むの時も脚一たび此の境に入れば忽ち秋風の冷なるを覺ゆべし、邦人の營める旅館兼料理屋三戸あり、關東州水産試驗場も此地に在



中央試驗所

り

老虎灘に隣り南口角、棒錘嶋等あり、戰時砲臺を築きて海岸の防備を施せし處今尙ほ要塞地帶たり

●●●小平嶋　老虎灘の西南に在り、綠波白沙と晻映し、海水淸淺浴すべく釣すべし、露治時代此地を以て海水浴場に充てんとしたることありと云ふ

●●遊廓　逢阪町遊廓は斜に西公園に對し老虎灘街道に沿ひ谿谷幽邃の地に在り、靑樓軒を並べ別に風流の仙宴を開く

●●●●●●●大連やまとホテル　當會社の經營に係り兒玉町大廣場の中央大連停車場の北四丁の處に在り佛蘭西式煉瓦造二階建にして坪數四百七十坪餘、貴賓室一、客室三五、應接室一、大食堂、小宴會室各一、待合室一、談話室一、最近の歐字新聞雜誌、圖書及寫眞帖等を備ふ、球戲室二、米國式佛國式英國式ポケット付球戲臺各一臺を据付け、又娛樂用として「ドミノ」「ルーレット」「カード」、碁、將棊等を備ふ、酒場を球戲室の一隅に設け各國高等の酒類及煙草を備へ、附屬理髮所にては熟練の理髮師業に從ひ理髮用椅子の如き米國最新式水力自在椅



大連やまとホテル

子を使用す
別館は本館に隣接したる煉瓦造三階建にして客室十三、應接室一を有す、旅館の設備に付ては至大の注意を拂ひ寢具食器は勿論室內の裝飾、空氣の疏通等略々遺憾なきもの〻如く冬期は蒸氣暖房を設備し、夜は館內悉く電燈を點し、宿泊に米國風及歐羅巴風の二ありて旅客の好に應ず、食事の調理は佛蘭西式に則り經驗ある料理人に擔當せしめ、使用人は英語を解し乘船乘車劵は館內にて發賣し、船車發着の際にはホテルの制服を着したる送迎人を埠頭及停車場へ出し、馬車は貴賓用幌馬車、英式ヴヰクトリア及オムニバス等數輛を

備ふ、尚專用の蒸氣洗濯所ありて旅客急用の洗濯物は一日以內に調達することを得、設備の便利と完美とは推して滿洲第一の洋式旅館となすべし

宿料は二圓以上十圓迄

食事料は朝食金一圓、晝食金一圓五十錢、晩食金一圓七十五錢、球戲料は米式球戲臺一ゲーム金二十五錢、英式ポケツト球戲臺一ゲーム金五十錢

理髮料は髮刈金五十錢、鬚剃金二十五錢、シヤンプー金二十五錢、入浴料一回五十錢

●市內旅館●●●● 遼東ホテル（信濃町）磐城ホテル（磐城町）勝利旅館（愛宕町）大連ホテル（奧町一丁目）花屋ホテル（信濃町）春田旅館（吉野町三丁目）鎭西館（信濃町）吾妻旅館（信濃町）大坂屋（吉野町一丁目）關東旅館（寺內通）等十數戶あり、宿泊料は一泊二食付最高六圓、最低一圓五十錢として晝食料は宿泊料の半額なり

●人力車、馬車賃●●●●

種別／發着地點	距離	人力車賃錢	馬車一人乘賃錢	同二人乘賃錢	同三人乘賃錢
自民政署 至停車場	十丁	金八錢	金十三錢	金十八錢	金二十三錢

自同	至大棧橋	十五丁	金十一錢	金十八錢	金二十五錢	金三十二錢
自同	至逢阪町	十八丁	金十四錢	金二十三錢	金三十二錢	金四十一錢
自同	至小崗子	二十一丁	全十七錢	金二十八錢	金三十九錢	金五十四錢
自同	至老虎灘	二里	金五十錢	金六十錢	金八十四錢	金一圓〇八錢
自同	至公會堂	十二丁	金十一錢	金十八錢	金二十五錢	金三十二錢
自同	至やまとホテル	十一丁	金八錢	金十八錢	金二十五錢	金三十二錢
自停車場	至大棧橋	二十丁	金十四錢	金二十三錢	金三十二錢	金四十一錢
自同	至市場	十丁	金八錢	金十三錢	金十八錢	金二十三錢
自同	至伏見臺	二十二丁	金十七錢	金二十八錢	金三十九錢	金五十錢
自同	至常盤公園	九丁	金八錢	金十三錢	金十八錢	金二十三錢
自同	至寺兒溝	二十一丁	金十七錢	金二十八錢	金三十九錢	金五十錢
自同	至西廣場	九丁	金八錢	金十三錢	金十八錢	金二十三錢
自同	至滿鐵本社	十三丁	金十一錢	金十八錢	金二十五錢	金三十二錢
自大棧橋	至監部通奥町角	十三丁	金十一錢	金十八錢	金二十五錢	金三十二錢
自同	至やまとホテル	二十一丁	金十四錢	金二十八錢	金三十九錢	金五十錢
自同	至虎公園	二十三丁	金十七錢	金二十八錢	金三十九錢	金五十錢
自同	至磐城、岩代町角	十八丁	金十四錢	金二十三錢	金三十二錢	金四十一錢

自大棧橋 至滿鐵本社	十三丁	金十一錢	金十八錢	金二十五錢	金三十二錢
自市場 至三泰油房	二十丁	金十四錢	金二十三錢	金三十二錢	金四十一錢
自同 至大山通浜速町角	五丁	金五錢	金八錢	金十一錢	金十四錢
自同 至小崗子遊廓	十八丁	金十四錢	金二十三錢	金三十二錢	金四十一錢
自小崗子 至伏見臺	九丁	金八錢	金十三錢	金十八錢	金二十三錢
自同 至大棧橋	一里四丁	金二十六錢	金四十三錢	金六十錢	金七十七錢
自同 至大山通浜速町角	二十二丁	金十七錢	金二十八錢	金三十九錢	金五十三錢
自同 至日本橋	十九丁	金十四錢	金二十三錢	金三十二錢	金四十一錢
自同 至停車場	二十三丁	金十七錢	金二十八錢	金三十九錢	金五十三錢

人力車、客待一時間金五錢、一日雇切金一圓、半日雇切金六十錢、雨雪天二割增、夜間一割增、二人輓は一人輓の倍額、市外一里金二十五錢、歸路は往路の七割

馬車、客待一時間金十二錢、一日雇切金二圓七十錢、半日雇切金一圓六十錢、雨雪天二割增、夜間一割增、市外一里金三十錢、歸路は往路の七割

●電氣鐵道●

線路は(一)、大棧橋に起り山縣通、紀伊町、監部通、信濃町を經て常盤橋より伏見臺電氣遊

園を過ぎ小崗子に至る線(二)、第一號線常盤橋附近より分岐し逢阪町に至る線(三)、紀伊町山縣通り交叉點より分岐し東公園町、大廣場、播磨町、對馬町を經て第二號線に合するもの(四)、市場前より分岐し西通、大廣場、奥町を經て監部通に於て第一號線に合するもの(五)、南廣場より分岐し日本橋北大山通りを經て第五波止場に至る線(六)、*



電　　車

*第五號線北廣場より分岐し相撲町を經て大連停車場に至る線(七)、第三號線播磨町に於て分岐し近江町通りより壹岐町を經て第二號線に合するもの

車輛は母國各地に於て現用せらるゝものに歐米新式の粹を加味し尚ほ風土、民俗に則り設計したるものにして全長三十五呎八吋、幅八呎とし特等(定員十六人)並等(定員)三十二人

混造の「ボギー」式なり中央を入口とし兩端を出口とす

乘車賃は普通乘車賃、一時間乘車賃、回數乘車賃の三種にして車內に於て發賣す

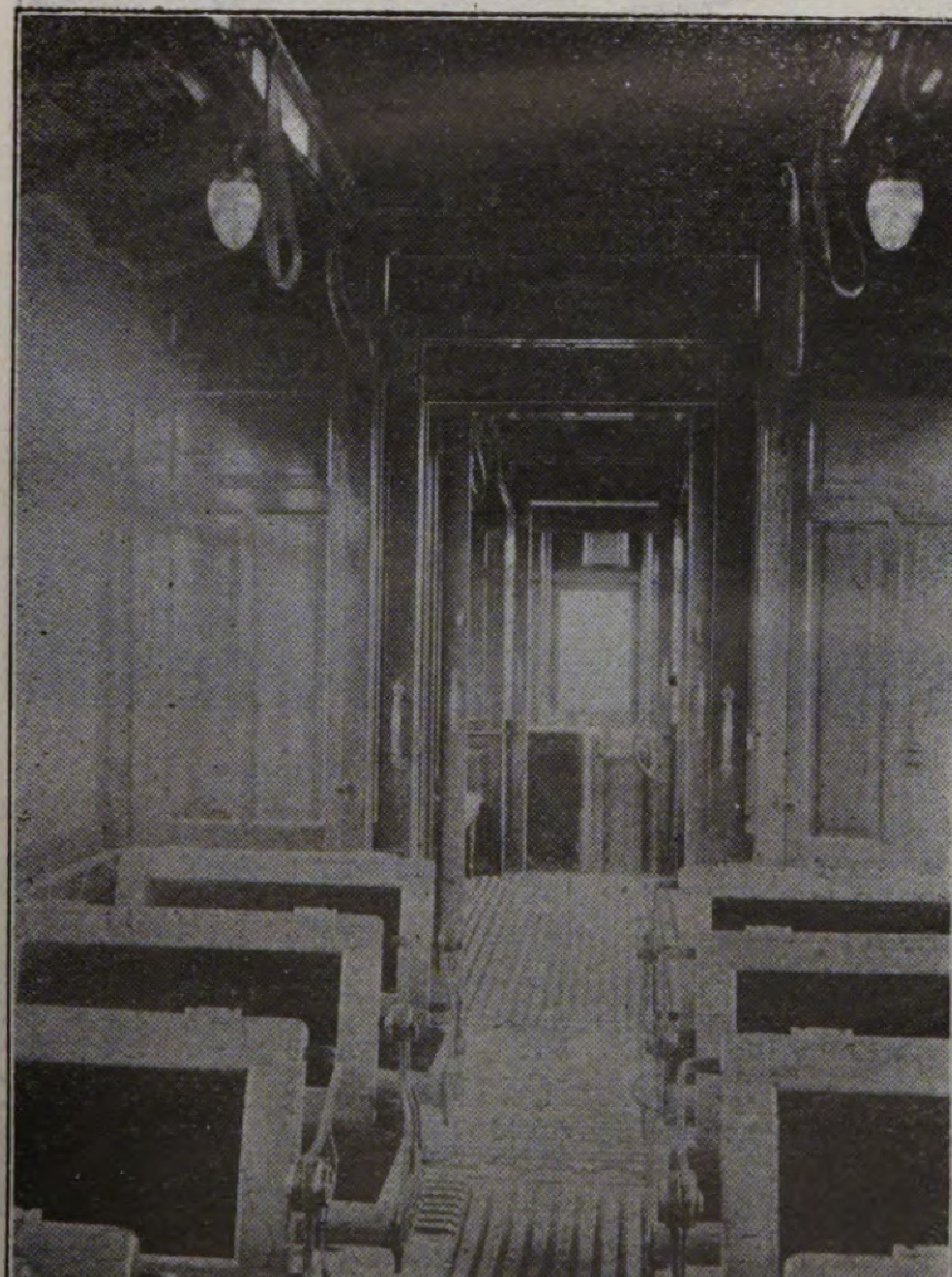
一、普通乘車賃

特等	一回(遠近均一)	金六錢
並等	一回(同)	金四錢

二、一時間乘車賃

特等	一回	金八錢
並等	一回	金五錢

一時間以內に於て用務を便じ再び乘車せらるゝ人又は乘替へせらるゝ人は此切符を購はるべし本券は一時間以內は何回乘車せらるゝも差支へなし本券以外には乘換切符なし



電車內部

三、回數乘車賃（回數三十回）特等 一圓五十錢 並等 一圓

乘客の手荷物は膝上に載せ得る物に限り夫れ以上は謝絶す

荷物携帶乘客の便利を圖り大連埠頭に電鐵專屬電車案内從事員詰所を設け左記に依り埠頭構内並に市内各所間の荷物運搬を取扱ふ

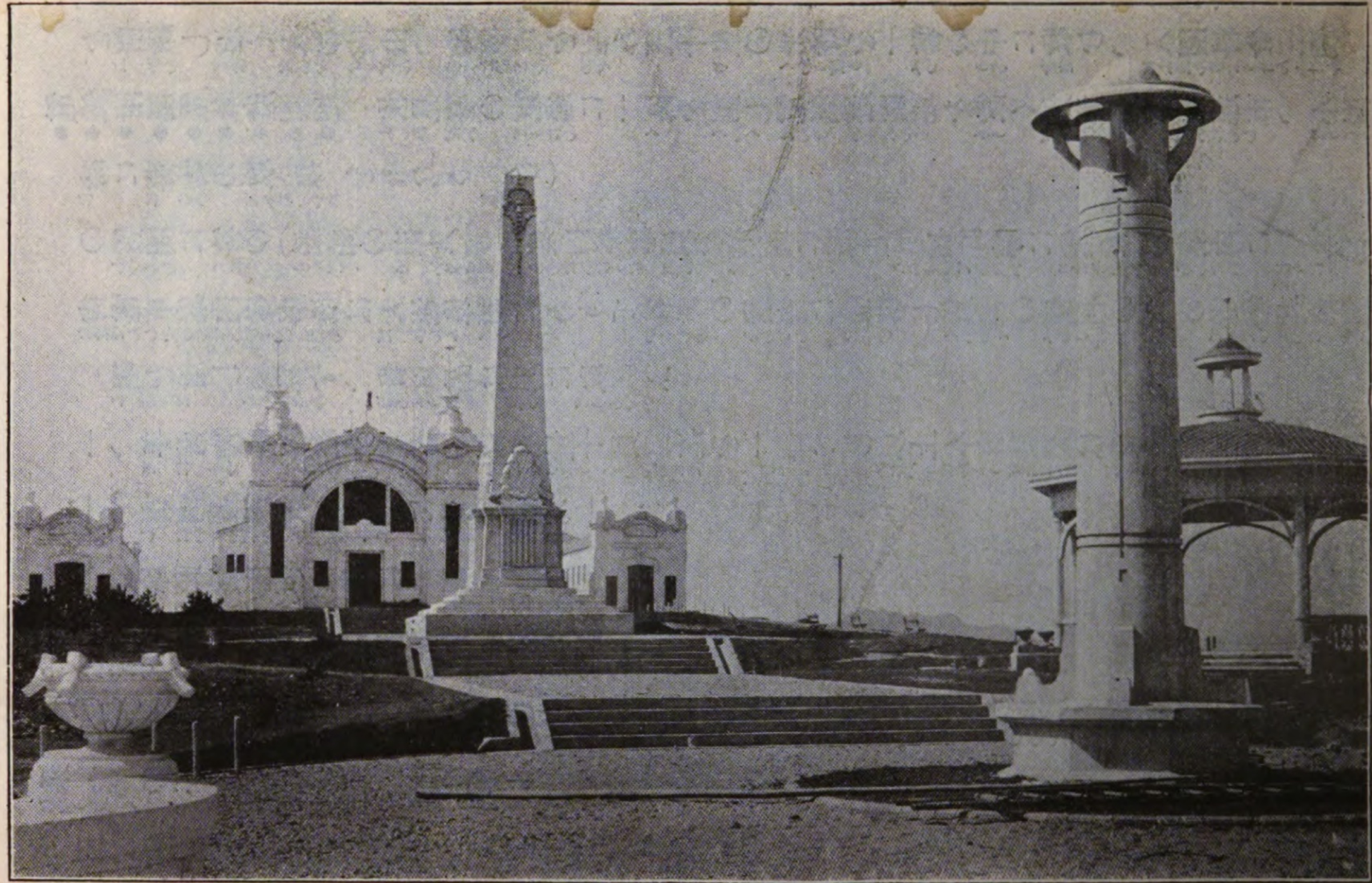
一、埠頭構内運搬賃は一個に付金四錢

一、市内運搬賃は一個に付五錢均一

一、手荷物は容積四才若くは重量十貫目迄を一個とし以上本容積又は重量を超ゆる毎に一個を增し換算す、貴重品は別に取扱ふ

尙電車案内從事員は大連埠頭にありて各種の案内に從事し貨客の便利の爲め電鐵其他總ての質問に答ゆ（船舶の出入毎に案内從事員を船内に派し懇切叮嚀に旅客の案内に從事し同時に荷物の取扱をもなさしむ）

●●●●●●●●●●電鐵附屬電氣遊園地　伏見臺の東端に一區を劃し電氣遊園地を設く大連灣、大連市、小崗子を俯瞰し遠く大和尙山、柳樹屯を望み三十里の光眸を一瞥の中に收む、入園料金三錢



電氣遊園

一、演藝館　丘山にあり敢て大厦高樓と云ふを得ざるも美的意匠を凝らしたる建築物にして夜間は電燈裝飾を施し館内には新式の敎育的活動寫眞に歐米の新音樂を加味し背景にはステージライト等の裝飾を設く

一、動物射擊室　演藝館の一側に設く動物の模型、電氣作用によりて列をなし出動す、是れを銃を以て射擊するなり歐米遊戲中の白眉たり

一、ボーリングアレー、メリーゴーラウンド、ローラースケーチング等の遊戲場を設置す

一、動物室には鳥類獸類を收め主として地方產のものを集む

一、モンキーハウスは滑稽的に人類進化の楷梯を說明せしもの

一、植物温室幷に花壇には四季の花を收む

臭水子驛 Chou-shui-tzu.

南關嶺驛迄四哩一

驛は旅順支線の分岐點なり

●煉瓦製造所●　驛の東北二十丁許に在り元、露國の經營に係り地積約五萬坪規模壯大にして海

には棧橋を架し、陸には鐵道を敷き以て本驛に接續し海陸の設備共に盡せり、日露戰役後邦人之が經營に着手し盛に製造に從事しつゝあり

小野田セメント製造株式會社關東州分工場 驛の西北二十五丁泡子崖に在り、地積約八萬坪、原料地積百二十五萬坪、本年五月新に竣工したるものにして一個年十五萬樽を製造する見込なりと云ふ

老龍頭砲臺 驛の東北約二里の海岸に清國の築造せる砲臺あり老龍頭砲臺と稱す、今は僅に斷礎を存し荒草離々たるを見るのみ

◎南關嶺驛 Nan-kuan-ling.

大房身驛迄 七哩六

驛は元旅順支線の分岐點たりしが廣軌鐵道開通と同時に之を廢



小野田セメント製造株式會社分工場

せり、構内の建物は總て露國の築造に係るものにして母國より來つて滿洲の地を踏む者此地に於て始めて露國式停車場に接することを得べし

●●●給水槽　機關車に給水すべき各驛の構内には必ず燈臺に似たる建物あるを見る、是れ即ち溜水槽にして石材を疊み上げ上部に圓筒形の鐵製水槽を据付け蒸汽喞筒を使用して貯水し構内の「スタンドパイプ」を通じて給水するの裝置なり、金州、瓦房店、熊岳城、大石橋、遼陽、昌圖、四平街、公主嶺に在るものは全線中最も大なるものにして槽の高さ十五呎直徑二十八呎容量五萬瓦即ち千三百五十石を貯水し得べし、冬期貯水の氷結を防ぐが爲め槽の中央に煙筒を通し建物の外部は更に木板を以て之を圍み酷寒なる外氣を緩和せしむるの方法を採れり、驛の附近水量乏しき處に在りては水源地を一里乃至二里の遠方に設けたるものあり

●●●南關嶺　驛の北方に聳ゆる峰岳を南關嶺と稱す蓋し金州城南の關門たるを以てなり、一名之を難過嶺と呼ぶ往古は海水深く浸入し金州街道は後に亂山あり前に滄海あり行路の難甚しかりしを以て此稱ありしと云ふ、此地日露の新戰場たり

歪頭山　驛の南方兀として雲霄を摩するもの是れなり、山は名の如く不正形にして日露の役我軍の頗る苦戰健闘せし處其西方に當り巍峩として峙つもの、之を案子山とす

烟臺　驛の西方十丁許の一小丘に在り往昔唐の太宗高麗征討の遺跡にして、當時烽焰を擧げて警を報ずる爲め築造せるもの今尚ほ壘石を存す

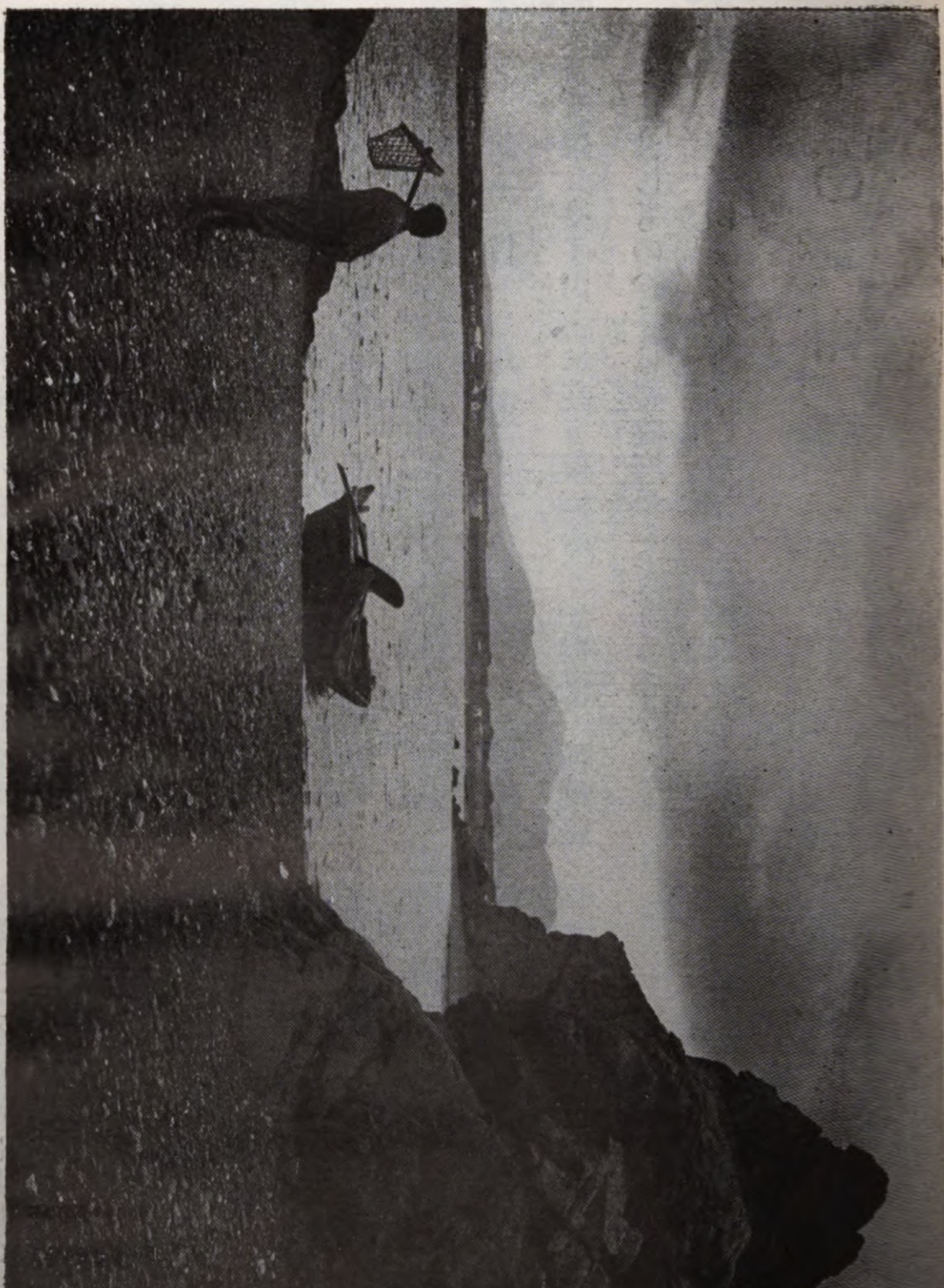
大烟嶋　驛を距る東方一里餘、往年清國が柳樹屯を軍港たらしめんと計畫せし當時築きたる砲壘尚存し右に大連市街を指顧の間に望み左は柳樹屯と相對し十二灣中風光殊に明媚なり

泉水眼　驛を距る二十丁許の海岸に在り大氣爽かにして潮水清く魚介に富み海水浴場に適す鴨雁群を成して游泳し狐兎の類又多く、漁るべく獵すべし、大烟島の下に在り

◎大房身驛　Ta-fang-shen.　金州驛迄二哩九

此地より分岐して柳樹屯に達する軌道あり、日露戰役の開始當時より平和克復後軍隊還送までは列車を運轉せしも今は之を休止せり其間里餘にして車馬交通の便あり

柳樹屯　此地は頗る古き市街にして大連灣に臨み青泥窪(大連)の未成時代に在りては盛京省



柳樹屯

第一の良港たりし、戸數約八百人口四千五百を有す、光緒十三年清國は兵備の充實を計り臺子山上に三個所の砲臺を築き東北の三個所に兵營を新設し多數の兵勇を配置せし以來日清戰役に至るまでは最も繁榮を極めたり、當時我軍の上陸地點として有名なりし大連灣（柳樹屯別名）は實に此地にして千八百六十年英佛同盟軍が北京に逼るに當り第一に占領せしも亦此灣たり、日露開戰後停車場を設け、初めは大連灣驛と稱し後に柳樹屯驛と改めしも今や唯驛址を留むるのみ、海岸には兵營商舖棧橋ありて尙要地たるを失はず

大連柳樹屯間は志岐組共同丸毎日三回往復し彼我の交通に便せり

船賃　片道　二十五錢　往復　四十錢

●砲臺及兵營●　臺子山上に在り東砲臺、中砲臺、西砲臺と稱す、光緒十三年六月起工し同年中に竣工せしもの、今は殘礎廢壘を存するのみ

●忠魂碑●　臺子山上に在り南山攻陷の當時戰死せる忠魂を旌表する爲め之を建つ

⑪金州驛　Chin-chou.　二十里臺驛迄八哩五

市街● 驛を距る西北十八丁、車馬の便あり金州は古、寧海縣と稱し城廓は乾隆三十九年の修工にして既に一百三十餘年を閲し、往時遼東半島施政の中心として著名の地なり、東に峨々たる大赫山(俗稱大和尙山)を控へ西は渤海に面し南は南山に對し半島の咽喉を扼す、城內は區劃整然商舖軒を幷ぶ、人口約一萬あり城の周圍三十丁餘東西南北の四門を有す東門には日淸戰役の際我勇士の爆破せる門扉尙ほ存す

●官衙● 金州民政支署、郵便局(以上日本)大連稅關金州監視所(淸國)

●學堂● 門外に南金書院あり元露國の經營に係る近時金州公學堂と改稱し日淸兩國兒童を敎育す

●旅館● 三嶋屋 一泊二圓乃至三圓晝食は其半額

●手荷物運搬● 停車場に赤帽あり手荷物一個の運賃五錢なり

●南山● 舊名を扇子山と稱す、驛の西南十丁許に在る一帶の高地にして東、大連灣に面し西、金州灣を望む形勝の地にして日露激戰場の一たり、露軍の築造せる塹壕現存し人をして奧軍勇戰の當時を追懷せしむ、山の中腹に鎭魂碑あり、我忠勇なる戰役將卒及軍屬の靈を合

祀す、頂上には彰忠碑あり金州管內清國有志の建立に成り、我戰死將卒の忠烈を表彰す、山上の眺望佳絕にして嘗て風籟の斷へしことなく尤も月夜に宜し

乃木將軍金州を過ぎるの詩あり

山川草木轉荒涼、十里風腥新戰場、征馬不ㇾ前人不ㇾ語、金州城外立二斜陽一

●大赫山　驛の東北方三里餘、嶄然として雲表に聳へ、遼東半島第一の高山にして別名を老虎山又大和尙山と云ふ、唐の太宗高麗を征するに當り駐蹕せし遺跡にして其名著し、東北の山腹に勝水寺あり洞窟內に觀世音を祀る、樹木蔚蒼として詩趣



南山

饒し、南方の山腹には唐王廟あり今を距ること一千餘年唐王の大將敬德の修工する所にして結構の古雅愛すべく今尚は唐三神像、飲馬井、拴馬石等の古蹟あり、西方の山間に響水寺あり、谿谷一帶老松翠蓋を張り清泉涓々たり

三崎山　驛の西北三十丁餘、金州北門外の高地にして二十七八年戰役の際重任を帶ひ、金州城に向ふの途次事露はれて慘死せし志士鐘崎、篠崎、藤崎三氏の墳墓ありて靑苔深く鎖せり、志士終焉の地は西方十丁許の處なり

肖金山　驛の東北三十丁、山狀圓錐形を成す日露戰役に當り南山攻擊の際我軍司令部を此處に置きて全軍を指揮し南山の死命を制せし所なり

◎二十里臺驛　Er-shih-li-tai.　三十里堡驛迄六哩

◎三十里堡驛　San-shih-li-pu.　石河驛迄六哩四

二十里臺と云ひ三十里堡と云ふは其衞城二十里三十里（淸里）を隔る處に臺を構へ堡を設けた

ればなり、金州の南方にも三十里堡と稱する地名あり又北方には四十里堡五十里堡と云ふ地名あり

◎石河驛 Shih-ho.

普蘭店驛迄六哩九

◎普蘭店驛 Pu-lan-tien.

田家驛迄十哩五

地は遼東半島の北端にして關東州租借地の限界たり「アダムス」灣深く灣入して驛より數丁の地に達す、元一村落にして市街なく住民は多く農を業とし戸數約一百、人口三百餘あるのみなるも貔子窩及復州に通ずる要路に當り旅客貨物日に輻輳し人口漸く增加せんとす、例年十月より翌年六月頃まで復州沿岸より船舶日々往復し五島の製鹽盛なり、又貔子窩には毎日馬車の便ありて旅客の求めに應ずと云ふ、片道二圓五十錢内外

●官●衙● 金州民政支署出張所、郵便局、兵營、大連海關出張所

●貔●子●窩● 普蘭店の東方十里餘戸數約一千人口七千あり、邦人の經營する二鹽業會社の製鹽事



鹽田

業に着手するありて日本人の居留する者約二百を算す金州民政支署出張所の所在地なり

製鹽事業　今少しく同地方に於ける製鹽事業を説かんに所謂貔子窩鹽田と稱するは同市を距る二里、夾心子、東老灘及碧流河地方に在り其天然の狀態は斯業をして最も有利の事業たらしむべき特質を有す、戰後日本食鹽コークス會社は卒先して貔子窩に於ける鹽田貸下の許可を得、尋て滿韓鹽業會社亦同地の貸下許可を受け明治三十九年の夏新事業



鹽田風車

の魁を爲して天下に關東州製鹽を紹介し好評を博したり、同地沿岸の土壤は悉く埴土質にして粘着性に富み地盤硬きが故に貯水池より結晶池に至るまで海水漏透の患なく潮の干滿は小潮約八尺、大潮十一尺內外にして、潮水の新陳代謝最も速なるを以て常に多量新鮮の鹽分を供給し之に加ふるに河川乏しきが故に淡水侵入の虞なく沿岸は到る處遠淺にして廣漠なる干潟地を有し海潮を鹽田に導くの便多大なると共に波浪の害を受くること極めて少なし、特に七八兩月の雨期を除くの外北風常に吹き來り大氣乾燥して蒸發力強く鹽田の構造簡易にして勞力を要すること僅少なるのみならず鹽質好良收利隨て多しと云ふ、現に此地に於て製鹽事業を營めるもの滿韓鹽業株式會社、大日本鹽業株式會社等あり

●●●●●

手荷物運搬　驛に赤帽あり手荷物一個の運賃五錢なり

⊕田家驛　Tien-chia.

瓦房店驛迄六哩七

⊕瓦房店驛　Wa-fang-tien.

王家驛迄四哩八

東清鐵道時代には中間の主要驛たりしを以て停車場附屬建物は其規模宏壯なり、市街は目下の處未だ見るべきなきも近來清國商人の來住せんとする者漸く多く加ふるに復州の衙門を此地に移轉するの計畫にして實行せられなば更に繁榮を増すに至るべし、附屬地の人口は本邦人約六百、支那人約四百を算す

手荷物運搬　停車場に赤帽あり手荷物一個五錢なり

食　堂　驛に構内食堂の設あり

炭　坑　驛の東約一里に炸子窰炭坑あり、東清鐵道時代には支線を炭坑に敷かんとし其土工半ば完成せり、今は志岐組の經營に係り毎日の出炭高四五十噸坑夫約八九十人、炭質火力弱く灰多し

官衙學校等　兵營、郵便局、警務署支署、滿鐵會社大連醫院分院（一等四圓二等二圓五十錢三等一圓二十錢食事附）滿鐵附屬地尋常高等小學校（以上日本）巡警分局、稅局分局（以上清國）

復　州　當驛を距る約十里、城内の戸數約二千、人口一萬餘、商業稍や殷盛にして沿岸には

鹽田多く淸國人之を經營す、管下の五湖嘴に露人の所有に係る炭坑あり每月二千餘噸の粉炭を出し渤海沿岸の淸人に供給す、海岸に棧橋ありて船運に便す

◎王家驛 Wang-chia.

得利寺驛迄七哩一

◎得利寺驛 Te-li-szu.

松樹驛迄四哩

日露の役我軍先づ南山を陥れ露軍を旅順要塞に壓迫し攻圍を確實にするや時の總司令官「クロパトキン」將軍救援の爲め大部隊を南下せしむ、我奥司令官は此地に邀擊して之を破り攻守の形勢を一轉したる所謂得利寺遭遇戰場にして、附近の丘陵塹壕逶邐、堡壘處々に點在し龍拏虎攫の跡を存せり

●龍潭山　驛の北方に在る古城址にして山麓迄五丁許山上に龍王廟あり、中腹に龍潭池と稱する楕圓形の池あり、往時の外廓たりし石垣尚は存す

●得利寺　驛の西方約三十餘丁に在り伽藍宏大にして地方に於ける古名刹なり

◎松樹驛

Sung-shu.

萬家嶺驛迄九哩七

◎萬家嶺驛

Wan-chia-ling.

許家屯驛迄八哩八

驛は山間の僻地に在り何等見るべきものなしと雖も驛後の諸丘花崗質の石材に富み山河常に戞々の聲を聞く

官衙 兵營、警務署出張所

◎許家屯驛

Hsu-chia-tun.

九寨驛迄四哩七

◎九寨驛

Chiu-chai.

熊岳城驛迄六哩三



龍潭山

熊岳城驛 Hsiung-yo-cheng.

芦家屯驛迄六哩二

市街 は驛を距る西方十餘丁にして高く城壁を繞らし不正なる楕圓形にして四百年前の建造に係る周圍二十丁餘東南北の三門を有し門上樓閣を存するも城壁と共に荒る、東南に山を負ひ西北は海に莅み熊岳河其南を流れて海に注ぐ、商賈軒を並べ戸數五百餘、人口約三千あり

官衙 兵營、郵便局(日本)巡警局、防守尉衙門、税局等(清國)

旅館 入江旅館　一泊一圓五十錢

農產物 米、豆粕、梨、葡萄等にして水田の廣袤百數十町歩南滿洲中稀に見る所なり、然れども其耕法は舊慣を守り甚だ幼稚なるを以て收穫多からず梨、葡萄は能く此地に適し成熟好良、風味最も美にして蓋平、營口其他に輸出せらる

滿鐵苗圃 滿鐵會社は三萬坪の苗圃を此地に設け各種を種植す

漁業 驛の西方三里許渤海の一隅に位し、西北營口に對する一港を鮁魚圈口と名つけ、熊

岳河口に在り、舟楫輻湊し漁業の基地にして日清兩國人の經營する漁場數多あり、渤海灣中黃花魚(日本の「グヂ」)の好漁場として有名なり、例年四月より五月の間に於ける漁期には收穫頗る多く百五十萬兩乃至二百萬兩に及ぶと云ふ

鉛●鑛● 驛の西南約三里に鉛鑛(銀を含む)あり本邦人の經營に係り復州街道に沿へり、試堀分析の結果大に有望なりと云ふ

熊●岳●城●溫●泉● 驛の東南十八丁正白旗村熊岳河の傍に湧出す、透明清澄にして硫黃臭を帶び僅に鐵味を含み溫度平均攝氏五十度皮膚病其他諸病に効あり、初めは泉源の湧出に委せ何等の設備なかりしも明治三十九年時の駐屯守備隊長浴槽三個を設け名けて同樂溫泉と云ふ、外に私人の經營せる溫泉宿あり溫泉ホテルと云ふ、近時又館側に浴槽を設け以て浴客に便せり一泊一圓五十錢乃至三圓、晝食は其半額、驛より溫泉の間に輕便鐵道の設けあり往來に便せり

大石橋兵站病院に於て分析したる成績及効能左の如し

本鑛泉は透明清澄にして微に硫黃臭を帶び僅に鐵味を有し泉源の溫度平均攝氏五十度な



熊岳城温泉

り、而して之を分析するに格魯兒多量、硫酸稍多量、炭酸稍多量、硅酸小量、硝酸僅微、燐酸痕跡、礬土少量、麻倔偟失叟莫少量、石灰稍多量、鐵(酸化體を帶び亞酸體として)少量、加留莫少量、那篤留莫多量なり

其効能は漫性濕疹、疥癬、匐行疥、慢性關節及節肉僂麻窒斯、腹及胃加答兒、陳久潰瘍、慢性膀胱加答兒、比斯的里、銃傷及外傷、癒後運動障害、凍傷(初度)、神經衰弱、待水液性關節炎、子宮內膜炎、腟加答兒、胸膜炎、便秘等なり

因に同地方に於ける熊岳河左岸の河床一帯は温泉流脈なるを以て淺く砂積を穿つも處として滾々湧出せざるはなし

●●●青龍山　温泉ホテルの東方一里半に在り巉巖峥嵘老松天を摩し、細泉危岩に咽び境甚だ幽秀なり、山巓に古刹あり望海寺と云ふ、俯して蒼茫たる渤海を望むべく、其他喇嘛洞、羅漢峰、將軍石、双龍松、泉平嶺等の奇勝絶景皆一遊するに足る

●●●黃旗山　驛の西南約一里に在り、熊岳城の土豪咸文氏の有にして周圍二十餘丁の間萬松丘阜に連なり、蒼翠天を蔽ふ、頂上に關帝廟あり、怪石磊塊として横はり、一望の下山河の形勢歷々として指呼すべし、麓に梨園あり梨樹二千株、陽春の候白雲靉靆として青松と相映じ、滿目の赭土中別に一仙境を開く

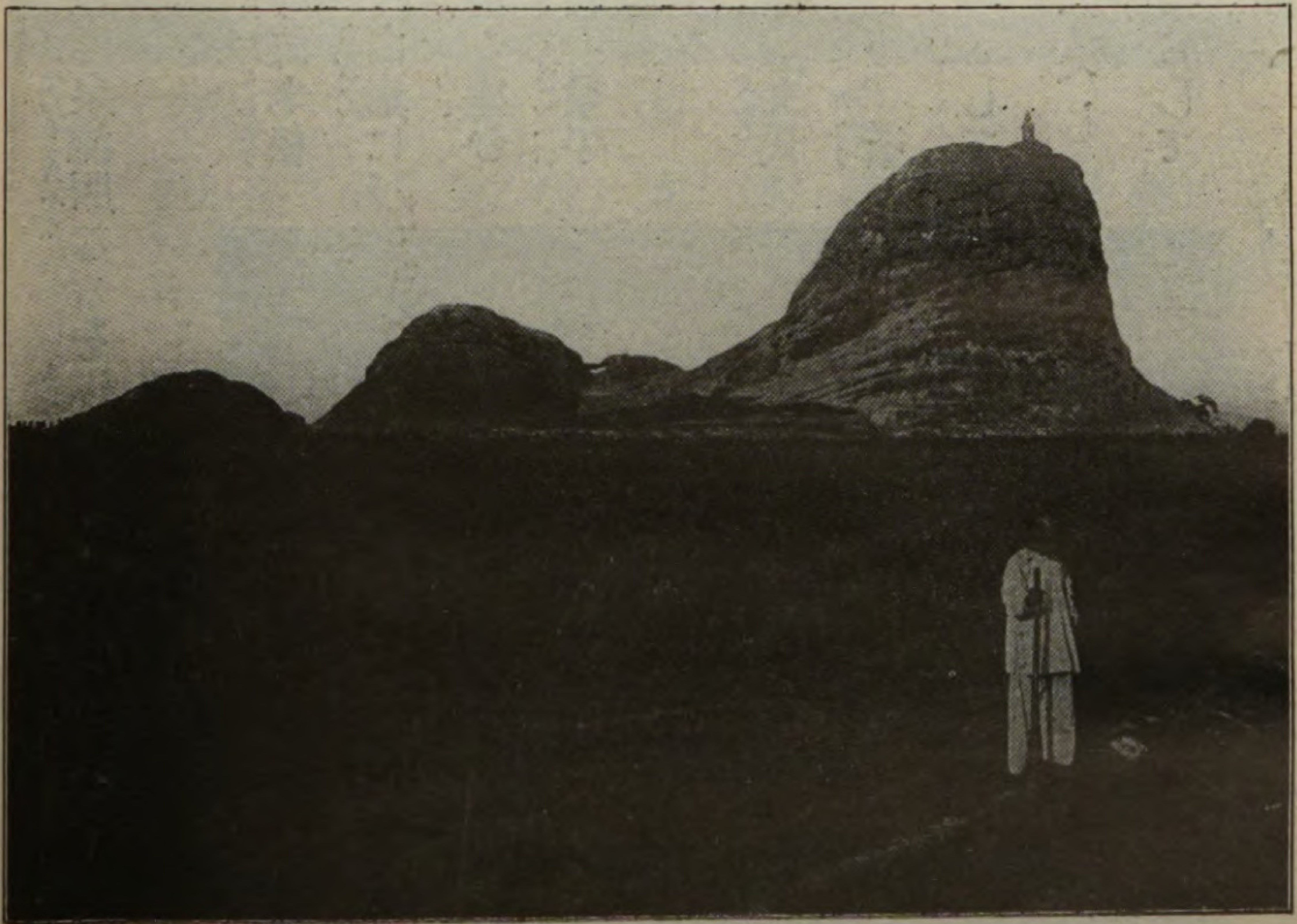


熊岳城梨園

望小山　驛の東方に當り怪岩聳峙するもの之を望小山又は望月山と稱す、山頂に[illegible]あり



黄旗山



望小山

望小山　驛の東方に當り怪岩獨峙するもの之を望小山又は望兒山と稱す、山頂に喇嘛塔あり傳へ曰ふ往時寡婦あり其子擧に應じて京に赴き月を經て還らず婦日夜之を思念し肝腸煎るが如く朝々暮々山頭に立つて海天を瞻望し愁極つて遂に死す山名蓋し此に本づくと

蘆家屯驛 Lu-chia-tun.

沙崗驛迄六哩七

沙崗驛 Sha-kang.

蓋平驛迄六哩六

蓋平驛 Kai-ping.

太平山驛迄十一哩六

市街　驛の東南一里餘、繞らすに磚壁を以てし周圍三十丁餘、古來知縣を置き人口約一萬七千、商業頗る繁盛柞蠶絲の中央市場として商賈の來往頻繁市況隨て振ひ、其一年の取引高約三萬梱（一梱百斤入）に上る、成繭期は春秋兩季に渉り其取引先は重に上海なるを以て同地の商人は營口の開河即ち遼河の解氷後來つて取引に從事し、封河即ち結氷前に去るを例とす此間は商況最も旺盛なり、現下邦人の經營に成る大吉盛洋行あり繭の乾燥及輸出に

從事す

●●●
柞蠶業　柞蠶一名野蠶は柞樹の葉間に飼育するものにして蓋平縣、海城、岫巖等の山間に産出し蓋平所管に屬するもの約三千八百七十餘把なり一把は概ね三反歩即ち柞樹六千株乃至四千株を定とし一把に付平年大約繭十萬梱を得べきを以て其産額三百八十餘萬斤を算す、柞樹は老ゆれば其葉硬くして蠶の飼養に適せざるを以て冬期に之を伐りて幼樹の發生を計り四五年毎に循環伐採を行ふ、蠶兒は此嫩葉



柞蠶

に放置して之を飼育し、春蠶は夏至の候に上簇し小暑に至つて終り秋蠶は秋分前後に上簇し寒露に至つて終る

●官衙、學校● 郵便局、警務署出張所、兵營(日本)知縣衙門、巡警局、師範傳習所、兩等小學堂(清國)

●孔子廟● 小南門内の一丘上幽靜閑雅の境に在り

●茅兒子● 城の東南約二里、地幽に境淨き一古刹にして鳥語風聲塵寰に超出す

●青石關● 城の北五里、山を劈て門と爲し僅に一車を行るべし、傳へ云ふ高勾麗の將蓋蘇文の建つる所にして唐太宗の兵を禦ぎし處なりと青石關三大字の碑今尙ほ存す

●手荷物運搬● 停車場に赤帽あり手荷物一個五錢なり

◎太平山驛 Tai-ping-shan.

大石橋驛迄七哩

●製鹽所● 驛の西方約二里、藍旗、黄旗の二廠あり共に有名なる食鹽産地にして年々の産額多大なるも製法舊慣に依り鹽質好良ならず

牛心山 驛の北方約半里、日露の役露軍は此山を利用し擬勢を張り以て我主力を集中せしめんとせしも我軍は機先を制し側面攻撃を爲せしを以て遂に遼陽方面に撤退し主將「クロパトキン」亦此戰に負傷し大石橋の陷落は實に此守を失ひしに職由すと云ふ

◎大石橋 Ta-shih-chiao.

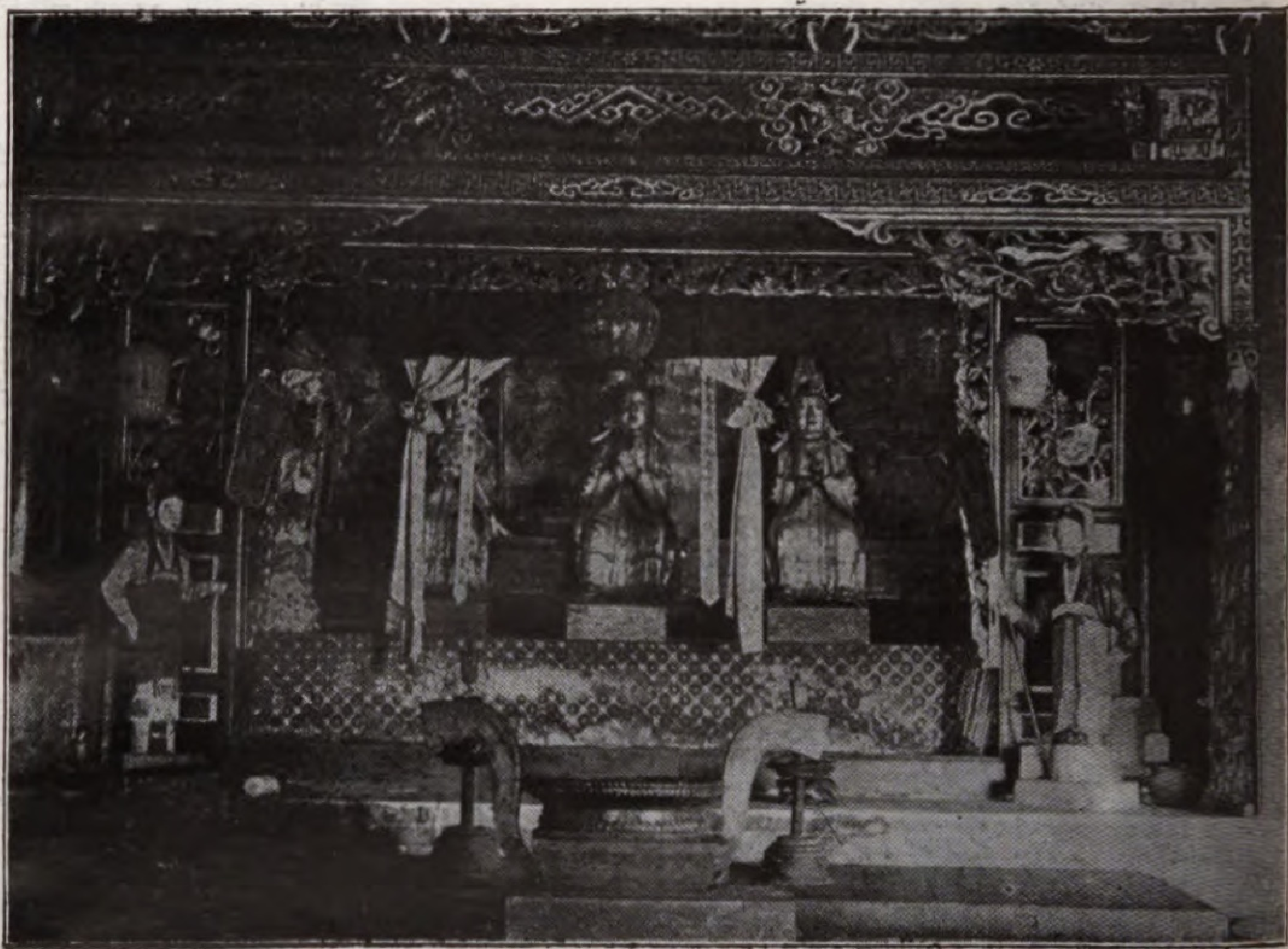
分水驛迄四哩七

營口を距る十四哩、營口支線の分岐點なり、舊大石橋は戶數約六百を有する村落にして西は近く營口を控へ北は遼陽、東は析木城、南は蓋平に通ずる四達の要路なるが故に露國は新に地を劃して玆に停車場を設け盤龍山下には煉瓦造の大廈櫛比す、日露の役、幸に兵燹を免れたるを以て建造物皆現存せり、現在附屬地の人口は邦人約九百餘淸人約二百餘なり

手荷物運搬 停車場に赤帽あり手荷物一個五錢

食堂 構内に食堂兼休憩所あり朝日軒と云ふ、階上に簡單なる宿泊所を設く、夜具料一夜五十錢、食事は和洋何れにても旅客の需に應ず

官衙、學校、病院等 兵營、警務支署、憲兵隊、滿鐵附屬地尋常高等小學校、滿鐵大連醫院



娘々廟内部

大石橋分院(入院料一等四圓二等二圓五十錢三等一圓二十錢食事附)(日本)牛馬税捐分局(清國)

●石材● 驛の東方六丁許に在る盤龍山より産出す、營口新市街の建築材料として多く使用せられたりと云ふ

●忠魂碑● 盤龍山上に在り日露の役大石橋、蓋平、海城、各兵站管區内戰歿者の爲に之を建つ

●娘々廟● 驛の西南三十丁、山上に海雲寺あり、古名刹にして趙公明の三妹雲霄、避霄、瓊霄を祭り娘々廟と稱す、毎歳清曆四月十八日大開聖會を執行し遠近より參

詣する善男善女雲の如く各種の興行物、露店等の賑ひ遼東第一と稱せらる、日露の役「クロパトキン」將軍此寺に屯し三軍を指揮せしことあり

梅林● 驛の東南一里に紅旗山あり、眺望に富み梅樹數百株あり花時は滿枝玲瓏玉を綴り暗香浮動す宛然滿洲に於ける一羅浮なり

◎**分水驛** Fen-shui.　　他山驛迄四哩九

◎**他山驛** Ta-shan.　　海城驛迄十哩三

◎**海城驛** Hai-cheng.　　南臺驛迄五哩七

市街● 驛の東南十二丁許に在り城壁完備、東西南北及小南門の五城門を有し街衢清潔、戶數二千餘人口一萬餘なり、本邦人の多數は城外西北方の鐵道附屬地即ち停車場に通ずる道路の兩側に在る支那家屋を修築して居住し其他は城內に居住す，城の內外を合し戶數約八百人口約三千餘あり

●手荷物運搬 停車場に赤帽あり手荷物一個五錢なり

●官衙、學校 郵便局、警務署出張所、兵營(日本)師範學堂、師範傳習所、初等女學堂、兩等小學堂(清國)

●孔子廟 小南門內の丘上幽靜閑雅の地に在り

●茅兒寺 城の東南約二里、地幽に境淨き一古刹なり

●旅館 海城ホテル、外三四あり旗亭を兼ぬ一泊二圓五十錢內外

◎南臺驛 Nan-tai.

湯崗子驛迄七哩五

◎湯崗子驛 Tang-kang-tzu.

鞍山站驛迄五哩八

●湯崗子温泉 驛を距る數丁の地に在り、唐の太宗高麗征討の際軍兵玆に金創を療せしと傳ふ東淸鐵道時代には露人の經營せし浴塲ありしが戰後邦人之に修理を加へ其面目を改む、四方の眺望廣潤、旅館金湯ホテルあり一泊一圓五十錢乃至四圓なり晝食は其半額

陸軍轉地療養所あり病兵此處に來つて療養す泉質は亞爾加里性にして透明無色、溫度は攝氏四十五度より七十度に至る、湯溜場約四百坪、以て遊泳すべし胃腸、脚氣、痿麻窒斯、創傷其他諸病に効あり分析成績左の如し

一、性狀　無色透明微に硫黃臭を放つ味特異の點なし、反應亞爾加里性にして比重一、〇〇五なり

一、鏡下所見　礦物質——固形物一里篤兒中約六〇〇、〇密里瓦——格魯兒一里篤兒中約六〇、〇

一、炭酸少量、燐酸微量、硅酸稍多量、硫酸多量、石灰少量、麻偶涅失亞痕跡、硫



湯崗子溫泉場

黄少量、鐵痕跡、那篤留謨少量、加留謨少量

此地に關する詩一二を擧ぐ

湯崗温泉　　明人　副使　徐　景　高

萬古温泉水、百年幾度遊、炎流從地發、暖氣欲天浮、風過亭台爽、山環景物幽、自憐多病客、不是濯纓儔、

同　　清人　府亟　姜　希　轍

首山山下水涓々、暖氣翻騰珠露圓、日護輕寒温室樹、雲飛廣漠華清泉、畫欄時遶靈川色、碧瓦平浮玉井烟、披滌塵襟清客況、春風已覺沐恩徧、

●千山●　溪山の奇勝、遼西の醫巫閭山と共に滿洲名山の雙璧と稱せらる、湯崗子驛の東方約六里に在り峰巒攢簇、層巖磊砢、千を以て數ふべし、是れ其名を得る所以にして山中溪谷の數四十八、奇勝百景と稱す溪壑窈窕、其山は危巖怪石、神劖鬼削の妙を極め、巨刹僧房翠微に倚り松風蘿月眞に塵外の仙寰なり、四時の風景各其趣を異にし春は百花妍を競ひ黄鸝亂れ啼き梨花溪に滿ちて白雲搖曳し、夏時は新綠滴るが如く飛瀑其間に懸つて雪を



千山龍泉寺

噴き珠を散じ、秋は千林霜に醉ひて二月の花よりも紅に、冬は四山の積雪松柏を埋め宛然畫圖の觀あり、蓮花、月芽、獅子、彌勒、淨瓶、盂鉢、海螺、漱瓊、松苔、上夾、下夾、筆架等の諸峰尤も奇を以て賞せられ、每溪必ず寺觀あり、佛寺は概ね唐の景德年間（約九百年前）及び明の萬曆年間（約三百年前）の建立なり、淸朝乾隆年間（約百五十年前）に至り道敎の宮觀二十餘基を建立して更に一山の光輝を添へ、歷代聖壽無疆の祈願所及朔方鎭守の祭壇となす、香巖、祖樾、龍泉、中會、大安の五大禪林中龍泉寺を以て其巨擘となし、建築の古雅は大安、中會の二禪林を推す二禪林間の懸崖には羅溪洞の奇勝あり、祖樾寺背後の斷崖には「獨鎭群嶽」の字を刻せる巨巖あり、香巖寺畔には唐の太宗（約一千百二年前）建つる所の古碑を存するも風打雨蝕して讀む可からず、寺畔千仞斷崖の頂仙人臺には神仙傳中九仙圍棋の石枰あり、宮觀には無量、圓通、靑雲、普庵、慈祥、鳳朝、雙龍、保珍、三淸、玄眞の十觀、洪谷、南泉、龍泉、木魚の四庵、五龍、朝陽、太安、泰和、東極、斗姥、聖仙、西映、聖淸の九宮あり、就中無量觀は規模最も偉麗にして巖頭を覆壓し山水の景雄峻奇拔略々龍泉寺と相若く、山中の寺僧は終年趺坐して烟霞に老い絕ねて塵寰に下らず泊



千山無量觀

然利に淡く懇に游客を遇し、唯香火の喜捨を受け敢て金品を求めず、其他臥象、獻寶、鵓鴿、歇仙の四臺、太極、煉魔、鸚鵡の三石、石佛、片石、花巖の三巖、玉皇、萬佛、觀音の三閣、松門、西湖の靈井、濯纓、振衣岡松石屛等の奇景勝峰一々應接に遑あらず乾隆帝千山を望むの詩あり

我聞古來稱奥區、必有名山爲作鎭、況茲遼陽實天府、義經已兆帝出震、長白巫閭衆所瞻、千山亦復高千仭、設在晉郊魯鄙間、太華泰岱堪齊峻、我來譙邑攬形勝、南望巑岏映青潤、朝嵐夕靄儼相接、巒光峰態如堪引、龍泉祖樾久聞名、靈蹟相傳半疑信、何時長嘯眺滄海（千山香巖寺中有仙人臺俯瞰蒼海如布凡席云）千仭岡頭衣始振、

又明の少卿徐文華の詩あり、神韻縹緲能く千山の勝を盡せり

雲烟廻合水潺湲、路轉陂陀百折還、上界鐘聲霄漢杳、前山塔影夕陽間、松濤漲壑千巖響、花雨浮空滿池斑、坐久虛堂疑誤入、恍然身世出人寰、

今千山觀光の順路を附記せんに早朝車馬を僦ひ湯崗を發すれば約五六時間にして千山西北の香巖寺に達すべく、此にて晝食し車馬は之を同寺に託し寺上約一里餘の山頂仙人臺附

近を探勝し再び同寺に返り若し騎馬なれば寺を隔てし下方の長谷より山を越て南に出づるを捷徑とす、一日にて往復せんとする者は香巖寺及仙人臺其他附近二三の古刹勝景を探り歸路に就かば夕には湯崗に着し略々千山を端倪するを得べし、又山中に一二泊し全山の勝を窮めんとせば更に山を越へて南面慈祥觀に至り再び南下して中會、大安兩寺に達し其一に一宿せざるべからず、大安寺より前路を復歸して北上し無量觀、祖樾寺、龍泉寺、南泉庵等を訪ひて一宿し翌朝歸途に就くを可とす、一宿の客は香巖寺より直に無量觀、龍泉寺に到りて此に宿



千山無量觀

するを便とす

◎鞍山站驛

An-shan-chan.

立山驛迄六哩四

列車の大連方面より鞍山站に到着せんとする前、車窓の右方鞍狀形の一山を望む是れ鞍山站の名ある所なり

●官衙● 兵營、警務署出張所

●摩天嶺● 驛の東方に當り千山と相並んで高く雲霄を摩するものは有名なる摩天嶺にして日露の役我軍敵の大逆襲を擊退せし激戰塲なり



摩天嶺（大日本第一軍忠魂碑）

◎立山驛 Li-shan.

馬伊屯驛迄五哩七

◎馬伊屯驛 Ma-i-tun.

遼陽驛迄六哩六

◎遼陽驛 Liao-yang.

張臺子驛迄八哩

●市街● 遼陽城市は驛より數丁にして達すべし其繁華奉天に次ぐ、滿洲に於ける舊都城の一にして唐虞三代には禹貢青州の域と稱し朝鮮に屬せし際には高勾麗城(約一千八百年前)の築かれし所なり、淸朝(二百八十六年前)曾て都を此地に定めたりしも(淸朝の東京城址は今の州城を距る約六里太子河の右岸に在り)後、奉天府に隷屬せしめ知州を置けり、城郭東西約二十四丁南北約十八丁、順安、普安、拱極、文昌、綏遠、豐樂の六城門あり、物資の一大集散場にして人家櫛比商賈雲集し鐵道の便に加ふるに太子河には舟楫の便あり、東淸鐵道時代に於ける各驛中規模宏大の一驛にして停車場附近煉瓦建物の數凡そ三百鐵道附屬地の面積百八十萬坪、城內戶數約五千三百餘、人口三萬六千餘、內本邦人戶數約百、人口四百餘、停車場より城門に通ずる鐵


至大連

道附屬地內には頗る繁榮なる日本町を成し、戸數九百餘、人口二千七百餘あり、城内居留民會と鐵道附屬地と兩立して自治の經營を爲す、停車場と城内の間に輕便鐵道あり延長五哩、日露の役「クロパトキン」將軍久しく此地に陣す、停車場の南の一官舍は乃ち同將軍の起臥したる處なりと云ふ

此驛に集散する主要貨物は鹽、麥粉、大小豆、豆粕、雜穀、野菜、絹綿布、銅鐵類、雜貨、酒類等なり

官衙、學校、病院、銀行等　高等司令部、兵營、領事館、郵便局、陸軍倉庫、滿鐵附屬地尋常高等小學校、滿鐵大連醫院遼陽分院（一等四圓二等二



遼陽停車場

圓五十錢(三等一圓二十錢食事附)陸軍病院、正金銀行出張所、遼陽時報社、本派本願寺出張所、基督教青年會(以上日本)

知州衙門、城守尉衙門、巡警局、衞生局、師範學堂、兩等小學堂、遼陽州立病院(以上淸國)

手荷物運搬 停車場に赤帽あり運搬賃一個金五錢なり

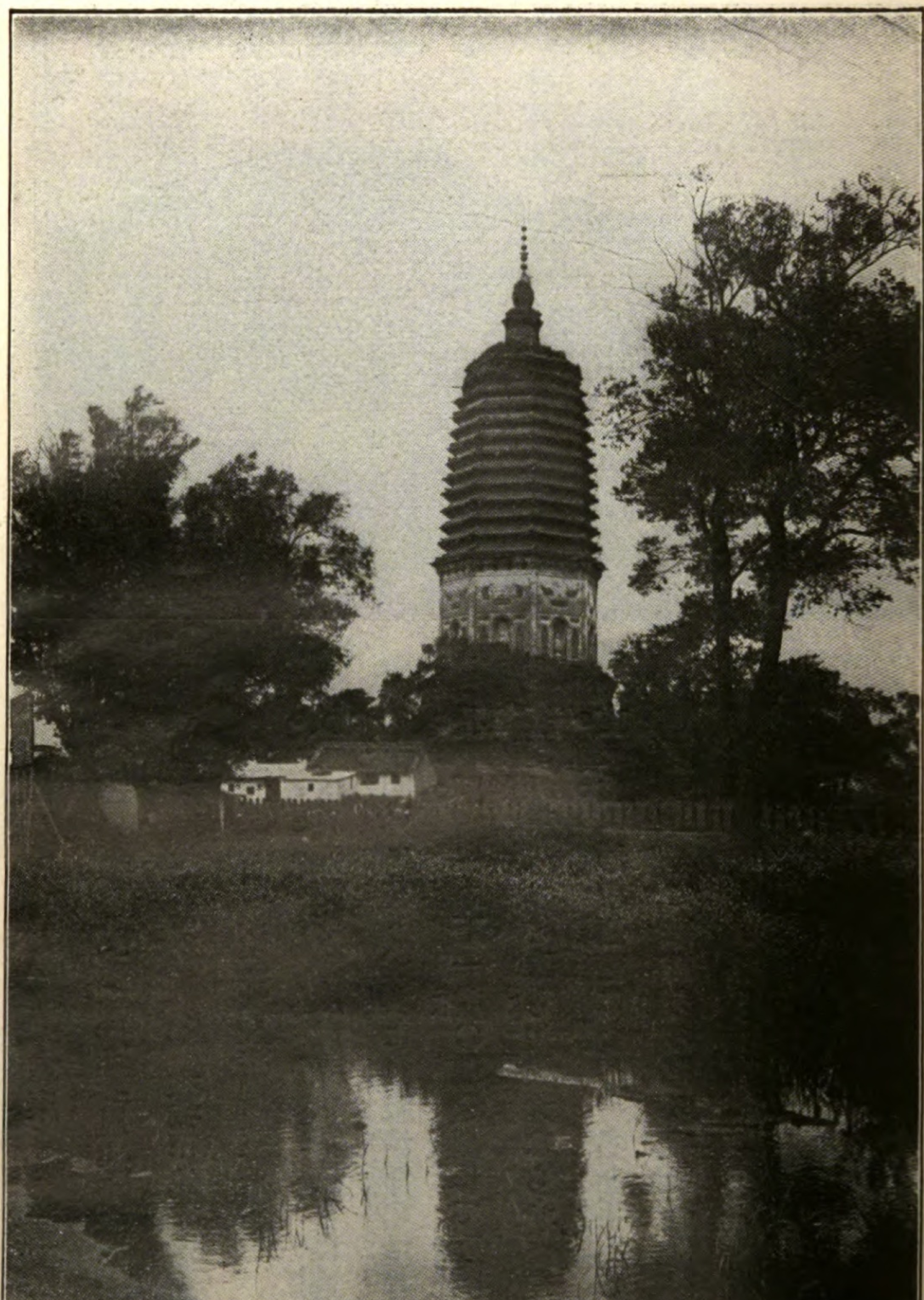
手荷物配達 到達手荷物を旅客の住所又は旅舍へ配達することを取扱ふ

食堂 停車場に構内食堂あり

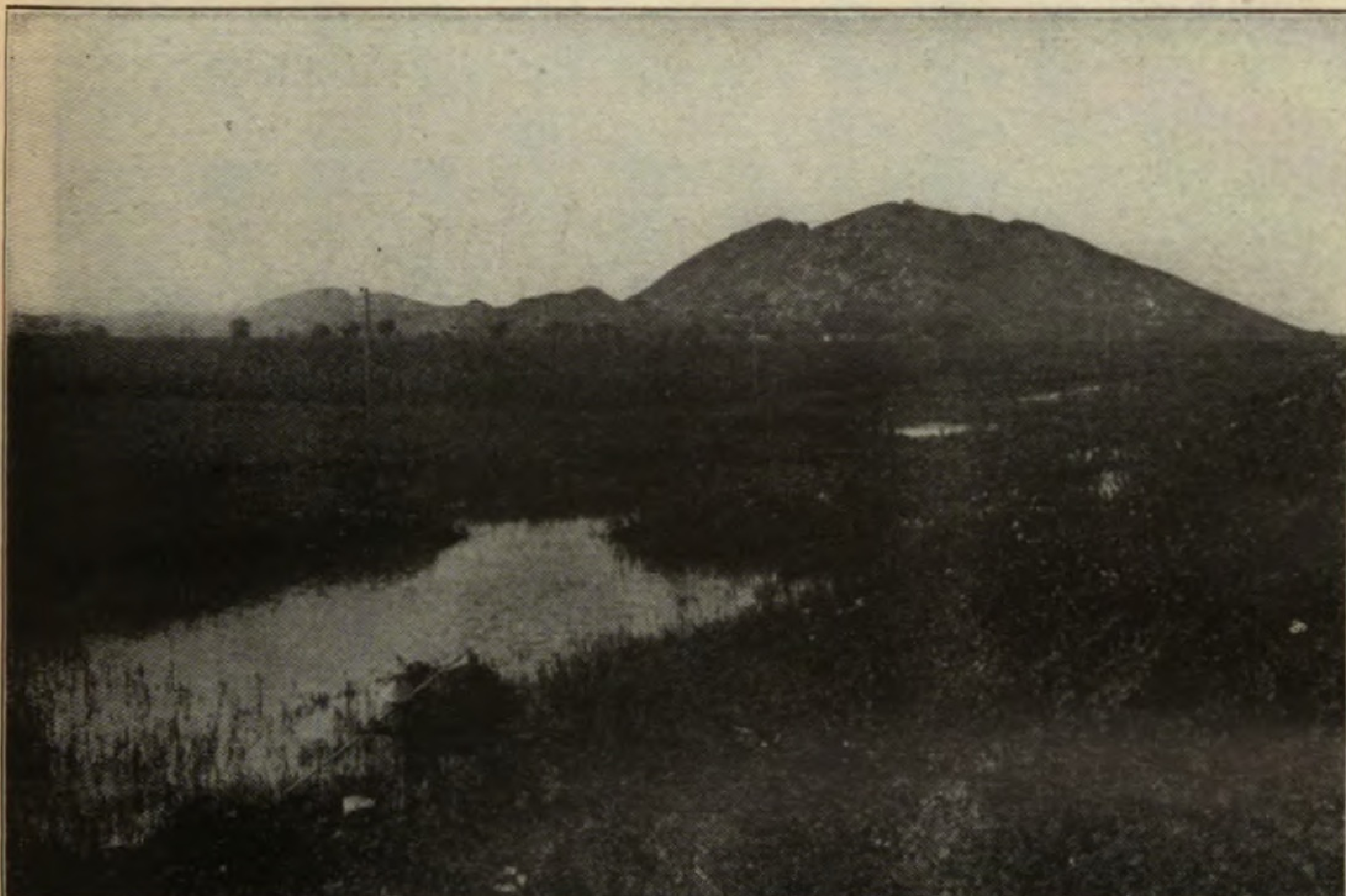
旅館 遼塔ホテル、藝陽館、滿洲ホテル、遼陽館等あり、一泊一圓五十錢乃至四圓晝食は其半額

忠魂堂 城の西門外に在り、日露戰役の陣沒者三千七百餘名を合祀し星光形の墓表屹立せり四隅の望樓を鎭魯、安國、撫韓、親淸と名つく

白塔 驛前高塔の半空に聳ゆるを白塔とす、一名喇嘛塔と云ひ周圍に佛像を刻む、或は漢代(約二千年前)の築造に係ると云ひ、或は唐代(約一千二百年前)と云ふ、詩あり



遼陽白塔



首山堡

禪宮多二歲月一、瑞塔積二風煙一、翡翠苔碑暗、珠璣寶相傳、馴レ鶯來二紫鴿一、湧池出二青蓮一、微雨輕埃洗、茲畏興獨偏、

●廣祐寺及蓮花寺　廣祐寺は白塔下に蓮花寺は南門外に在り、共に幽寂清淨の境なり

●公園　白塔下一帶の地を劃して公園となす樹林稍茂ると雖も規模大ならず

●首山　城の西南に聳へ一名を手山と云ふ山頂の大石に掌形あるを以て名づく、遼陽攻守上形勝の地にして日露の役、彼は精鋭を盡して死守し我軍力攻辛く奪取せし處所謂有名なる首山堡是なり、唐の太宗高麗を

征せし時亦茲に駐蹕し三軍を督せりと云ふ

⦿張臺子驛 Chang-tai-tzu.

煙臺驛迄五哩九

●●●●●石材及石灰　驛の東南方十餘丁なる龍王頂山の麓に老大臺の村落あり、戸數四百許村民多くは同山産出の石材及石灰に依り生計を立つ、石質黑くして光澤あり廣く建築用に需用せらる、邦人並に清人之を經營し飯塚工程局は山麓より停車場まで輕便軌道を敷き之を採掘しつゝあり

●●●燕巢城　驛の東北二里半、太子河右岸に位し唐代(約一千年前)の築造にして蓋蘇文の割據せし處今尙は殘礎を存せり、山下に仕官屯村あり其南方十丁許に皇姑墳あり傳へ云ふ淸の太祖の公主を葬りし地なりと

●●●●●●●羅祖洞及捿雲寺　驛の東南三里餘に羅祖洞あり石棚中に泥塑佛像一坐を安置す、明代(約五百年前)の築造に係る、像背に天洞穴あり高さ人の行走するに足る、洞奥深くして未だ探り得たる者なし

捿雲寺は唐の太宗の朝(約一千二百年前)名將敬德其命を受けて匪徒を討平し功を修めて建立せしものにして側に石碑あり、當年の事を記せるも風霜の蝕する所となり讀むべからず夫より北方に古城址あり城東の沙坎山上に名華表、山下に石洞幷に石柱あり、傳へ云ふ明の丁令威、成仙の地にして後鶴に化して遼陽西關に至り橋上に立ちて歌を作る云々、歌は刻して名華表に存す

◎煙臺驛 Yen-tai.　沙河驛迄十哩六

●炭坑● 驛の東方三里に在り奉天府の東南部に位す、東淸鐵道時代には驛より支線を延長して之を經營し日露の役我軍の手に歸せしより撫順占領前迄は之を採掘し軍用列車其他の燃料に供せり、炭質概ね軟かく塊炭亦脆くして碎け易く多くは粉炭となる、烟は至て少く火附き惡けれども割合に火力強く能く持久す、此炭坑の發見者は唐代(約一千年前)の人、姓を李と云ひ之が爲め五品に叙せられたりと傳へられ該地方到る處老君廟を立てゝ李を祀る炭坑は目下尙ほ探鑛中に屬し第一號乃至第三號の三坑を堀進し、第一號横坑は總延長三百

二十八尺に達し目下一日約六十噸の出炭を見るに至れり、第二號及第三號坑は或は炭層の薄き爲め、或は湧水の多量なる爲め其堀進を中止せり

◎沙河驛　Sha-ho.　蘇家屯驛迄五哩八

日露の役奉天の戰機未だ熟せず時恰も酷寒に際し堅氷深く地を封し、彼我の兩軍河を挾んで對陣數月、一旦機熟するに及んで忽ち修羅焦熱の場に變じたる所なり、沙河會戰の當時故兒玉總參謀長作あり

　鳩公意氣大、欲三來決二雌雄一、沙河秋高處、唯任守與攻、恃レ衆謀何拙、連軍山東西、遼陽軍容靜、旭旗飜二天風一、曉渡二太子河一、已見レ壓二露戎一、突破喊聲頻、南北勢不レ同、戰血染二山野一、總在二荒涼中一

萬寶山　驛の東方約一里半、地勢最も攻守に利なりしを以て沙河會戰後彼我爭奪の地點たりしかば今に慘憺の痕を留め轉た當年の光景を偲ばしむ、戰死將校鵜澤中佐以下將卒八百餘名の弔魂碑は山上に在り攀登すれば一帶の丘上塹壕堡壘の跡歷々指點すべし、露人の所謂



沙河萬寶山

「プチロフ」山是なり「プチロフ」は當時露軍の將なりき

●●●地獄松原　驛より約五丁沙河鐵橋の右側平原中一帶の松林あり日露の役彼我の死傷算なく最も慘烈を極めたり、樹身の彈痕蜂巣の如く殘枝尚ほ腥風を含む

〇蘇家屯驛 Su-chia-tun.

渾河驛迄四哩四

驛は撫順支線の分岐點なるを以て撫順炭坑視察に赴かんとする者は此驛にて撫順行列車に乗換へ千金寨驛に下車するを便とす

〇渾河驛 Hun-ho.

奉天驛迄六哩

奉天驛





奉天驛 Feng-tien.(Mukden.)

文官屯驛迄七哩五

驛は奉天城を距る約一里、旅客の乘降每月四五萬を算す、京奉鐵道との連絡點にして車行一日新民屯、溝幇子を經て山海關及營口に達すべく又我安奉支線の分岐點にして滿鐵全線中長春と伯仲の間に在る主要驛なり、驛より小西邊門を經て城內に通ずる大道は坦々砥の如く馬車鐵道を敷設せり

●●●●●●●●●小荷物運搬及市內配達　停車場に赤帽あり運搬賃一個五錢なり又市內へ手荷物の配達を爲す

●●食堂　構內に食堂の設け二あり、一は外人の經營にして一は日本人なり

●●市街　奉天府は奉天省の中央に位し清朝發祥の地なり、明代(五百二十年前)に於ては瀋陽衛の城堡なりしが淸の太祖奴兒哈赤、興京に起り之を攻略し改めて盛京(二百八十五年前)と稱す、太祖奠都の當時群臣に告げて曰く、瀋陽は形勝の地、西明を征するに都爾弼より遼河を渡れば路直にして且つ近し、北蒙古を征するに二三日にして至るべく、南朝鮮を征するに淸河の路より進むべし、且つ渾河と蘇克素護河の上流より伐木し流に順つて下

だし之を以て宮室を治め炊爨に供せば勝て用ふべからず、時々出獵せば山近く獸多く河中の水簇も亦捕取すべし、朕之を籌ること熟せり云々、以て滿洲第一の要都たるを知るべし、城府の規模雄偉壯麗にして四方回らすに磚瓦を以てし、周圍約一里半高三丈餘巾一丈餘四面各二門を開き東を大東門、小東門、西を大西門、小西門、南を大南門、小南門、北を大北門、小北門と云ひ各門に樓あり城角に高樓あり、城內別に二個の樓閣あり東なるは鐘樓、西なるは鼓樓にして鼓を擊ちて晨を報じ鐘を撞て晩を報ず、街衢四達老舖軒を並べ、商賈麕集百貨



奉天小西門

輻輳す、其貿易區域は南滿洲の全部及中部滿洲の大半に亘り東北、朝陽鎭、海龍府より北鐵嶺、開原、奉化、長春を經て哈爾賓方面に至り西は新民府に及ぶ、輸入品の重もなるは鹽、綿布、綿絲、石油、鐵器、粗製陶磁器、海産物、雜貨等にして主要輸出品は大豆、豆粕、豆油、雜穀、獸皮、麻、烟草等なり、人口十六萬八千餘、戸數四萬餘滿洲第一の大都會なり

日本人は城内城外を併せて約三千八百餘人内附屬地に住するもの一千四百餘人あり、驛より城に達するの間は既に日本街を形成せり、奉天居留民會と鐵道附屬地と分立して各自治的經營に任じ日々繁榮に赴きつゝあり

停車場より小西門外に至る路に日清人の經營に係る馬車鐵道あり絕えず往復し交通に便す全線賃銀洋拾錢なり

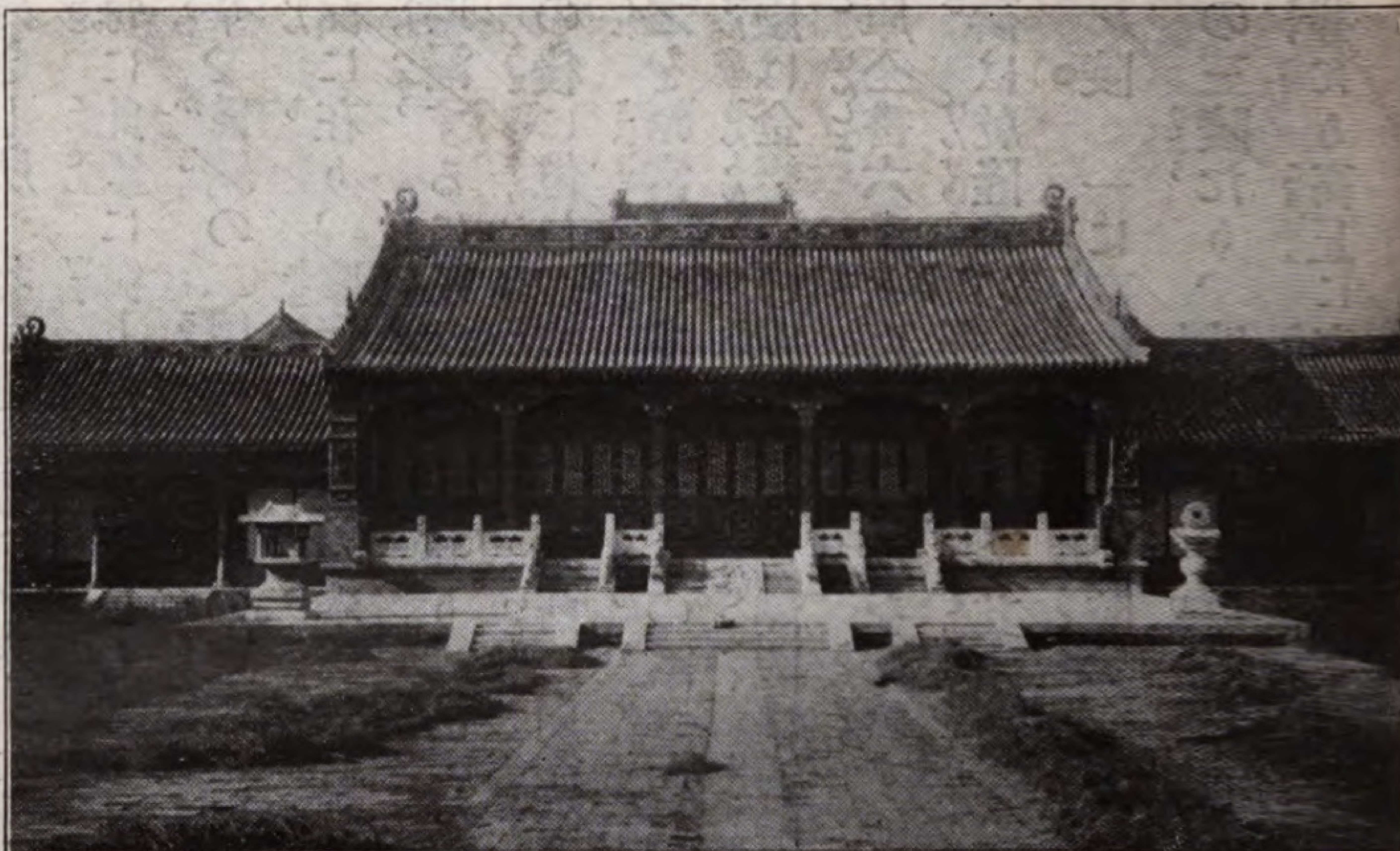
●通貨● 紙幣としては正金銀行鈔票（一圓、五圓、十圓）、軍用手票、兌換紙幣（以上日本）奉天官銀號銀元票（一角、二角、三角、四角、五角、十角、及一元、五元、十元）、銀貨は大清銀行銀元及北洋、墨西哥弗、香港、吉林等の各銀元あり、小銀貨は各省のもの雜用せらる（五錢、十錢、二十錢、五十錢）、銅貨は各省のもの行はるゝも奉天

機器局鑄造のもの最も多し、其他固有の貨幣とも云ふべきは馬蹄銀(量目一定せず普通五十三兩二匁)、制錢(日本の壹厘錢の如きもの)にして前者は清國人間及對日本商の大取引に用ひられ、後者は清國人間に銅貨の補助として用ひらるゝのみ

官衙、學校、銀行、病院等 日本總領事館、警務署、郵便局、城内郵便局出張所、兵營憲兵隊、滿鐵附屬地尋常高等小學校、奉天衛戍病院、滿鐵大連醫院奉天分院(入院料特等十圓、一等五圓、二等三圓、三等一圓五十錢、食事附)赤十字社病院、奉天居留民會、横濱正金銀行出張所、三井物産會社支店、大倉組、岡村鐵工場、硝子製造所、石鹸製造所、盛京時報社、南滿日報社、内外通信社、(以上日本)米、英、露、獨各領事館、英米煙草トラスト(以上外國人)

東三省總督衙門、奉天巡撫衙門、交渉局、財政總局、東三省鹽務總局、巡警總局、郷鎭巡警總局、農工商務局、發審處、承德縣衙門、興仁縣衙門、備補巡警營、自治局、礦務局、墾務總局、木税局、硝磺局、牛馬税局、斗秤捐局、機器銀元局、官銀號、尋常小學堂、中學堂、陸軍小學堂、女子師範學堂、女學堂、實業學堂、習藝所、師範學堂、滿洲學

堂、體操傳習所、學務公所、警務學堂、農事試驗場、商品陳列館（男女各別に隔日に縱覽せしむ入場料一人銀二錢）東三省日報社、（以上清國）



奉天宮殿

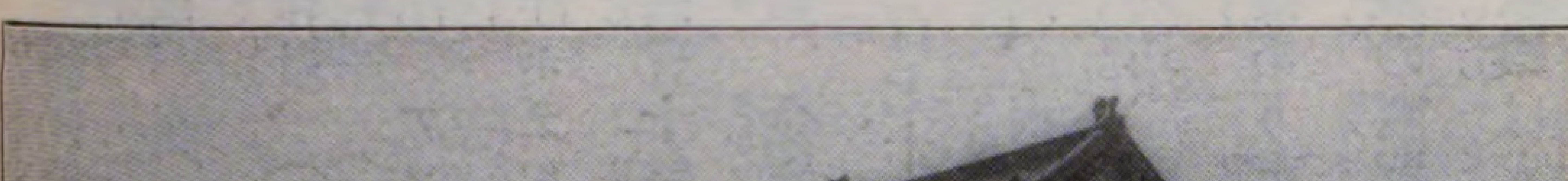
●旅館●　アストル、ハウス（城內）瀋陽館、扶桑館、東洋ホテル、奉天旅館、（城外）等あり、宿泊料一圓五十錢乃至五圓晝食は其半額

●宮殿●　金鑾殿と稱し城の中央に在り、崇德二年（二百七十二年前）の建造に係る、東西五百五十餘間、南北百四十餘間、東門を文德坊、西門を武功坊、南門を大清門と云ふ、門內の東西に二層樓あり東を飛龍閣とし西を翔鳳閣とす、宮內所藏の寶器收めて此閣に在り

崇政殿は大清門內の正面に在り往時皇帝の政を

聽きし所、北京遷都後諸帝奉天に幸せらるゝ毎に此殿に御し朝儀を行ひしと云ふ、其他日華、霞綺の二樓は崇政殿の東西に鳳凰樓は正面に在り、歷代の聖容を奉安せられしも屋樓壞漏するに及び之を移せり、清寧宮は鳳凰樓の後に位し、太宗文皇帝此に崩御せられ後世之を祭宮と稱す、又高官の議政所たりし大政殿は金鑾殿の東隣に、文溯閣は西隣に在り四庫全書六千七百五十二函を珍藏す、文溯閣の碑は乾隆帝の御製にして其宗高宗論を刻せり

●福陵● 一に東陵と稱し北陵、永陵と共に滿洲の三陵たり、城の北東三里、渾河々畔樹木鬱蒼たる高丘に在り、天聰三年二月(二百八十一



奉天東陵

年前）太祖高皇帝を葬る、同八年十月（二百七十六年前）陵土を封じ寢殿を建て松樹を植ゑ石象、獅虎、駝馬等を配列し、順治八年（二百五十八年前）增修工成り名けて天柱山と云ふ、築くに黄土を以てし後方は圓形にして前方は半月形を成し環らすに寳城を以てす、周圍百餘間隆恩殿と稱する寢殿あり、高皇帝高皇后の神位を奉安す、前に隆恩門あり中央に福陵聖德神功の碑あり、康熙帝の撰に係る

大清一統志に曰ふ天柱山は承德縣の東二十里（淸里）に在りて福陵あり近くは即ち渾河前に環り輝山興隆嶺後に峙ち遠くは即ち源を長白に發し俯して滄海に臨む、洵に王氣の鍾まる所なり云々

乾隆帝福陵に謁するの詩あり

草昧起二英雄一、維皇乃眷東、風雲龍虎會、日月海天中、帝業千年鞏、山陵萬古崇、永維無レ競レ烈、繼序失二深衷一

又

天柱隆崇萬載亭、福貽二奕葉一藉二威靈一、風雲儼若レ通二神緯一、龍虎常如レ護二帝扃一、黍稷



奉天北陵

一時陳二俎豆一、瞻依千載易二霜星一、敬觀二實錄一思ニ開創一、毎レ悉ニ艱難一涙雨零、

●昭陵● 又北陵隆業山と稱す、奉天の北方一里餘の高地に在り、順治元年八月(二百六十一年前)太宗文皇帝を葬る、山陵の垣周九百餘間其他福陵の制に同じ、寢殿には文皇帝文皇后の神位を奉安し昭陵と名づく、碑に昭陵聖德神功の六字を刻す、康熙帝の撰に係る、懿靖貴妃の寢陵は陵の西方に在り

大清一統志に曰く、隆業山は承德縣の西十里(清里)に在りて昭陵あり、城の東北より疊巘層巒此に至て寛平宏敞萬象を包羅し八荒を統御するの勢あり、遼水右に回り渾河左に繞

り輪囷葱欝永く丕基を固む云々

乾隆帝昭陵に謁するの詩あり

早是天歆レ漢、何曾鹿逐レ秦、百年經二五世一、一壘豈三旬、太室烝嘗永、元宮松柏新、紹庭懷二積悃一、展拜此時申、

丕顯丕承王業昭、肇レ基景レ命大淸朝、那同鼎足分二三國一、可レ擬戎衣定二一朝一、兩白常趨石馬汗、萬靑永護玉峰標、元孫五世親陳レ奠、僾偯聲容未レ覺レ遙、

昭陵の前、石馬二あり曰く大白、曰く小白、蓋し詩中云ふ所の兩白は即ち之を指すもの文皇帝昔日乘用せし愛馬にして以て陣を略し堅を破る、帝體軀豐かにして鎧重し小白に騎れば一日能く百淸里を行き大白に騎れば五十淸里を行くに過ぎざりしと云ふ

史を按するに淸朝の始祖、肇祖原皇帝興京地方に起り其玄孫を興祖直皇帝と曰ひ、父子相傳へて景祖翼皇帝、顯祖宣皇帝の諸帝に及ぶ、其陵墓は共に興京方面に在り永陵と稱す奉

●●●天より約三十七里

記念碑　奉天城大西邊門より約十六丁砲彈形の一碑屹として曠野の中に聳ゆ、是れ奉天大會



奉天東門外喇嘛塔

戰に陣歿せる我勇士の記念にして此の處實に當時の戰線五十里に亘れる中心地點なりしと云ふ

其他迎賓館、魁星樓、浙江會館、北城二臺子、三坐塔、試驗廠、編集教練所、試驗興藝十一廠、東西南北喇嘛塔、財神廟、大淸宮、火神廟、徑有宮、斗母宮、黃寺、僧玉寺、三賢寺、左公寺、辰公寺等あり

●●●●京奉鐵道　奉天より北京に通ずる鐵道にして奉天停車場西北半哩弱の處に起點瀋陽驛あり、該驛と奉天驛を連結し京奉線乘換者に便せん爲め列車は奉天驛に在て客を迎ふ、但し切符は瀋陽驛着の際購入するを要す、尙京奉線と我南滿線との間には連絡切符發賣の便法あり、南滿線に在ては大連、旅順、遼陽、長春の各驛に於て、京奉線に在ては新民府、山海關、天津、北京の各驛に於て之を發賣す



奉天滿鐵小學校

日露の役我鐵道大隊は奉天驛新民府間の鐵道を布設し、之を新奉線と云ひしが明治四十年之を淸國に讓渡せり

◎文官屯驛　Wen-kuan-tun.　虎石臺驛迄四哩六

◎虎石臺驛　Hu-shih-tai.　新城子驛迄七哩六


◎新城子驛　Hsin-cheng-tzu.　新臺子驛迄七哩五

◎新臺子驛　Hsin-tai-tzu.　得勝臺驛迄十哩七

懿路市　驛の東方一里餘に在り往昔高勾麗(約一千八百年前)の古城址にして奉天鐵嶺間の要路に當り附近物資の集散地たり、人口一千弱を有し淸兵屯營す

◎得勝臺驛　Te-sheng-tai.　鐵嶺驛迄五哩九


關東倉庫支庫
兵營



⑼ 鐵嶺驛 Tieh-ling.

平頂堡驛迄六哩七

市街 鐵嶺城市は驛を距る約十丁、大道直に西門に通ず此地は昔時銀州と稱し奉天を距る北方約二十一里、城は明の洪武二十六年(五百十六年前)に創建せられ、清朝の康熙三年(二百四十五年前)縣を設く、城廓は磚造にして周圍二十四丁餘高さ二丈、四門を有す、東を德安、西を學澤、南を薰阜、北を瞻斗と云ふ、乾隆四十七年(百四十七年前)修理を加へ道光年間(約七十年前)更に補修せしも今は頽廢に委せり、戸數約四千五百人口約三萬餘人なり、西門外より停車場に通ずる一體の地域は殆ど日本町を形成し、人口約二千八百内附屬地に住するもの約六百あり、鐵嶺居留民會と鐵道附屬地と各自治的經營を爲す

此地は遼河に瀕し且つ鐵道の便あるを以て附近一帶の豐富なる農產物は多く此地に集まり大豆のみにても其額年々六十萬石に達す、蓋し遼河々岸の都市中大豆の最大集散地なり隨つて商人の大なるものは大底皆穀物問屋にして期糧即ち穀物の定期取引甚だ盛なり、輸出入品の重なる貨物は大小豆、豆粕、雜穀の外野菜、鹽、麥粉、絹綿布、海產物、銅鐵類、砂



龍首山より鐵嶺を望む

糖等なり

●小荷物運搬　停車場に赤帽あり、運搬賃一個金五錢なり又市内へ手荷物の配達を爲す

●馬蜂溝　遼河の水は北方石水頭より縣内に入り城西約三十丁馬蜂溝を過ぎ更に南流して承德縣に入る、此地は元鐵嶺に於ける物資の唯一呑吐口にして巨額の大豆營口方面に輸出せられ又各地方よりの輸入品夥しかりしが鐵道開通以來物資の此地を經るもの著しく減少せりと云ふ

●官衙、學校、病院、銀行等　領事館、

警務署支署、郵便局、兵營、憲兵隊、滿鐵附屬地尋常高等小學校、滿鐵大連醫院鐵嶺分院(入院料一等四圓、二等二圓五十錢、三等一圓二十錢、食事附)鐵嶺病院、回生療病院、横濱正金銀行出張所、三井物産會社支店、官煙專賣局出張所、商品陳列館、製粉會社、鐵嶺新聞社(以上日本)知縣衙門、防守尉衙門、交渉公辦處、捐稅總局、牛馬稅局、斗稅局、巡警衛生總局、中國電報局、中國郵便局、鑛政分局、奉字軍前路同硝營、中學堂、師範傳習所、高等學堂、兩等學堂、半日學堂、女學堂(以上清國)

●旅館● 松華ホテル、高砂ホテル、鐵嶺ホテル、近江屋、福屋等あり、一泊一圓五十錢乃至七圓晝食は其半額

●三清觀● 慈清寺は鐵嶺城東の龍首山上に在り、明朝(約五百年前)の建造にして寺前の古塔は所謂三清觀たり、此山上一圓今は鐵嶺公園となり鐵嶺



鐵嶺製粉會社

倶樂部あり、脚下に全市を俯瞰し柴河の清流溶々として其山麓を繞り遙に遼河の白帆を望み、東方は長白山の餘脈起伏連亘し、西方遠く蒙古の天を指すべし

●圓通寺　寺中に十三級の白塔あり、今を距る一千年唐初太和二年の建造にして鐵嶺最古の建築物たり、寺は明の萬曆年間(今より三百二三十年前)の創立にして城内の西北隅に在り其他城隍廟、關帝廟、火朝廟、龍母廟、七聖祠、三官廟、祖越寺等の古祠刹及鐵嶺八景の山郭朝煙、柴河晚渡、帽峰雲樹、蓬渡風帆、龍首尋秋、鴛湖泛月、白塔橫雲、紅崖積雪等皆見るべし

㊣平頂堡驛 Ping-ting-tai.

中固驛迄六哩七

●高力站　南方二十餘丁に高力站と稱する一村あり、鐵嶺開原に往復する本街道に當り昔時より同方面各官衙の往復公文書は凡て此地に於て中繼をなすを常とす、即ち駐站なるものあり驛亟を駐在せしめ其部下に四五名の驛傳を使役して今尙公文書の遞送を爲せり

㊣中固驛 Chung-ku.

開原驛迄七哩四

◎開原驛 Kai-yuan.

馬仲河驛迄十二哩一



玉蜀黍の碾碎

市街　開原の市街は驛の東方約一里半に在り、戸數約四千人口約二萬八千を有す、城は明の洪武二年(今より五百三十九年前)に創建せらる、城廓は磚造にして周圍二里餘東西南北及中央の五門を有す、南は鐵嶺、北は昌圖、西は法庫門、通江口、東北は西豐(掏鹿)、西安(大疙疸)、東平(大肚川)の三縣に通ずる大道路あり、頗る要地なるを以て市況稍盛にして附屬地と相待つて大豆の集散地たり、其額近年六十萬石に上れり、大豆の外綿布、銅鐵類、豆粕、雜穀、砂糖等を重なる集散貨物とす、城の內外店舖多けれど重なる問屋は數戸に過ぎず

●鐵開原● 停車場附近を鐵開原と云ひ清國人漸次此所に居を移し今や二百戸に及べり

●官衙● 警務署出張所、郵便局、兵營(日本)、知縣衙門、城守尉衙門、巡警局等(清國)

金溝子驛 Chin-kou-tzu.

馬仲河驛迄六哩三

馬仲河驛 Ma-chung-ho.

昌圖驛迄六哩二

●馬十臺邊門● 所謂萬里の長柵に於ける邊門にして邊外は蒙古に屬す、門に上りて矚望すれば波狀を成せる原野一望數十里、明代の長柵は尙ほ四五尺の柵址を存し蜿蜒として左右に延ふ左、遙に法庫門を控ふるもの是れ西關にして約十里を隔て、右は鐵路を橫斷して威遠堡門に連なるもの即ち東關にして相距ること四里なり

昌圖驛 Chang-tu.

滿井驛迄四哩六

●昌圖府● 驛を距る西北二里、府を開きしより僅に三十餘年にして未だ城廓を有せず、由來長柵以北の地は蒙古に屬するも今を距る百五十餘年前より清人の柵を越ゑて北進する者多く

移民年を逐ふて増加し土人は内蒙古に驅逐せられ遂に戸數二千五百餘、人口約一萬四千餘の一都府を建つるに至れり、故に此地一帶蒙古人を見ざるも府中蒙古地局なるものありて地租の徴收に從事す、現今居住本邦人は城内四十八人鐵昌圖二百餘人なり

●手荷物運搬●　停車場に赤帽あり、運搬賃一個金五錢なり

●食堂●　構内に食堂の設けあり

●通江口●　約九里を距てゝ通江口あり、以前は遼河流域中屈指の物資集散地にして年々集散の大豆百萬石に上りしことあり、穀物問屋は皆城廓を構へ大なるは資本金三四十萬兩小なるも尚十萬兩を下



牧蓄

らず其勢甚だ盛なりしが兩三年以來貨物の水運に依るもの頓に減少し、問屋の多數は閉店し市況落寞を極む

今より約三十年前迄は篷船の航路は奉天までに限られ是より以北の溯航を許さず、故に北部の産物は奉天に陸送し然る後、遼河に依り營口方面に運漕せられしが長柵外即ち蒙古領に清國の移民漸く增加し遂に奉化縣（賣買街）及昌圖府の新設を見るに至りてより光緒三年（三十二年前）右の禁を解き通江口を碼頭となし、稅局を設け篷船の奉天以北に航行するを許せり、爾來三年前上流の三江口が開放せらるゝに至るまで通江口は遼河篷船航路の最終點たりしなり、鐵嶺を距る北方約十里、營口を距る水路約百六十里、陸路六十三里餘

官衙、學校、病院等 奉天總領事館出張所、郵便局、警務署出張所、兵營、滿鐵附屬地尋常高等小學校、滿鐵大連醫院昌圖出張所（日本）知縣衙門、昌圖病院（清國）

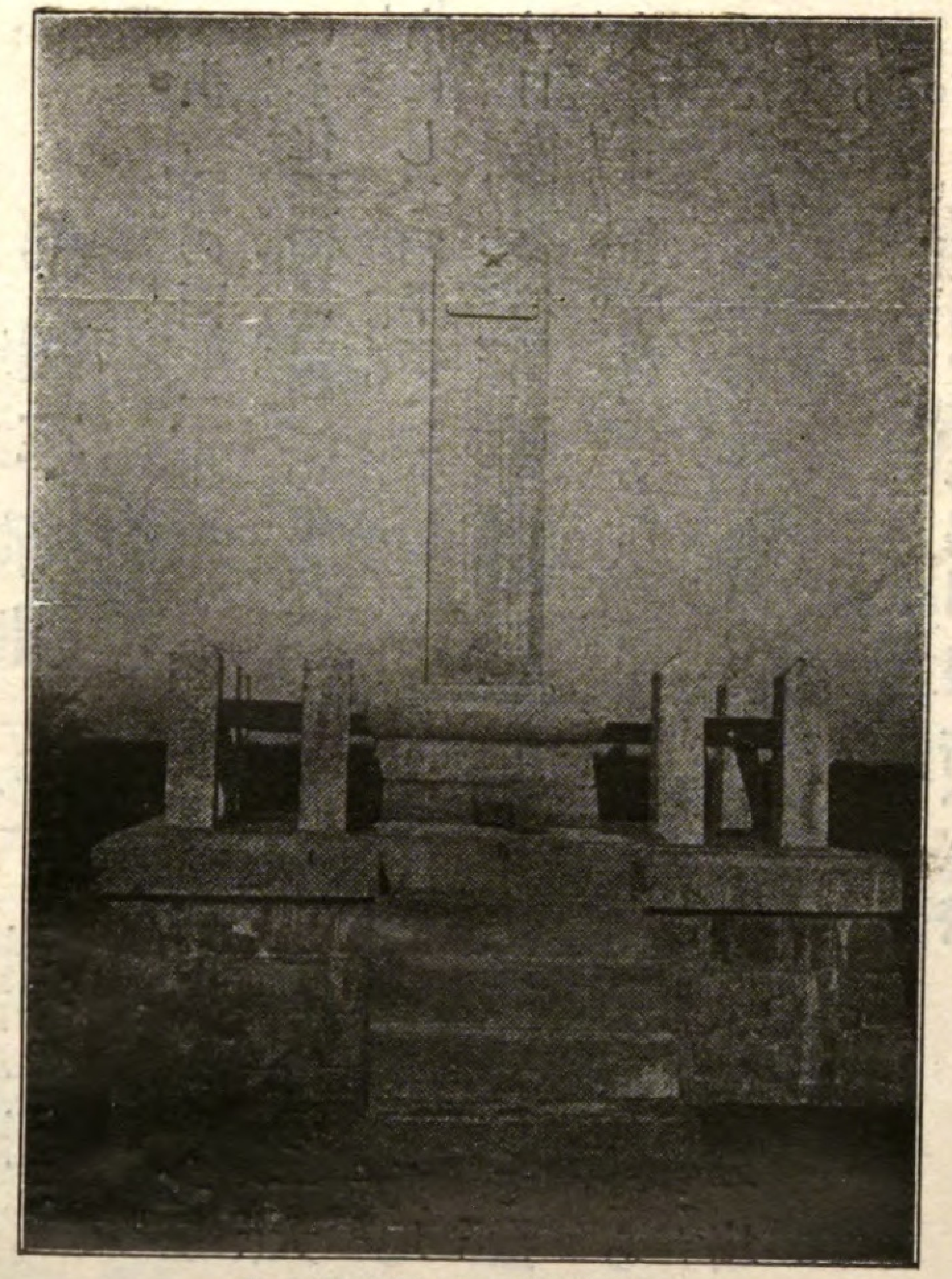
鉢卷山 驛の北方十八丁、日露兩軍最後の對戰場にして山嶺より望めは彼我防御陣地土工の跡、十數里に亘り連綿たる塹壕最も規模の大を極む

梅林 昌圖府に隣れる一村を双樹子と云ふ、戶數僅に三十餘村内梅杏、林を成し老幹奇古

花時の眺望尤も好く朔北得難きの風致あり

◎滿井驛 Man-ching.

◎雙廟子驛 Shuang-miao-tzu.



郭家店附近田村中尉の碑

雙廟子驛迄十一哩

四平街驛迄十七哩五

●八面城及鷲鷺樹　八面城は驛の西北約七里に在りて戸數一千七百人口八千內外、鷲鷺樹は戸數百五十許人口一千餘、大豆、高粱、豆粕等を產し共に雙廟子驛を經て各地に輸出せらる

●官衙　兵營、警務署出張所等

◎桓勾子驛 Huan-kou-tzu.

四平街驛迄十一哩九

四平街驛 Szu-ping-chieh.

十家堡驛迄九哩七

市街 驛の西北二里許に在る小村落なり北方七里に奉化縣(賣買街)あり戸數三千、人口一萬餘の一大市にして四平街に搬出せらるゝ農產物夥し、此地は日露戰役後第一次彼我兩國委員の會見地にして撤兵及其順序を定めたる所謂四平街覺書の調製せられたる處現今獨立守備隊の在る處は即ち其會見塲たりき

官衙 郵便局、警務署出張所、兵營

十家堡驛 Shih-chia-pu.

郭家店驛迄六哩七

郭家店驛 Kuo-chia-tien.

大楡樹驛迄十二哩



郭家店停車場

郭家店 は驛より東北約十丁許、人口僅に一千餘なるも東は伊通州に達する吉林街道、西は奉化を經て八面城に通ずる要衝に當れり、日露講和前兩軍最後對陣の際、露の總司令官リチウヰッチ將軍の駐屯せし處なり

官衙 警務署出張所、兵營(日本)巡警隊一小隊(清國)

大楡樹驛 Ta-yu-shu.

公主嶺驛迄四哩九

公主嶺驛 Kung-chu-ling.

劉房子驛迄六哩六

公主嶺 一に公主陵又は公主靈と稱し驛を距る北方一里許に在り、現停車場所在地は四面廣漠たる南北滿洲の境界線にして南方一里餘に遼河の流あり元、寥々たる一寒村に過ぎざり



公主嶺停車場


しも露國は軍事上之を重要視して經營に腐心し、停車場附近に於ける煉瓦丸物の數、三百に達し其壯觀遼陽に譲らず、驛東新市街に面し露人の建築したる規模雄大なる劇場の如き此地を重視せし一例なり、鐵道附屬地の面積凡二百萬坪、近年頃に商業市場として發達し清國人移住者漸を以て增し、本邦人の來るもの亦多く兩々相待て一市街を形り其人口邦人約一千三百、支那人一千二百を算するに至れり

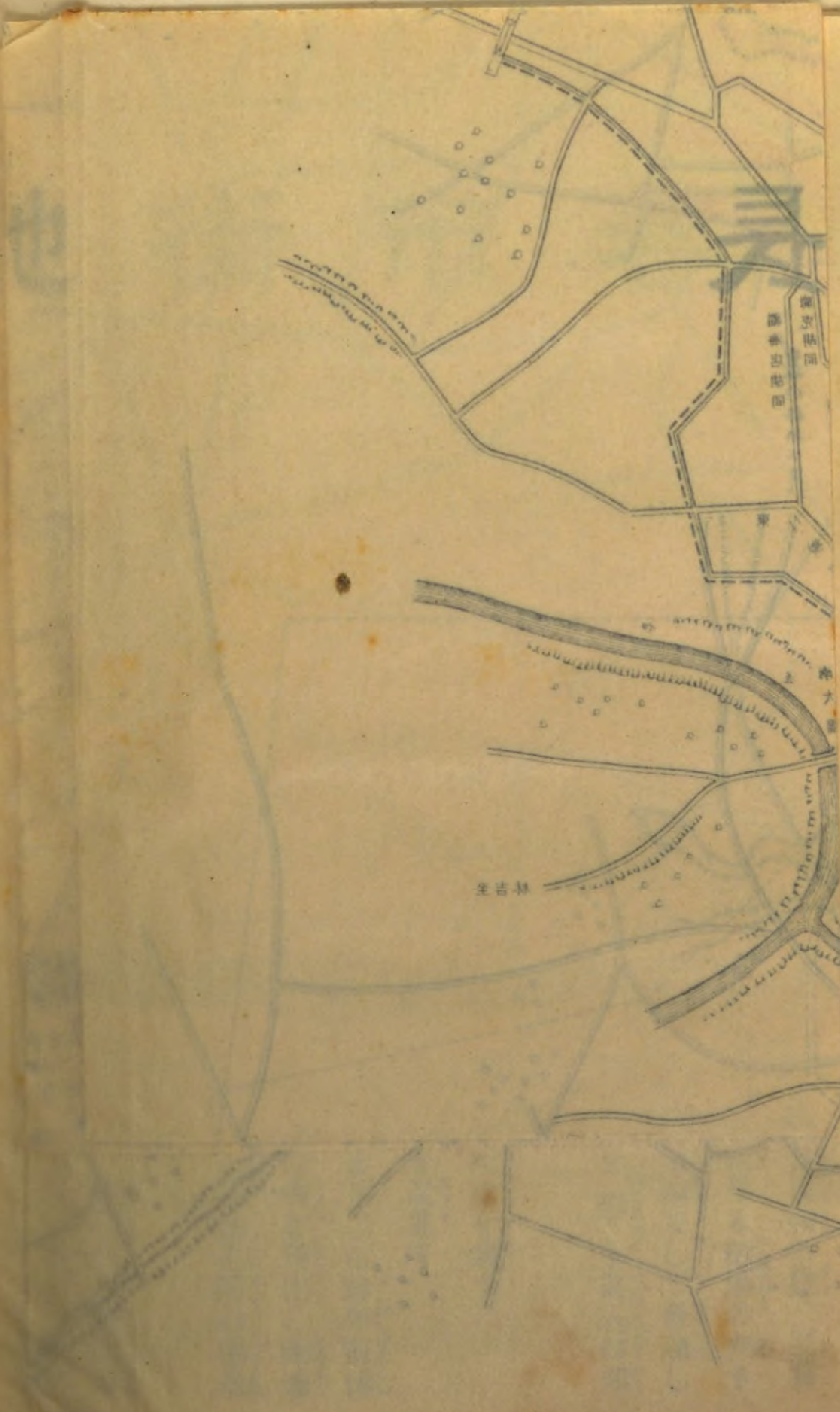
●小荷物運搬　停車場に赤帽あり、運搬賃一個金五錢なり又市内へ手荷物の配達を爲す

●公園　驛前鐵道附屬地新市街背後の平原に楊樹林を中心とせる一大公園を設置す

●公主陵　驛の北方里餘に公主陵あり柞樹鬱蒼として之を護る、傳へ云ふ今より二百餘年前清の大宗の皇女此地方の蒙古王達爾罕に嫁するの約成り北京より來るの途次病を得遂に此地に薨ず、依て陵を築きて之を葬り其靈を祀る、今に祭祀を絶たず公主靈又は公主陵の稱是より出づと

●官衙、學校、病院等　警務署、憲兵隊、兵營、滿鐵附屬地尋常高等小學校、滿鐵大連醫院分[illegible]棧、三等一圓二十錢食事附)(日本)交涉衛生局、鹽務





局(清國)

●旅館● 松尾旅館、大小旅館等一泊一圓五十錢乃至三圓五十錢晝食は其半額

劉房子驛 Liu-fang-tzu.
范家屯驛迄十三哩一

范家屯驛 Fan-chia-tun.
孟家屯驛迄十二哩九

孟家屯驛 Meng-chia-tun.
長春驛迄五哩九

長春驛 Chang-chun.
終端驛

驛は南滿鐵道の終端驛にして停車場所在地は頭道溝と稱し長春城北門を距る約二十丁に在り、東十餘丁を隔てゝ東淸鐵道の寬城子驛と相對す、附近は元と一面の畑地なりしも停車場設置以來日淸人續々來集して鐵道附屬地に居を營めり、城內は人口約五六萬と稱し街路整齊寬潤商業甚だ殷賑なり

此地は北滿商業の中心にして其北方より西方に亘れる大平野は大豆其他穀類の產地として滿洲中實に第一位に居る、若し夫れ冬期大豆出荷の際に至りては十數里の間車馬絡繹輪蹄の響叱咤揮鞭の聲嘈然として遠く紅塵萬丈の間に連なり、人をして眞に其盛況に驚かしむ

吉林省 は面積約一萬八千餘方里山脈東南の二面を環繞し源を此に發せる松花の長流は蜿蜒省內を貫流し西北二面を包圍して省界を劃し江北と相對して一大沃野を開く

吉林市は長春の東三十五里に在り、巡撫の駐在地にして城廓は直に松花江に沿ひ、朱甍碧瓦清流に晻映し、四山環翠風景畫圖の如し、人口八萬と稱し街路清潔人物都雅の風ありて商業亦殷盛なり

吉長鐵道 借欵契約既に成り工を起す將に近きにあらん



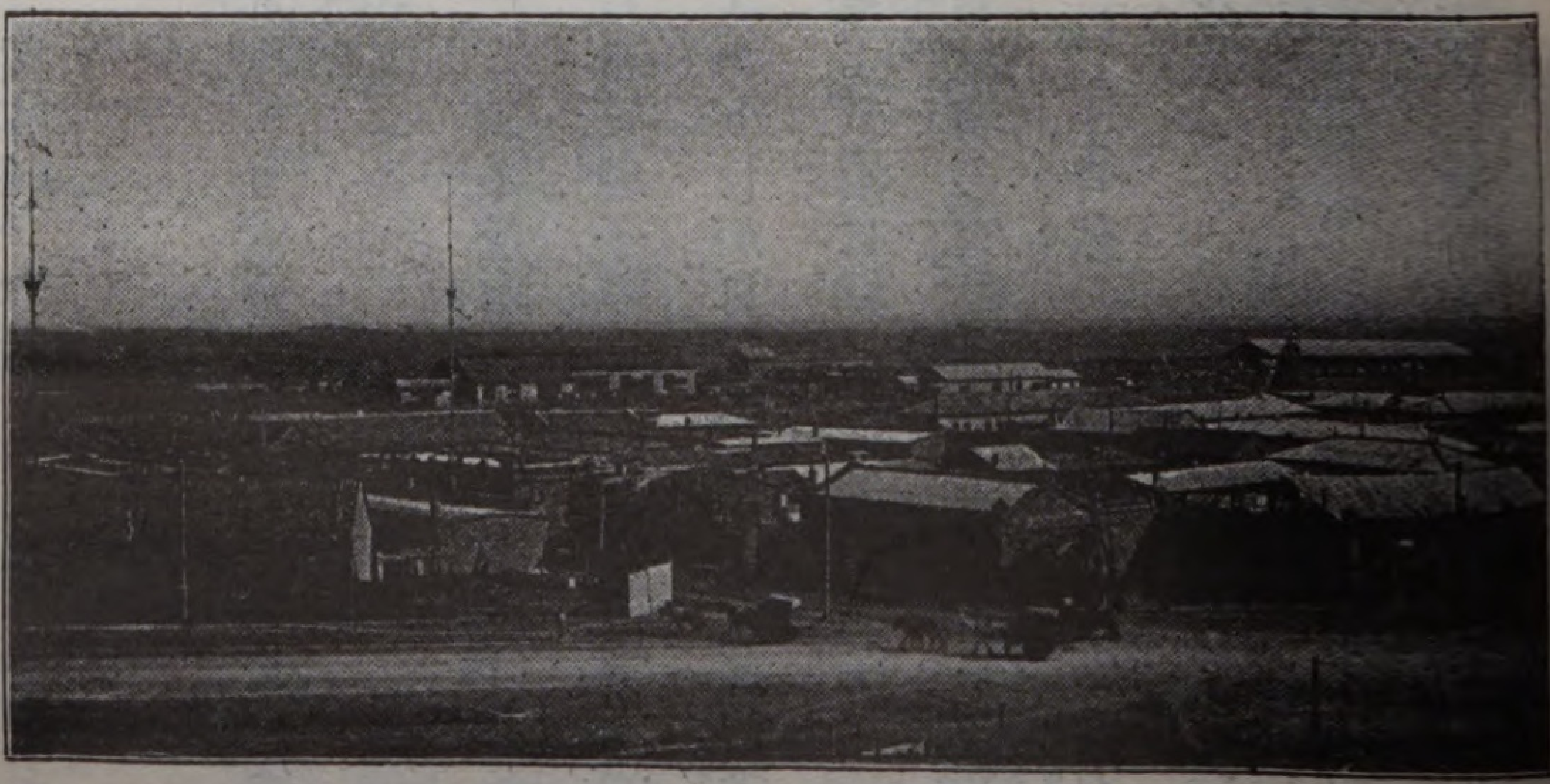
長　春　新

とす、竣工の曉には長春驛は三鐵道の會合點となり其旺盛眞に想ふべし

●●●●●重要輸出品　は大豆、豆粕、豆油、獸皮、雜貨等にして輸入品は綿布、石油、金屬製器、海產物、鹽、砂糖等なり
邦人の此地に居住する者約四千五百人內附屬地に住する者約二千八百餘人なり

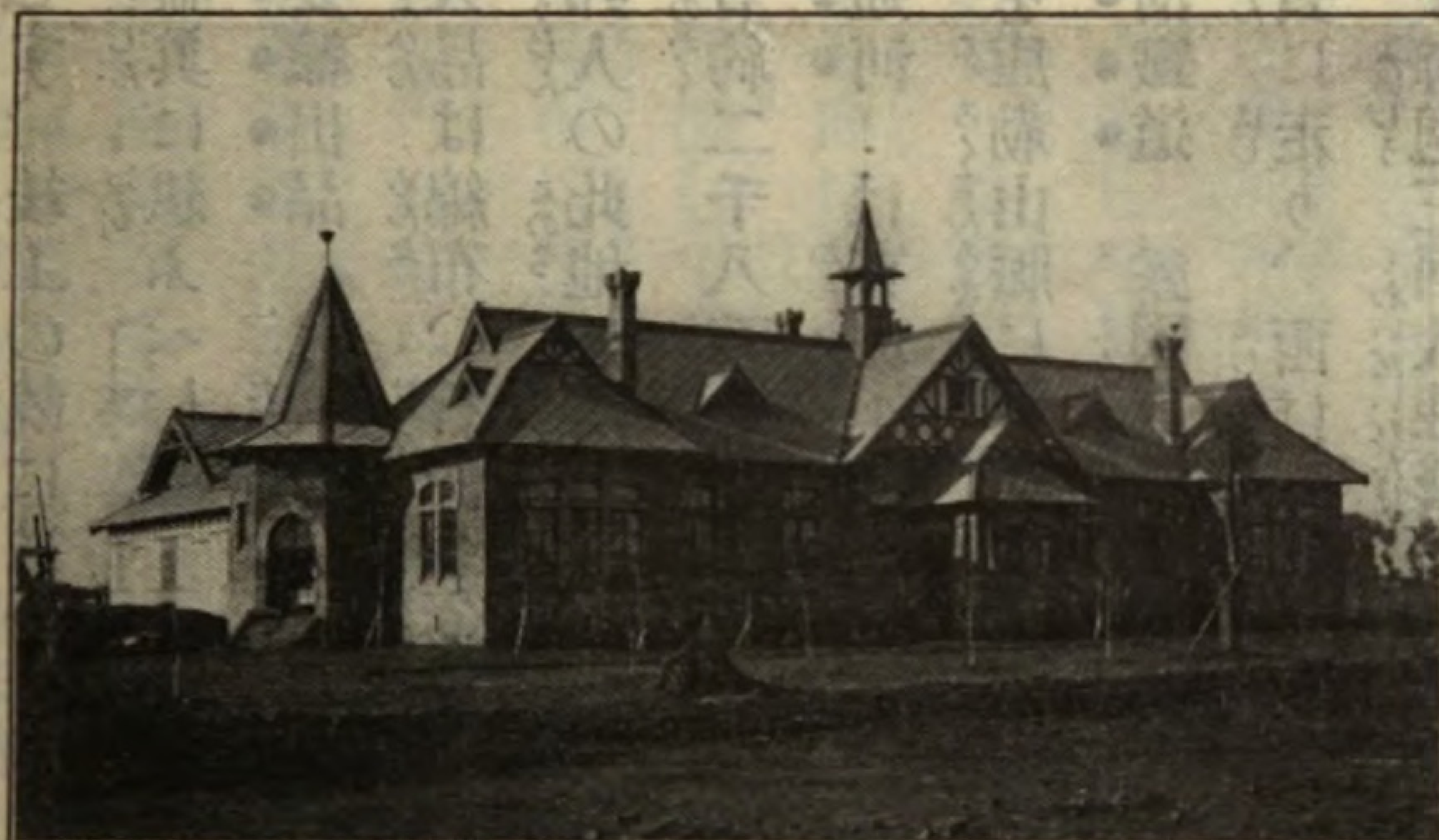
●●●伊通河　は寬城子の東門外を過ぎ北流して松花江に入る源を庫勒山脈に發す水淺くして舟楫の便なし

●●●●●東清鐵道　露國東清鐵道は我長春驛に於て接續し北哈爾賓に走り、西は聖彼得堡及莫斯科に東は浦潮斯德に通ず毎週三回大連發の急行車は長春驛に於て直に東清線旅客列車に接續す、東清鐵道と南滿鐵道との間には未だ連帶運輸を開始せざるも我長春驛に東清鐵道の出張員あ



市街

りて哈爾賓、滿洲里、齊々哈爾、阿什河、一面坡、海林、綏芬驛、雙城堡、石頭城子、窰門等の東清線各驛に到る乘車券を發賣す



長春滿鐵小學校

手荷物運搬　停車場に赤帽あり、運搬賃一個金五錢なり又市内への配達を取扱ふ

炭　坑　長春の東方に石碑嶺及陶家屯の兩炭坑あり、露國は現存の二道溝なる寛城子驛より炭坑用馬車鐵道を延長して採炭しつゝありしが日露講和條約の結果、炭坑は馬車鐵道と併せて我有に歸せり

流通貨幣　清國貨幣は吉林省の官帖（紙幣）及銀貨（十錢、二十錢、五十錢、一圓）最も多く行はれ他省製のものは幾分か割引あり、大取引には銀塊を用ふ

日本通貨は正金銀行鈔票最も多數を占め、日本銀行兌換券之に次ぎ、軍用手票は近時著しく其數を減せり

露國通貨は紙幣一、二、三、五、十、二十、百留の七種、銀貨(十錢、十五錢、二十錢、五十錢、一圓)、金貨(五圓、七圓五十錢、十圓)あるも通貨として用ひられず一種の商品として盛に投機的賣買の用に供せらる

●官衙、學校、病院等　領事館、郵便局、兵營、憲兵隊、警務署、滿鐵附屬地尋常高等小學校、滿鐵大連醫院分院(入院料特等十圓、一等五圓、二等三圓、三等一圓五十錢食事附)横濱正金銀行出張所、三井物産會社出張所(日本)、露國副領事館、露淸銀行(露國)、西邊道臺衙門、知府衙門、交涉局、巡警總局、郵政總局、電報局、餉捐局、煙酒木稅局、鹽務緝私局、牛馬稅局、鑛務局、


長春滿鐵倶樂部

奉天官銀號、江省廣信公司、(淸國)

●長春やまとホテル　新市街に於て尤も便利なる地に在る平家煉瓦造の假設ホテルにて、今や

二十餘萬圓の豫算を以て既に旅館新築に着手し本年中には竣工の筈なり


現今のホテルは貴賓室二、客室八、食堂一、應接室一、球戯室一、酒場一を有す

宿泊料　一人一泊三食付金六圓乃至七圓

食事料　朝食金九十錢、晝食金一圓三十錢、晩食金一圓三十錢

球戯料　一ゲーム金二十錢

其他の旅館　三義ホテル、大和屋ホテルあり一泊二圓乃至四圓晝食は其半額





旅順支線

臭水子驛より一線分岐して西南旅順灣頭に走る延長三十八哩九（埠頭より）

〇夏家河子驛 Hsia-chia-ho-tzu.

大連驛より十三哩二
營城子驛迄六哩四

●●●海水浴場　驛を距る二丁餘長汀迤邐として白砂碧海を擁し青螺點々煙波浩渺の趣あり、水清く平淺にして毒海月の虞なく婦女子も亦入て浴すべし

脫衣場、淡水温浴場、各種飲料賣店、茶菓喫食所及碁將棊等娯樂具の設けあり、其他投網、曳網或は垂釣の興を恣にすべく銷夏の好適所なり

大連より汽車にて僅に四十分（汽車賃二等往復三十五錢）旅順よりは一時間（汽車賃二等往復六十五錢）を要するのみ夏季には臨時列車を運轉す

〇營城子驛 Ying-cheng-tzu.

旅順驛迄十七哩五

寂寥たる一小村落に過ぎざれども、地海に近く魚鹽の利少からず驛の西南二十丁許斷崖峭

立海に臨み上に城山の古城あり、往古高麗の賊將の據りし處にて唐の太宗劇戰十數回辛く之を拔けりと云ふ附近連山の谿谷一帶に石を產す、其質好良にして溫潤玉の如し彫刻又は印材に供せらる

●長嶺子の驛址●　營城子より旅順に向ひ五哩餘にして長嶺子の驛址あり日露の役我第三軍が露軍を旅順要塞の本防禦線內に壓迫せし時より開城に至るまで旅順支線の終端驛として兵員及軍需品を輸送せし處なり

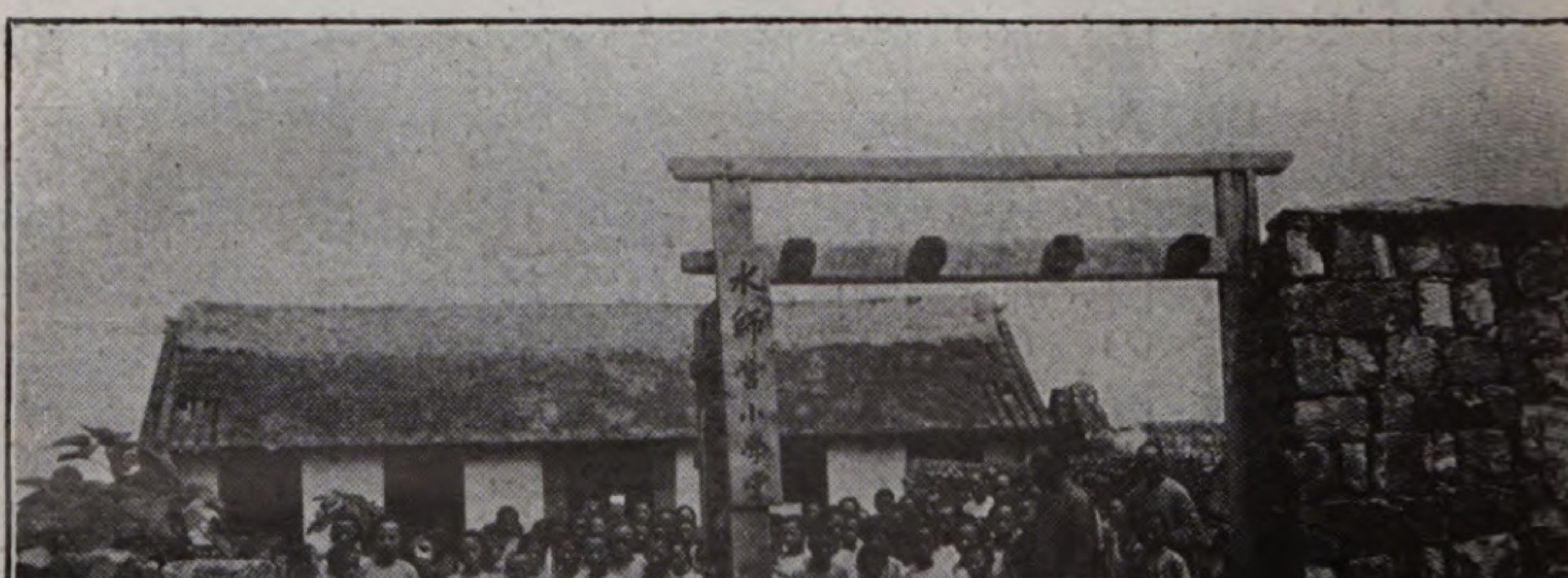
●双溝臺●　長嶺子より右方一里弱にして樹木蒼々たる一村あり是れ双溝臺なり、日清及日露の役、清露の兩軍此地を拒守し健鬪最も力めたる處とす

●東房身●　長嶺子より前方約三哩に在り、旅順攻圍當時特に重砲及砲彈を汽車にて輸送し此地に卸せり、鐵道從事員並に兵器廠員は悉く穴居して其任務に服せしが今は石垣を繞らして之が記念とせり、東房身より前進すれば丘麓及線路の左右、土窟の跡點々相連なるを見るべし、是曾て我攻圍軍將卒、馬匹が起居せし處にして今は唯青草離々野花亂れ咲けり尙進むこと須臾にして道丘陵の間に入る、左方一高地の頂に巨砲二門の儼存せるもの是れ望

臺なり右に樹林蔚茂の一地點を見る之を

龍眼 即ち旅順水源地となすクロパトキン將軍は此地を擁護せん爲め自ら設計して一砲臺を築けり、故にクロパトキン砲臺の稱あり日露の役我軍力攻數回の後三十七年九月之を占領す、其前方の村落は

水師營 にして驛より二十餘丁、旅順攻圍戰史中特筆すべき地名なり、往時清朝山東省沿海の匪徒を勦淸し爾來水師營協領衙門を置き、北洋水師を設けたる處なり、三十八年一月一日旅順の守將ステッセル開城の議を提出するや彼我兩國委員玆に相見、超て五日乃木ステッセル兩將軍の會見地と



水師營小學校

爲れり、會見場は粗造の支那家屋にして當時第一師團衛生隊重傷部手術所たりしが我攻圍軍戰士の治療されたる血染めの手術臺は偶々開城談判及兩雄會見の卓子に供せられたり

◎旅順驛 Lu-shun(Port-Arthur.)　終端驛

露の遼東半島租借以來東洋唯一の軍港として苦心經營したる所にして、半島の最南端に在り亂山起伏南に走り海に至つて盡き碧灣深く湛ゆるもの之れ旅順港なり、港口は左は黃金山、右は老虎尾半島に依て扼せられ、背面は丘巒重疊天然の墻壁を築き、防守に易くして攻略に難きの要地たり、港は東西に分たれ東港の徑口僅に三百碼、水深くして、戰艦を泊すべきも其面積狹隘にして十數隻を容るゝに足らず、今は旅順鎭守府の所管にして船渠其他の設備頗る完し、西港は面積廣大なれども水淺し、兩港の廣袤は東西の直徑二哩餘、南北の直徑約一哩

●市街●　淸國時代には五大街に分ち城子東街、城子西街、東新街、中新街、西新街として經營したるも露國の租借以來別に新市街を設計し、現今の旅順停車場を中心とし以東を舊市街、以西を新市街と定め前者は東港に沿ひ、後者は西港に枕む、新市街は官公衙、銀行、會



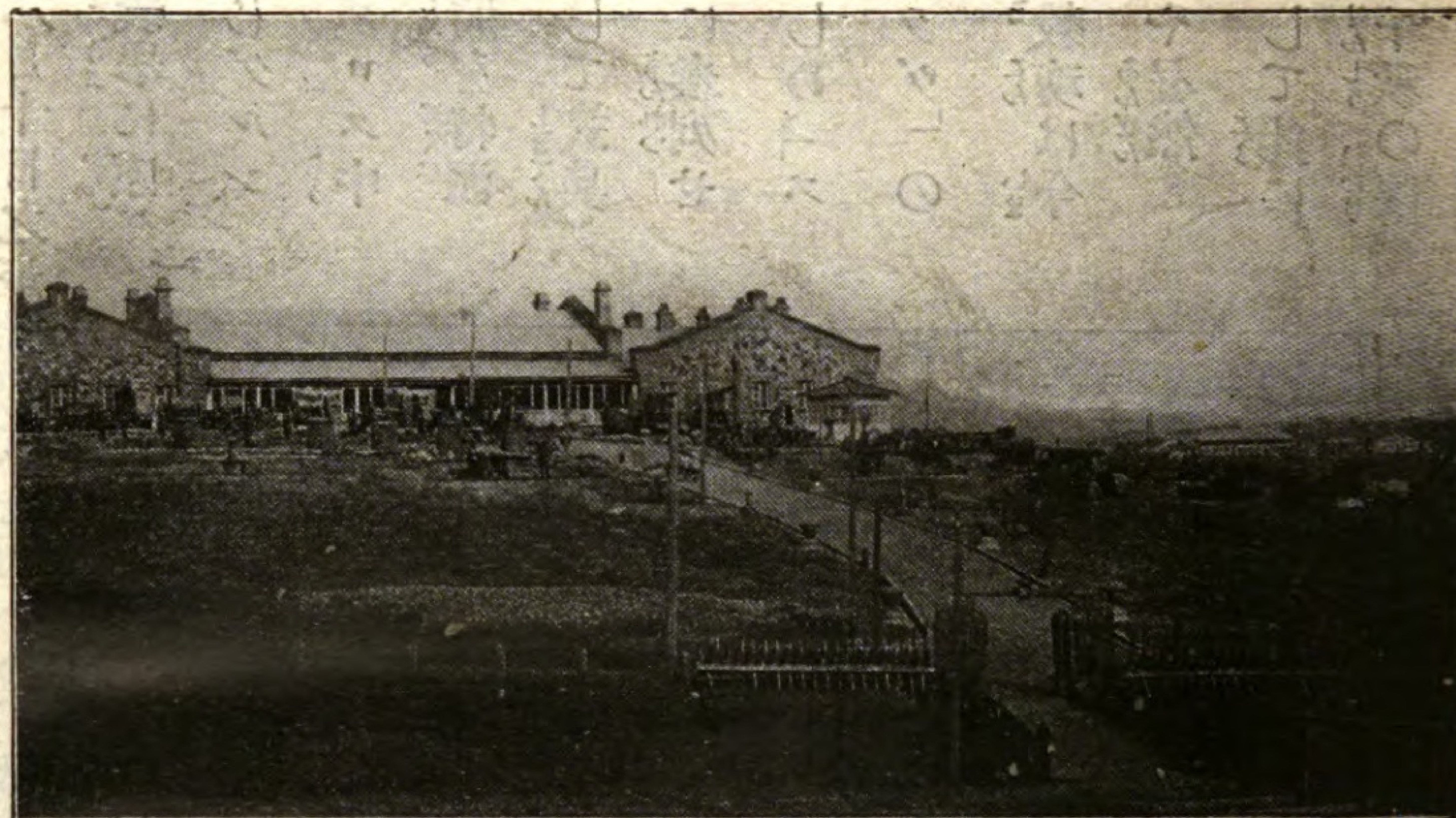
關東都督府

社、商舗及住宅に充て、千九百〇一年以後鋭意工事を進捗せしめ大半を竣成せり、今の都督府其他の建物皆宏壯にして大連と雖も及ばざるもの多し、又舊市街の改築及道路の改修を爲すべき豫定なりしが未だ實行に至らずして止む、市街の大半は破壞燒燬せられたるも占領後整理補修し繁盛舊に復し今や人口一萬四千内日本人約七千を算す

官衙、學校、病院、其他 關東都督府、旅順民政署、高等法院、地方法院、監獄署、旅順郵便局、西旅順郵便局出張所、大連觀測所出張所、海軍鎭守府、要塞司令部、兵營、憲兵隊本部、同分隊、關東兵器廠、關東陸軍倉庫、關東軍馬補充廠、關東衞戍監獄、中學校、尋常高等小學校、公學堂、旅順衞戍病院、赤十字社關東州病院、遼東新報社支局、滿洲日日新聞社支局、本派本願寺別院、日蓮宗日清寺、基督教青年會等

劇場 旅順座、小松座、黄金座、支那劇場等あり、日本人遊廓は熊本町に淸人遊廓は舊市街の一隅に在り

記念品陳列館 驛より約十六丁舊市街の一隅に在り、衆庶の縱覽を許す陳列場入口の橋欄は戰利砲車車輪を以て作られ、之を渡れば機關砲、重砲等の据付けあり、場内陳列する所は



旅順要塞戰記念品陳列場

日露戰役の記念なる露國の銃器、砲彈、彈藥、刀劍、水雷、被服、寢臺、食器、馬具等千態萬狀枚擧すべからず、其他堡壘の模型及我軍の攻圍中に用ひたる手抛爆藥、攻城砲、竹梯子、照射鏡等見學に資すべきもの甚だ多し。

●表忠塔● 驛の背後海拔三百餘尺の白玉山頭に建設せらる、四十年起工し四十二年十一月二十八日伏見宮殿下の臺臨を仰ぎ盛大なる竣功式を行へり、總長二百十八尺嶄然として天に冲す忠勇なる我海陸軍陣歿者の名譽は炳として日月と共に輝かん

●露國軍人忠魂碑● 鐵道線路の西方椅子山下に在り、我都督府は日露の役露軍戰死者の忠烈を思念し遺骸を收拾して此に會葬し豊碑を建て明治四十一年

六月十日之が除幕式を行へり、我皇特に乃木大將を派して之に參せしめ露帝亦深く日本の義擧に感じグルングロス中將を特派して式典に參列せしめ、「スラヴ」の毅魂は今や晏然として此に千秋の眠



工事中の白玉山表忠塔



露國軍人忠魂碑



東鷄冠山砲臺跡

に就けり

要●塞● 露の名將「ヴェルナンデン」心血を灑ぎて經營の任に當り支那砲臺を改修し又は新設したるものにして天險に加ふるに最新の學理と精緻の技巧とを以てし壘壁、穹坑、塹濠、圍廓等堅牢比なく各砲臺の聯絡亦最も完備して緩急相應ずべし旅順攻圍當時砲臺内備付の重砲、機關砲及び諸砲等盡く精鋭を極め鐵條網、狼穽、鹿柴等の防禦工事亦大に我軍を苦しむるに足るものありしは今尙世人の耳目に新なる所なり其重なる堡壘は盤龍山、鷄冠山、二龍山、望臺、松樹山、椅子山、

黄金山、老鐵山、二百三高地等にして戰鬪の激烈なりし爲め戰後山形を失ひたるもの尠なからず



砲壘内部

●●●黄金山　西、老虎尾半島の饅頭山と相對して港口を扼し高砲臺は山上に低砲臺は海岸に位す當時我海軍閉塞隊は高砲臺下の港口に肉薄して船を沈め戰後久しく海潮の帆檣を洗ふを見たり

●●●●●二〇三高地　此高地は殆ど旅順の死命を制すべき要地なりしを以て彼我死力を盡して之を爭



旅順やまさホテル

ひ戰鬪は壯烈慘憺を極め白兵戰、爆藥の投擲等世界の戰史に比類を見ず攻擊は明治三十七年十一月二十七日より十二月六日に至る、全九晝夜に渉り辛うじて我軍の手に歸し占領後港內の敵艦は我砲彈の威力に擊沈せられたり山上の光景今尙悽慘の跡あり後乃木將軍之を爾靈山と命名し一詩を賦す

爾靈山險豈難レ攀、　男子功名期二克難一、
鐵血覆レ山山形改、　萬人齊仰爾靈山、

二龍山及望臺　同砲壘は第三回總攻擊の當時より攻擊を開始したるが彼は頑强の抵抗を爲し第四回總攻擊即ち明治三十七年十二月二十八日を以て爆破し翌二十九日全く之を占領し之に隣接せる望臺亦相次で陷る

鷄冠山及松樹山　共に露軍の死守せし處なりしも鷄冠山は三十七年十二月十八日爆破、翌十九日之を占領し松樹山は同月三十日之を爆破して敵を撃退す其戰慘烈を極めたり

手荷物運搬　停車場に赤帽あり運搬賃一個金五錢なり又手荷物配達の取扱を爲す

旅順やまとホテル　當會社の經營に係り新市街の中央に位し停車場より十丁餘、煉瓦造三階建の宏壯なる建物にして坪數三百九十餘坪、貴賓室一、客室十三、應接室一、讀書室一を有し最近の歐字新聞雜誌等を備ふ球戲室一、米國式球戲臺三臺を据付け酒場には各國高等の酒、煙草類を備ふ大宴會室、小宴會室、食堂、小食堂、各一あり大宴會室は五六十人の晩餐若しくは百七十乃至二百人の立食場に充つべし其他理髮室あり一般の設備及送迎等大連やまとホテルと同樣なり

宿泊料　貴賓室一人一泊三食付金十圓より十二圓迄、普通客室同金七圓より八圓迄


食事料　朝食金一圓、晝食金一圓五十錢、晩食金一圓五十錢

理髮料　金四十錢、鬚剃料金二十錢

球戲料　一ゲーム金十五錢

●●●●市内旅館　日之出ホテル、寶來館、松田旅館、臺灣館等あり
宿泊料　一泊二食付最高四圓最低一圓なり





●●●● ひので

ほうらいくわん　まつだりよくわん　たいわんくわんとう

營口支線

◎營口驛 Ying-kou.

大石橋より分岐する支線の終端驛を營口とす延長十三哩九、驛は元營口市街の東北牛家屯に在りしも本年十一月線路を新市街迄延長し此處に新停車場を設け以て旅客の取扱を開始せり

營口は遼河を溯ること約十四哩の右岸に位し河に沿ひて建設せられたる狹長なる市街にして戸數約九千、人口五萬餘あり我新市街は支那街の東方牛家屯との間に在り邦人の此地に住する者は新舊兩市街を合して戸數約五百七十人口約二千外に附屬地の住民約三百人あり、此地附近は元と遼河の吐出せる泥土の堆積層より成れる地域にして今より六十年以前迄は寂寥たる一漁村に過ぎざりしが地形の利便は次第に商估の移住を促し一八六〇年即ち咸豐十年の英清條約に由り各國互市場を此地に開くに當り鎭海營を駐屯せしめたり故に土人は以後鎭海營又は營子口と稱し今日に至りては單に營口と呼べり

元來英淸條約に依りて開放を約定せるは此地の上流五十哩に在る牛莊なりしが條約締結後三年英國領事の來任に當り遼河の河身年々淺きを加へ貿易港として牛莊の遙に營口に及ばざることを見、遠く牛莊に赴かず退いて當港に止まり此處に領事館を建設して自ら牛莊と稱へ以て今日に及べり是に於て外國人は皆是を牛莊と稱するも其實は營口にして牛莊城とは判然相區別すべきものたるなり

英國領事着任當時の營口は未だ一陋港に過ぎずして兇漢無賴の徒群を成し商業に支障を與ふること多大なりしも一八六四年稅關の設置ありて徵稅の法定められ又二年にして山海關



營口遼

道臺其本據を此處に移すや秩序整然人民堵に安んじ漸次滿洲の咽喉たる地位を占むるに至れり當時貿易額は記錄の徵すべきなきを以て之を知るを得ざれども開港後十年目に於ける總額は約五百四十萬圓を計上せり

爾來營口の發達は太だ遲々として世人をして或は貿易港としての價値を疑はしめたるが其後滿洲內地の開發歩を進むるに從ひ此地は滿洲貨物唯一の呑吐口と爲り其大豆、豆粕、販路の擴張は更に長足の進歩を遂げしめ殊に露國が東淸鐵道を經營するや物資勞力の大部分を此地に仰ぎたるより一層其繁榮を助成し引續き日露戰爭に至る迄は營口の全盛時代とも



河々岸

云ふべし唯だ戰後引續きたる不景氣は多少の影響を被らしめざるに非ずと雖も猶大連と相並んで滿洲の二大貿易港たるを失はざるなり



遼河結氷中の橇

今左に四十一年中の輸出入概略統計を擧げて參考に資す（單位は海關兩）

	汽船	民船	計
輸入	二一、八二七、八一〇	六、六二三、〇四一	二八、四四九、八五一
輸出	一九、六〇九、二三一	五、二四一、六四三	二四、八五〇、八七四
計	四一、四三七、〇四一	一一、八六四、六八四	五三、三〇〇、七二五

右の内外國貿易に屬するもの左の如し

輸入	六、二六〇、七三五	内本邦船にて	二、七八六、一五〇
輸出	九、四一六、七六五	内本邦船にて	八、五二四、九四六

重要輸出品數量左の如し

豆粕	四、六九九、五三〇担
大豆	二、一九〇、一四〇担

豆油　三六九、四二〇担　高粱　一、〇九七、六四八担
柞蠶絲　五、八四五担
同屑絲　六、〇九八担
藥材　二三二一、七九七海關兩
皮　一一二八、〇五〇枚

輸入商品は綿布を主とし石油、綿絲、砂糖、紙類、燐寸、麥粉等之に次ぐ

●遼河●　は源を内蒙古に發す利用せられ得る航路は支流を合し約三百哩にして開原、鐵嶺、新民府、奉天、遼陽の各首要都市を連ね水量は增減一ならず最も多きは春期開氷後及七、八兩月の雨期にして交通最も頻繁なり

遼河の民船は約六千艘あり一艘の載積二三十石より四五十石にして昨年の下航穀物數量約



亞細亞石油タンク

百八十萬担なり

港灣　河床殆ど傾斜なきを以て潮水干滿の影響を受くること甚大なり船舶は常に潮水の便否を計りて入港するも吃水十八呎以上のものは入ることを得ず十呎のものも亦滿潮を待たざるべからず、埠頭附近は最深七十五六呎平均四十呎あり

此地を終點とする重なる航路は上海航路(芝罘經由)龍口航路、天津航路及日本航路とす取扱會社及出帆回數を擧ぐれば左の如し

上海航路　怡和洋行、太古洋行、招商局、隔日に一回の割合なり　半定期

龍口航路　怡和洋行、太古洋行、東和洋行、三日一回位

天津航路　東和洋行、萬能公司、三日一回位

日本航路　郵船會社(代理店旗昌洋行)東和洋行、小寺洋行、三井洋行、松茂洋行、七日一回

其他の社外船は不定期とす

次ぎに乘船賃を擧ぐれば左の如し

大阪、神戸	一等	六十六圓	二等	三十六圓	三等	十七圓五十錢
下關、門司	一等	六十　圓	二等	三十二圓	三等	十五圓五十錢
芝罘	一等	二十三圓	二等	十二圓	三等	四十　圓
太沽、天津	一等	二十三圓	二等	十二圓	三等	四　圓
上海	上等	四十兩	下等	十　弗		
龍口	二元五十仙（等級なし）					

交通運輸　遼河の北岸に京奉鐵道營口驛（俗稱河北驛）あり此線路は京奉鐵道の支線にして溝幇子驛にて本線に合す東北、奉天に通じ西南、山海關に達し更に天津北京に到るべし停車場に至るには同鐵道の聯絡船遼東號あり毎日汽車の發着毎に東營口海關埠頭と河北停車場間を往復す

官衙、學校、病院等　郵便局、警務署、居留民會、尋常高等小學校、基督教青年夜學校、同仁醫院（以上日本）清國道臺衙門、海關、郵政局、鈔關、營口商業學堂（以上清國）日、米、英、獨、露、佛、諾、和、瑞典、各領事館あり

●銀行● 横濱正金銀行支店、正隆銀行、俄華道勝銀行(露清銀行)、大清銀行

●會社及店舗●●● 日本人の經營に係るものにして重なるものは三井物產會社支店、營口水道電氣株式會社、營口煉瓦製造所、東亞煙草會社支店、日清豆粕會社出張所、飯塚、宮崎工程局、東和、小寺、加藤洋行、滿洲新報社等外人の營業に係るものは遠來洋行、旗昌洋行、太古洋行、怡和洋行、福來洋行、(以上英商)瑞記洋行(獨商)美孚洋行、茂生洋行、(以上米商)

著名なる清商には東永茂、西義順、元茂盛、同興宏、原發合、興順魁、義泰德、長



遼河解氷

隆泰、永同慶等、油房として重なるものには機械油房に太古元、怡興源、東永茂、慶豐號、新昌號、永義號、小寺洋行あり其他舊式油房十三戸あり

●旅館● 旭ホテル、清林館、大和館「アストルハウス」等

宿泊料 一圓乃至三圓、晝食料は其半額とす

「アストルハウス」は海關埠頭に在りて歐人の主管に係り純然たる歐風旅館にして支那名を福來客棧と稱す宿泊料三食付五圓乃至七圓

●小荷物運搬● 停車場に赤帽あり運搬賃一個金五錢

撫順支線

蘇家屯驛より分岐し撫順に達する支線にして延長三十四哩

撫安驛 Fu-an

蘇家屯驛より　五哩八
孤家子驛迄　三哩五

孤家子驛 Ku-chia-tzu.

深井子驛迄　九哩三

深井子驛 Shen-ching-tzu.

李石寨驛迄　四哩六

李石寨驛 Li-shih-chai.

千金寨驛迄　七哩六

千金寨驛 Chien-chin-chai.

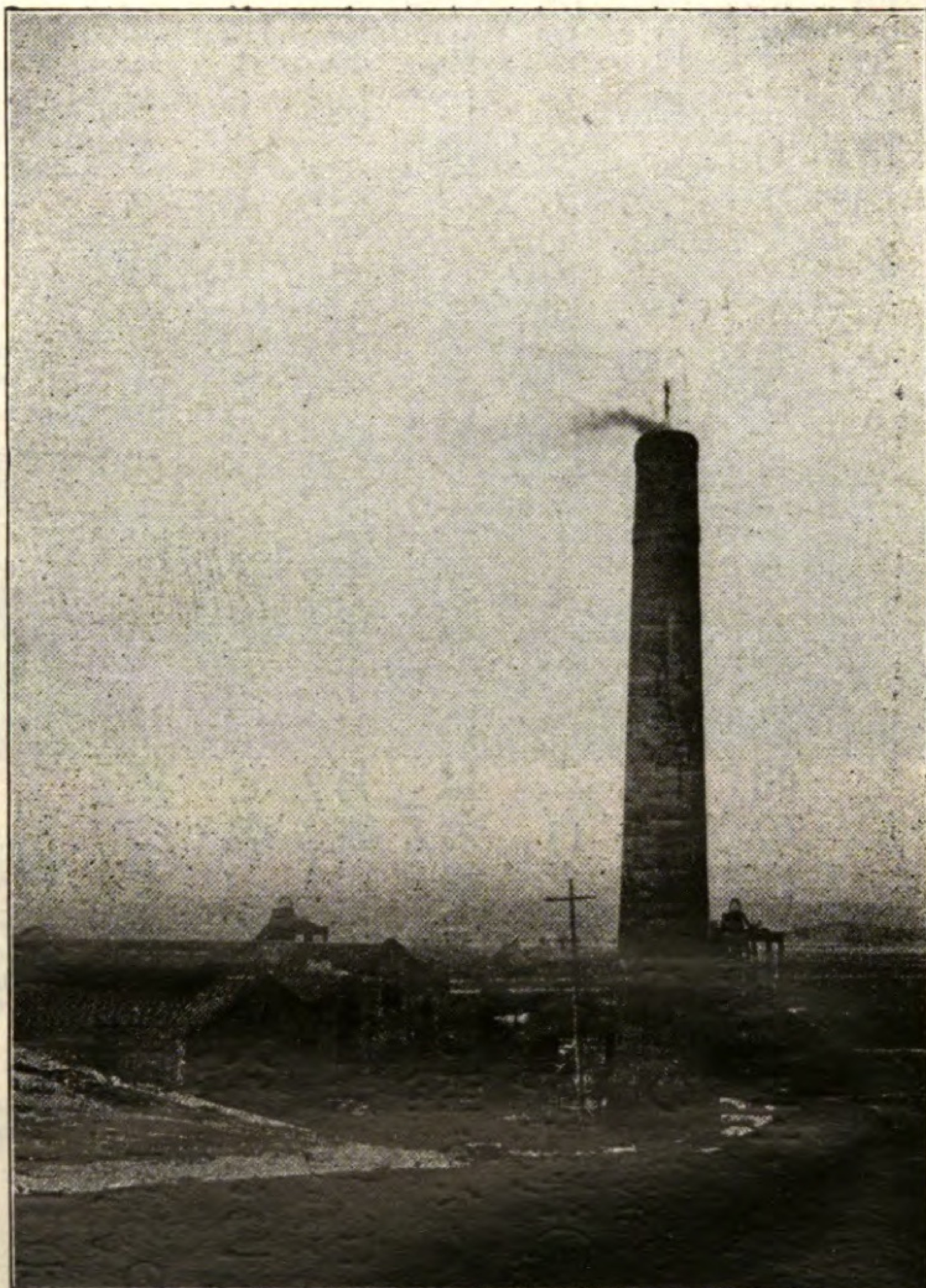
撫順迄　三哩二

驛は撫順炭坑の中心にして炭坑事務所の所在地なり、撫



千金寨東竪坑

順城を距る里餘、元と微々たる一寒村なりしが我邦の經營に屬せし以來大に其面目を改ため今や鐵道附屬地に日本人淸國人各三千餘人居住するに至れり、會社は已に新市街設立の計畫



大山坑發電所

を立て着々進捗しつゝあり

撫順炭坑 とは千金寨、楊柏堡、老虎臺一帶の炭坑を總稱するものにして東南に山を負ひ北は渾河を隔てゝ龍脈の蛇蜒に對し西は茫々たる平野に連れり、炭脈は南北約一里東西約五里に亘り炭層の厚さは最厚百八十尺より最薄八十尺に至り平均約百三十尺にして炭層中の夾雜物は厚さ二十尺を超えず、會社が四十年四月野戰鐵道提理部より引繼を受けたる當時に於ける設備は總て軍事の必要に出

でたる急造的のものにして一も永久の使用に堪ゆるものなかりしを以て會社は急速其改造に從事し目下採掘する個所は千金寨三坑、楊柏堡二坑、老虎臺二坑合計七坑にして一日の出炭高優に二千噸に達す(引繼當時の出炭額は一日三四百噸)

右の外深さ約一千呎の大竪坑二箇所(各上風坑及下風坑の二坑を具ふ)を開鑿するの計畫を立て一を大山坑と云ひ一を東鄉坑と名づく、大山坑は一昨四十年十一月より掘進を始め其下風坑(内徑二十一呎)は本年十二月既に一千百六十呎に及び上風坑(内徑十八呎)は八百五十呎に達したるを以て本年末迄には着炭するに至るべく、東鄉坑は昨年十一月十九日より開掘を始め上風坑(内徑十八呎)は二百九十呎、下風坑(内徑二十一呎)は二百四十呎に達せり此兩坑完成の曉には一坑一日二千五百噸の出炭を見るべし

昨年十月より本年三月に至る半期間の出炭量は二十八萬六千餘噸にして前期に比すれば約四割の增加を示せり

撫順炭田に於ける石炭發見の時代は舊記の徵すべきものなけれども、傳說に據れば七八百年前より斷續採掘されたるものゝ如く、乾隆年間に至り清國歷代の墳墓たる諸陵を距るこ

と遠からざるの故を以て其採掘を嚴禁せり、光緒廿七年に至り清國人王某楊柏堡の西部に於て翁某なるもの河の東部に於て採掘の特許を得たり、後幾くもなくして露人其實權を占むるに至り日露戰役中煙臺炭坑を日本軍に占領せられてより專ら本坑の採掘を力めたり、明治三十八年三月十三日我軍渾河の右岸に進出し此地一帶の炭田を占領するに及んで煙臺採炭所を此地に移し撫順採炭所と改稱し野戰鐵道第一採炭班の編成を見平和克復後四十年四月當會社の經營に屬せり



撫順炭坑事務所

●官衙、●學校、●病院等● 警務署支署、郵便局、撫順尋常高等小學校、撫順炭坑醫院、兵營（以上日本）巡警總局（清國）等

●旅●館● 筑紫館、吾妻家等あり、宿泊料一日最高金四圓最低金壹圓

●手荷物運搬● 停車場に赤帽あり運搬賃一個金五錢なり

◎撫順驛 Fu-shun. 終端驛

驛は撫順支線の終端驛にして渾河の左岸山咀子と稱する一小村落の附近に在り、露軍の架設せる四國橋(我丸龜第十一師團之を占領せしを以て此名あり)を隔てゝ撫順城に對す

千金寨驛と當驛間は營業線に非ず、重に石炭及貨物の輸送に使用す然れども便宜旅客乘車の需に應ずることあり

●撫順城● 磚壁を繞らせる一小城にして南北二門を有し戸數約四百、人口二千、明代の古城にして史に淸の太祖兵を率ゐて撫順城を襲ひ明軍十五萬を破ると記せるもの實に此地たり、今や衰殘甚だ振



撫順炭坑醫院

はざれども山を負ひ河を控へ自から一要害たり、北門を出で上ること約六丁にして白塔あり塔下に立ちて四顧すれば渾河を隔てゝ老虎臺、楊柏堡、千金寨等悉く双眸の中に集り楊柳翠滴らんとするの時山光水色最も佳なるを覺ゆ、夏時興京方面より筏の渾河を下るもの多し

官衙 撫順縣衙門、撫順路記衙門、旗署等(以上清國、撫順城に在り)


撫順十六景 北門より白塔に至る途中觀音閣寺あり撫順十六景の記は石面に彫刻して寺の壁間に掲ぐ曰く、將岫霞烘、儒峯雨霽、蓮渚秋菱、柳塘春絮、一水背城、萬山朝塔、高閣宵燈、渾河曉筏、沙嶼雲陰、溪橋月照、驛路斜曛、魚台晚釣、磴道流丹、土門疊翠、石洞苔封、禪堂松癸、是れなり

露人の經營せし公園は白塔山の後方更に一小丘を隔つる處に在り春期花樹多く蝶影花香筇を曳くに値す

安奉線

奉天より鴨綠江岸安東縣に至る支線にして日露戰役中我陸軍の手に依りて敷設せられたる輕便鐵道なりしが本年八月七日之が改築工事に着手し全線百九十一哩八分中奉天石橋子間三十五哩八分は既に十一月三日を以て廣軌列車の運轉を見るに至れり、蓋し本線路の通ずる所其風光の奇峭にして秀抜なる實に全線に冠たる所にして且や沿道の山河一として往年我將士流血の地ならざるはなく人をして轉感慨に堪えざらしむ、若し夫れ旅塵を洗はんには五龍背の溫泉あり淸遊旬日猶飽かざるべし、而して安奉線各驛と韓國統監府鐵道各驛及同線經由鐵道院線の各主要驛との間には小荷物の連帶輸送を行ふ

注意　本線蘇家屯以南各驛より安奉線各驛に至り又は安奉線各驛より蘇家屯以南各驛に至らんとする旅客は奉天に於て安奉線又は本線列車に乘換はらるゝを順路とす、故に乘車劵購求の際其旨を告げ乘車賃金は奉天經由の賃金に依りて支拂はらるべし、若し旅客が蘇家屯及撫安驛に於て乘換えんことを希望せらるゝときは該旅客に對しては蘇家屯撫安間の賃


安東驛
安東海關



金に依りて計上し乘車劵面に蘇撫經由と記載すべし

◎奉天驛 Feng-tien.　渾河驛迄六哩

◎渾河驛 Hun-ho.　撫安驛迄二哩八

（以上兩驛本線案內記中に在り）

◎撫安驛 Fu-an.　陳相屯驛迄十一哩四

驛は渾河左岸に在り附近は沃野廣濶にして穀物の產地たり此地亦雁鴨の類多し好獵家は宜しく奉天滯在の一日を割きて此地に壯遊を試むべきなり

◎陳相屯驛 Chen-hsiang-tun.　姚千戶屯驛迄七哩五

驛の附近村落十數箇村あり穀物を產す

●沙　河●　驛の北方二丁餘を流る

●塔　山●　一に龍虎山と稱す沙河右岸に峙てる丘陵即ち之なり山頂に喇嘛塔あり高さ七丈、唐代の建築に係る、奉天會戰の際露軍の首力を置きたる所にして當時の激戰場なり

◎姚千戸屯驛　Yao-chien-hu-tun

石橋子驛迄八哩一

●沙河對陣中日露兩軍斥候戰の絶ねず繰り返されたる所なり

●唐家臺●　驛の南方線路の東側に在る高地なり奉天會戰の時近衞師團の激戰したる地にして山上に旌忠碑あり

●歪頭山●　線路の西側に在りて唐家臺と斜に相對し平地中に斗出せる山嶺なり、沙河會戰の終期黑木軍が特に列國從軍武官觀戰の下に此高地より露軍を擊攘し以て我武勇を中外に發揚したる所なり當時の觀戰場は歪頭山後に聳つ花勾嶺之なり

◎石橋子驛　shih-chiao-tzu

火連寨驛迄八哩七

戸數二百餘本溪湖より奉天に通ずる沿道に當り車馬の行通頻繁なり、南より來る連山は此に至て山容を一變し北に向て斷崖を爲し山容水態甚だ佳なり、此地方は高粱、大豆等の穀物を産す

●大嶺● 附近一帶の山脈は沙河會戰の初期露軍が我右翼突破の目的を以て我に十數倍せる兵力を以て懸軍殺到したる所なり、若し嶺の守を失はんか本溪湖橋頭又我有に非ず、然るに此地を守備せるものは僅かに梅澤少將の率ゐる後備近衛旅團あるのみなりしが我將士の堅忍にして忠烈なる有らゆる苦戰惡鬪に堪ゐ遂に此扼要を敵手に委せずクロパトキン將軍の必勝を期せし南下の大企圖を水泡に歸せしめしもの實に同旅團の功與つて多きに居る

◎火連寨驛 Huo-lien-chai.

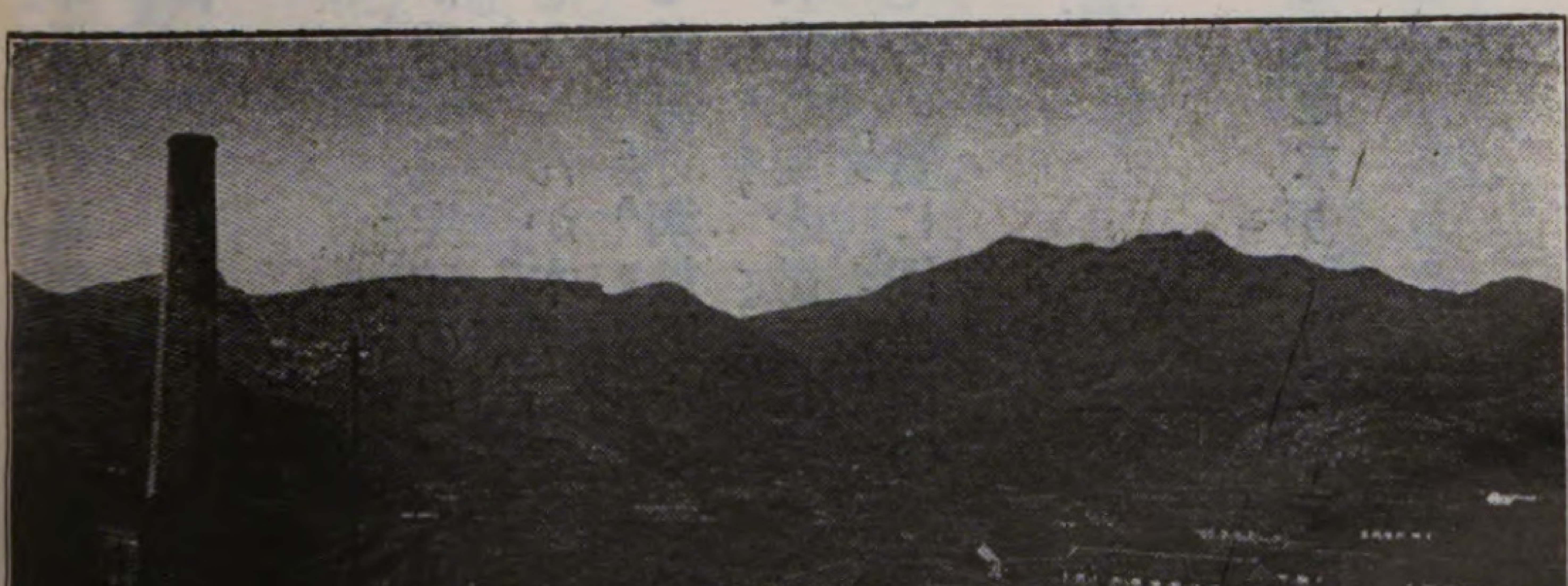
本湖溪驛迄四哩四

數十の瓦屋軒を列ね又商店十數あり山間稀に見る名邑たり往時に於ては殷盛なる市場なりしと云ふ

◎本溪湖驛　Pen-hsi-hu.

孟家驛迄四哩九

當地は遼陽を去る東十五里、太子河の右岸に位し安奉線中、沙河鎮、鳳凰城に次ぐの都邑なり元と遼陽の管轄下に至りしが明治四十年新に本溪縣を設置したり、丘陵四面を圍繞し市街は溪間の窪地に在り、氣候温和井水河流共に清冽佳良なり人口五千、過半は農商を業とし一部は採炭に從事す本邦人は商家七十多くは料理店雜貨店にして人口四百あり、主要産物は穀物土器等にして毎年六月より九月に至る雨期前後には太子河の上流平頂山堿廠葦子峪等より筏及穀物の下



本溪湖炭坑

るもの多し

炭●坑● 太子河と本溪湖との間に横はれる丘陵は即ち炭坑所在地にして目下大倉組の經營に係る大倉炭坑の外支那人の採掘するものあるも規模概して小なり、又東方三里に牛心臺炭坑あり要するに此地の炭坑は總て其設備未だ完からざるも漸次面目を一新するに至るべし

兜●山● 市街の東方に聳ゆる高山にして沙河會戰の當時敵の大軍は大嶺附近より太子河左岸に亘り此地の腹背を包圍せし時同地の守備隊は只歩兵一個聯隊あるのみ、同聯隊は僅かに此天險に據り能く十倍の敵に抗し頑として固守せるも奈何せん衆寡敵せず死傷相次ぎ一時は孤城落日の有樣となり、我滿洲軍の右側今や危殆に瀕せんとする際 幸 に閑院宮殿下の騎兵隊其他諸隊の援助の下に辛く敵を擊攘するを得たる所なり大嶺と共に永く我將士堅忍不撓の記念地と云ふべし

官●衙● 兵營、警務署出張所、郵便局(以上日本)知縣衙門、巡警總局(以上淸國)

旅●舍● 料理店兼旅舍二三あるも設備完きものなし

◎孟家堡驛 Meng-chia-pu.　橋頭驛迄七哩二

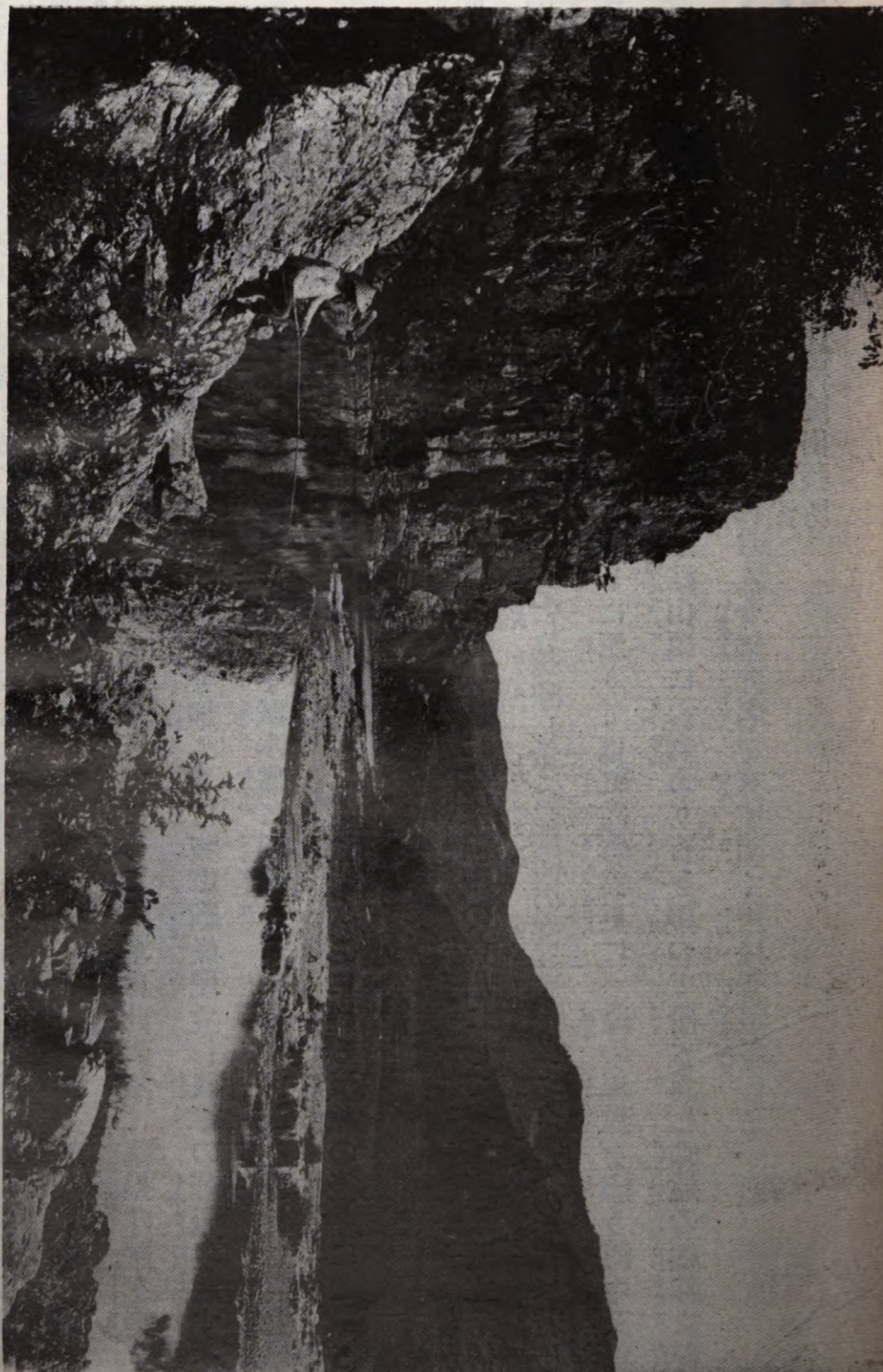
驛は太子河平原の盡くる所に在り當驛より福金嶺の峻坂となるを以て列車を山線牽引定數範圍內に分割し約五十分を隔てゝ二回に發車す、旅客は開放車內に携帶荷物を遺留せざる樣注意せられたし

●宮の原　驛の西方太子河左岸の平野中に樹林を見る、是れ即ち閑院宮殿下が親ら騎兵の大集團を率られ露軍の側背を擊破し本溪湖の危急を救ひ給ひし戰場なり、されば後人呼んで宮の原と云ひ殿下の御勳功を不朽に傳ふ

●福金　地は山岳圍繞し附近の線路は丘陵を開鑿して敷設したるを以て逶迤盤旋丘腹を上下し峰回り路轉じ風光隨て變じ頗る奇觀なり

◎橋頭驛 Chiao-tou.　南坆驛迄十哩六

驛は亂山の裡に在りて山麓に細河の流あり清人戶數一百線香新材等を產す



釣魚臺

安東縣より來る列車も此驛に於て解放分割すること孟家堡驛と同樣なるを以て旅客は同驛に於るが如く注意せられたし

●旭　山●　細河左岸橋頭の西方に聳ゆる連山は即ち旭山にして露軍は此天險に堅壘牢壁を築き我軍の前進を拒止せんとせり、谿間既に狹く加ふるに到處斷崖壁立し我軍の苦戰名狀すべからず、當時第十二師團の一部隊は大迂回を試み僅に釣魚臺に於て徒涉點を發見し岩を攀ぢ峰を越ゑて旭山に突擊し兩日（三十七年七月十八日及十九日）に亘る激戰の後遂に之を占領したり

此驛より連山關驛に至る間風光の絕佳なるは實に安奉線中の白眉にして奇峰削下壁立千仞の屛障を成し疊嶂層崖の上萬株の怪松之に掩映し下に細河の淸流ありて奔駛矢の如し、若し夫れ陽春の候、桃李、躑躅其間に點綴するに至りては紅霞彩雲更に一段の風致を添う河中又獨峰あり釣魚臺と名づく怪岩矗峙老松蟠結山頂に古刹あり石を鑿つて磴と爲し幽遠の趣殊に愛すべし、往昔何人か此處に綸を垂れけん今猶此名を存す聞く川に香魚多しと

●官　衙●　兵營、滿鐵大連醫院出張所

旅舍 長陽館、若松屋等あり一泊二圓乃至五圓

忠魂碑 兵營の背面高地に第一軍忠魂碑あり當時の戰場及附近の光景一眸の中に落つ

南坟驛 Nan-fen.

下馬塘驛迄九哩六

淸朝康熙帝時代の王女の墳塋ありとの說あれども其遺跡未だ詳ならずと云ふ

下馬塘驛 Hsia-ma-tang.

連山關驛迄五哩四

明治三十七年七月十七、十八の兩日摩天嶺の逆襲戰に於て第十二師團右翼隊の奮戰したる所なり

連山關驛 Lien-shan-kuan.

草河口驛迄十二哩八

地は細河の上流に位し安東縣遼陽街道上の驛站にして淸人戶數約二百五十、線香薪材の產出を以て有名なり

官衙 兵營

摩天嶺 西方二里半に在り明治三十七年七月四日及十八日の兩度露軍の逆襲に際し我第二師團が能く數倍の敵に對して苦戰擊退したる所なり

分水嶺 は安奉線中最高の地點にして鴨綠江水域と遼河水域との分水界なり、附近は石綿及雲母を産す古より兵要の地なり

◎草河口驛 Tsao-ho-kou.

通遠堡驛迄七哩七

安奉線の中央にして安東縣及奉天兩驛發の列車は各此驛を終點として停止するが故に旅客は凡て此地に一泊するを要す、主要産物は薪炭、山繭、穀物等なり、賽馬集は此地の東十餘里に在る都邑にして戶數約三百、石炭、鐵の産出を以て有名なり

官衙 兵營、郵便局、警務署出張所(以上日本)巡警局(淸國)

病院 滿鐵大連醫院出張所

旅館 日新館、中國屋、滿東館、福住館等あり一泊一圓五十錢乃至五圓、晝食料六十錢乃

至一圓五十錢

◎通遠堡驛 Tung-yuan-pu. 林家臺驛迄七哩四

◎林家臺驛 Lin-chia-tai 秋木莊驛迄八哩九

◎秋木莊驛 Chiu-mu-chuang. 二道溝驛迄九哩五

驛は秋木莊の南端に在り本邦商人十數名居住せり

當驛以南は安奉線中の難所黑坑嶺の峻坂なるを以て勾配急にして曲線多し、此地にても孟家堡驛及橋頭驛に於けると同樣列車の分割を行ふ

●黑坑● 大房身嶺の中腹に在り瀛車は蜿蜒として山腹を迂回し往くが如く還るが如く百折上下の狀福金嶺と同じく本線中の奇觀なり、秋木莊より鷄冠山に至る山路僅に六哩に過ぎざるも鐵路は十六哩に及ぶ實に安奉線中第一の難所なり

◎二道溝驛 Erh-tao-kou.

鷄冠山驛迄六哩一

驛の東方半里に雪裡站あり商家六七十餘鳳凰城街道に當るを以て車馬の往來尠からず

◎鷄冠山驛 Chi-kuan-shan.

四臺子驛迄七哩五

此地は南に鳳凰城あり北東に雪裡站を控へ四方に散在せる小部落より成る一村にして人口約三百、地勢南西に延び村の中央に鷄冠山あり河水清澄遊魚を數ふべし、主要產物は薪炭木材にして其販路は重に安東縣方面なり



秋木莊

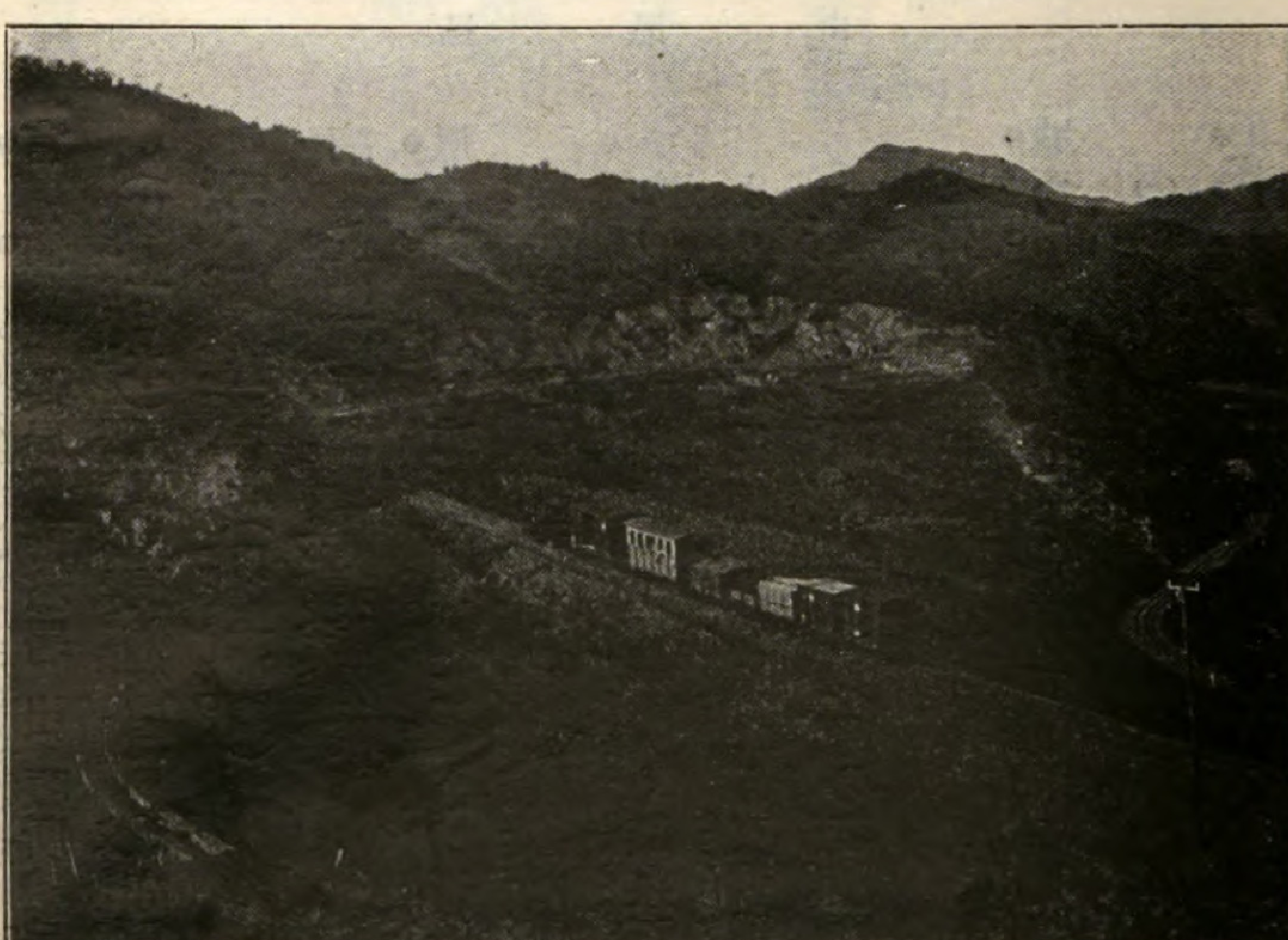
四臺子驛 Ssu-tai-tzu.

鳳凰城驛迄六哩八

鳳凰城驛 Feng-huang-cheng.

高麗門驛迄八哩

四面山を以て圍繞せられ稍廣濶なる谷地に在り、城の建置は明代に在りて其規模宏壯ならざるも城内には重なる官衙及官吏の居宅あり、商店は南門外及東門外に在りて井然たる市街を形成し人口約八千あり、四周に產する大豆、豆粕、高粱及山繭の類は此地を經過して安東縣に出づるを以て商業殷盛にして安奉線中沙河鎭に次ぐの都邑なり



附　　近



鳳凰山

●官衙　郵便局、警務署出張所、兵營(以上日本)鳳凰廳同知衙門、城守尉衙門、巡警總局(以上清國)

●病院　關東都督府病院分院

●鳳凰山　山は市街の東南に在り、奇峰怪巖參差崛起して天半に聳へ狀甚だ傀偉なり山中寺堂あり松林翠深く細泉石罅より湧き殊に銷夏の仙境たり又古城あり唐の太宗高麗を征せし時の遺蹟なりと傳ふ

●城南山　驛の南方に在りて山頂に我將士の忠魂碑あり

●孔子廟　城內に在り來つて遺德を頌する

者跡を絶たず

◎高麗門驛 Kao-li-men.

湯山城驛迄八哩六

高麗門は所謂邊柵六門の一なり六門とは威遠堡邊門、英額邊門、旺清邊門、城廠邊門、靉陽邊門、高麗邊門を云ふ、此地商家二十餘戶主要產物は大豆、高粱、玉蜀黍等なりとす

◎湯山城驛 Tang-shan-cheng.

五龍背驛迄五哩六

附近は地味沃饒にして穀物を產し又山繭の產出多し

湯山城址　驛の後方に在り高勾麗の創築せし所なりと云ふ今は全く荒廢に歸し既に斷礎を見るべからず

官衙　章京衙門(清國)

◎五龍背驛 Wu-lung-pei.

沙河鎭驛迄十三哩三

山間の一村落にして附近の戸數約百、本邦人、數口に過ぎず

溫泉　驛を距る二丁、無臭透明の「アルカリ」泉にして心臟病其他諸病に効あり眺望亦佳絶浴後欄角に倚れば山色衣を浸し白雲座に入る、浴料一人一日十錢、宿泊又は自炊の便法あり宿泊料一圓六十錢

蛤蟆塘　北方に起伏せる丘陵は即ち日露戰役に於て第一軍が九連城を陷落せる後露軍を追擊壓迫せる有名なる戰場なり

沙河鎭驛 Sha-ho-chen.

安東縣驛迄二哩九

安東縣驛 An-tung-hsien.

終端驛



五龍背溫泉場

安東縣は鴨綠江を溯ること約十里の右岸に位し東南に江を隔てゝ韓國新義州と相對す此地は元と沙河鎭又は沙河子と稱し荊棘榛莽の一寒村に過ぎざりしが、光緒二年即ち明治九年始めて縣治を布き安東縣と稱し爾來三十有餘年柵外地方開墾の進捗と共に次第に發展の機運に向ひ加ふるに木材市場としても大孤山、大東溝の繁榮を奪ひ今日に至りては東部滿洲第一の都會となり人口約二萬餘あり、每年解氷期に至れば山東地方其他より勞働者の來往する者多く人口激增するを常とす

日本市街は沙河鎭驛の南方約十丁餘、江に臨み丘を負ひ沙河鎭安東縣兩驛間の鐵路は弓形に之を繞り北は支那市街に接し三面溝渠を鑿ちて排水に備へ堤防を築き市街の區劃整然として行政、敎育、其他諸般の設備略々整頓せり宅地十七萬三千餘坪、農工業地九十六萬八千餘坪戶數一千二百、人口四千を算す

輸出品の主なるものは木材、豆類、豆粕、山繭、玉蜀黍等にして大豆は每年約七十萬担內外豆粕は三十五萬担內外、山繭は十萬担內外を出し本邦及芝罘、上海、天津其他各地に輸出

す輸入品は綿布類、米利堅粉、支那麥粉、燐寸、茶、金物類、砂糖、陶磁器、石油其他の雜貨等にして其價額約六百萬兩なり

官●衙● 領事館、郵便局、警務署、兵營、憲兵隊、居留民團役所、滿鐵大連醫院出張所(以上日本)

鴨綠江採木公司(日淸合同)

道臺衙門、知縣衙門、商埠巡警總局、中江稅局、稅務總局、鹽釐局、海關、郵政局、電報局(以上淸國)

英、米、領事館

銀●行● 橫濱正金銀行、第一銀行及第五十八銀行の各出張所



安東縣市

●會社● 三井物產會社出張所、大阪商船會社代理店、三省洋行、鴨綠江渡江株式會社

●旅館● 元寶館、喜久旅館、富久壽美旅館、安東館等あり、一泊一圓五十錢乃至五圓、晝食料六十錢乃至一圓五十錢

●鴨綠江● 源を長白山に發し滿韓の分界を劃して西南流し龍岩浦に至り黃海に注ぐ延長二百有餘里其水源地方は世界に稀に見る林產地とす

●元寶山● 海拔六百尺、市の北方に聳立し四望展開、安東の地理を一眸の內に收む

●鎭江山● 山腹に臨濟派の一堂宇あり四時の景



街の全景

勝頗る佳、一望豁然山川の風光呼べば將に應わんとするの感あり傍に一靈泉湧き甘冽掬すべし

六道溝●●● 奇岩怪石多く樹木繁茂綠翠滴るが如し桃園あり花時最も美觀を呈す日本守備隊此附近に駐屯せり

新義州との聯絡●●●●●● 對岸新義州に赴かんとする者は渡江株式會社の汽船に搭ずるを便とす同會社は目下六隻の汽船(石油發動機)及び和船六隻を有し毎日兩地より各十回以上航行す旅客渡江賃は一人片道十錢にして貨物賃金は百斤十錢、一才二錢、一噸八十錢の割合なり貸切賃金は汽船片道三圓、和船同



鴨綠江の渡船場

一圓にして夜間は五割增とす、本邦間發着貨物は該會社に於て鐵道院の東海道線、山陽線、九州線各驛間の聯絡運送を取扱ふ又龍岩浦義州其他沿岸各地へは定期航路を開かずと雖も隨時船舶貸切の需に應ず

南滿洲鐵道案内 終

明治四十二年十二月廿二日印刷
明治四十二年十二月廿五日發行

南滿洲鐵道株式會社

印刷者　金澤求也
大連市東公園町十七番地

印刷所　東京印刷株式會社大連出張所
大連市東公園町十七番地

SOUTH MANCHURIA
RAILWAY COMPANY.

YAMATO HOTELS

DAIREN, PORT ARTHUR & CHANGCHUN.

南満洲鐵道株式會社

大連
旅順
長春

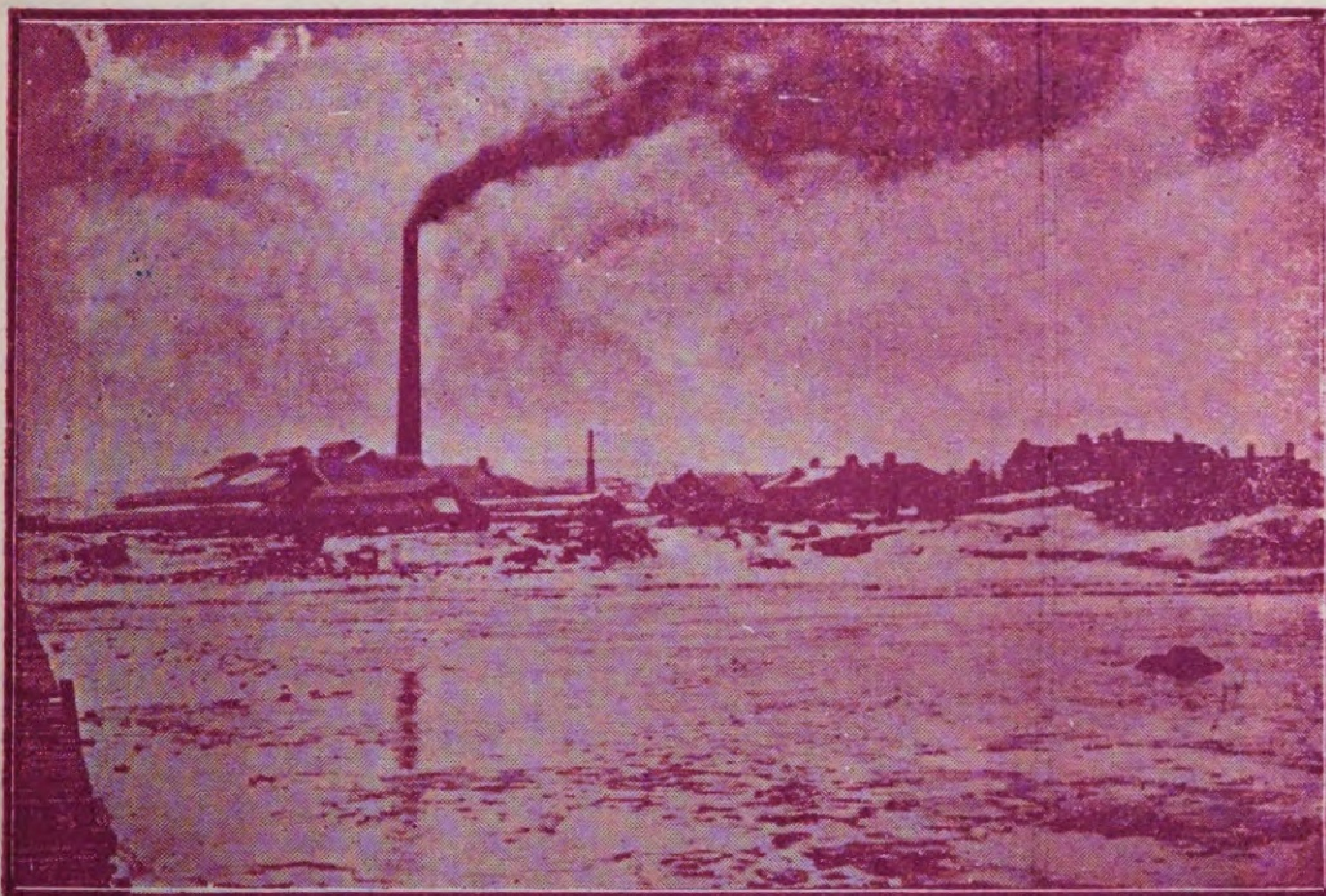
ヤマトホテル

汽車、汽船發着毎に制服を着したる送迎人差
出し居候

電話（大連）三七〇（旅順）二二六（長春）八




金露
醇良
金露
清酒
大阪府堺市
大塚和三郎



海外輸出專業

○有名賣藥 ○化學藥品
○化粧品 ○純良藥品
○工業藥品 ○醫療器械

本社 東京神田區錦町一丁目
支店 大連、新嘉坡
出張所 大坂、印度カルカッタ

大連市浪速町三丁目
日本賣藥株式會社大連支店
（電話四五六、長七五〇）



本社

營業種目

內地產、北海道產
米國產各種材
燐寸軸木製造
輸出製函業
雜貨輸出入業
秋田木材株式會社
特約販賣店

特色

各木材產地には常に社員を派し產出調査に従事し本社には新式完全なる立鋸鉋器械等の設備ありて至急用品も迅速御需用に應すべく候內地材北海道材等材料は平常多數貯藏致居候

宮

宮下合名會社
大連出張所

宮下木廠

長電話五二一九番

本社所在地　神戸市兵庫新川

機械製材工場　兵庫運河

出張所所在地
營口新市街
安東縣市場通
北海道小樽花園町

營業品目

本溪湖石炭、波板、亞鉛板、セメント、アスフアルト、煉瓦、木材、鋼鐵、其他一切ノ建築材料、土工用具、綱類、帆布及製品アスベスト
麻袋、豆、豆粕、
其他雜貨

大連市越後町三十三號地

合名會社

大倉組大連出張所

（電話四三五）

火災保險

英國ニユージーランド保險會社代理
既成建物ノ保險ニ應ズルハ勿論建築業者ガ其工事中ニ罹災シ請負者ガ思ハザル損害ヲ受クル例多々有之候間カヽル危險ニ對シテモ御契約可仕候

美術

活版、石版、寫眞版

各種印刷製本

東京印刷株式會社大連出張所

大連市東公園町

電話 四八番 七六七番

印刷

滿洲の經營を主義とし滿洲の開發を目的とす

論議は愕々、報道は迅速、記事は正確、紙面は高尙、

年中無休刊にして一ヶ月僅に六十錢

滿洲日日新聞

英文夕刊は滿洲に於ける唯一の英字新聞にして

一ヶ月僅に二十錢

大連東公園町十七番地

電話(二番、四十九番、七十三番)



COMet
2X12
營業種目
◉平板、浪板、鐵材、洋釘ハ營業品中ノ主眼◉
●亞鉛引平板浪板
●銅鐵眞鍮諸材料
●洋釘螺旋釘各種
●銅眞鍮亞鉛引線
●建築土工用金具
●船舶水道用金具
●鍛工木工用金具
●セメント及塗料
大連市浪速町三丁目
加藤金物店
電話五三〇番
◉直輸入品多量在庫特價御注文ニ應ズ◉

高等洋服調進

絨地 免税品 各種裏地眞地

其他附屬品一式



地方御注文之節又は見本御入用の節は

御申越次第御送遞申上候


大連
歌舞伎座
歌舞伎座ハ弊社に於て何人にも賃貸可致候
大連建物株式會社
電話五三八番



遼東ホテルは家屋の完備なるは內地と雖も其比を見ず冬は電氣ストーブ及瓦斯暖房のスチームを通し夏は扇風器の裝置を以て防寒暑の設備完全せり

遼東ホテルは啻に宿泊の方に限らず軍艦汽船等御碇泊の場合暫時の御休憩和洋食事の御支度には至極御便利なり

大連信濃町

遼東ホテル

電話 一三一番新館 長五〇二番舊館

遼東ホテルの內部、日本式と歐米式とに建築し各室に電話を通じ應接間、運動場、外に讀書室、酒場、音樂室、玉突場の娯樂場を設く
其他浴室、洗面所、化粧室、理髮場、便所等は總て新式にして衛生上に尤も注意せり




銅鐵諸工事請負業
露國式ストーブ
煙突製造
ペーチカ工事請負
大連市西通一丁目
改良社
電話七四七番




M.C.C.
M.C.C.
○眞正埃及莨 各種
○マニラ葉卷 各種
○ヱム、シー、シー
滿洲一手販賣元
本國より入船毎に入荷仕居候
大連市浪速町三丁目
パイジス商會
電話四六五番
支店 旅順乃木町三丁目

營業品概目

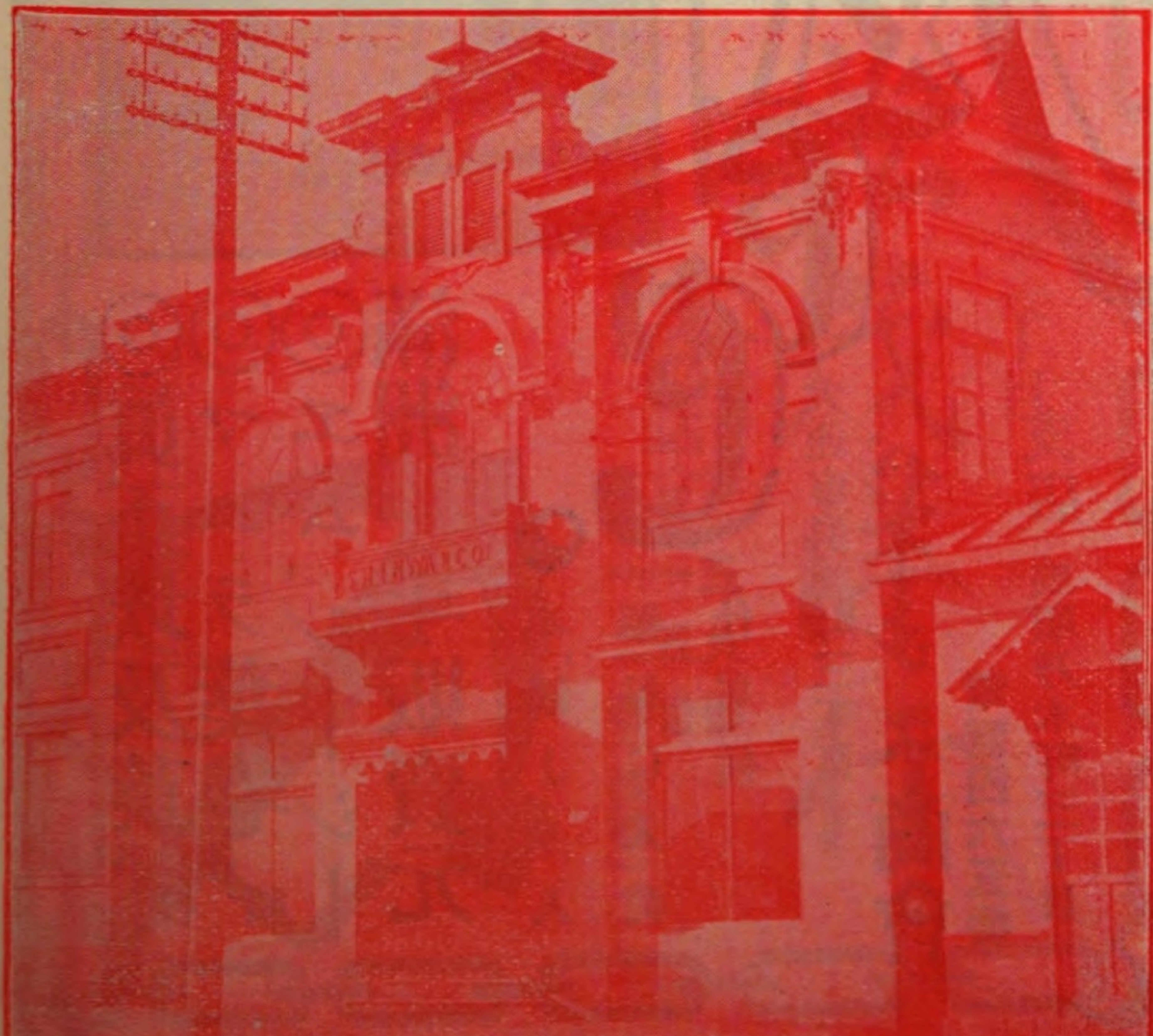
洋鐵、鋼、銅、眞鍮、地金類、機械、全附屬品、全消耗品、水道用バルブ類各種、土工具、船具、塗料品、鉛管、鉛板

輸入販賣

大連市佐渡町二七號地
電話長一七三番

合資會社 進和商會

大阪市西區阿波堀通五丁目四九
同 出張所
電話長西二二四五四番





營業品目

◉諸機械、滊罐及附屬品類
◉電氣、瓦斯器械及附屬品
◉洋鐵綱、鐵管、銅管、地金類
◉鐵道、鑛山、鐵工、土木用品
◉船具、塗料、建築諸材料
◉種子、白絞、諸機械油類

特約店及代理店

▲ヒーリング商會代理店
▲日本防水布會社代理店
▲大阪帶革製造所代理店
▲東京製綱兵庫分工場特約店
▲帝國製麻會社特約店
▲本多安全燈一手販賣
▲エドガーアレン綱會社代理店
▲シーポム、デックストル綱製造所代理店
▲紀ノ吉製鑄所代理店
▲日本ペイント會社特約店
▲近江帆布株式會社特約店

大連市磐城町四二號地（電話四一〇番）

原田組商業部

大阪市西區薩摩堀北の町（電話西一一六二番）

大阪支店

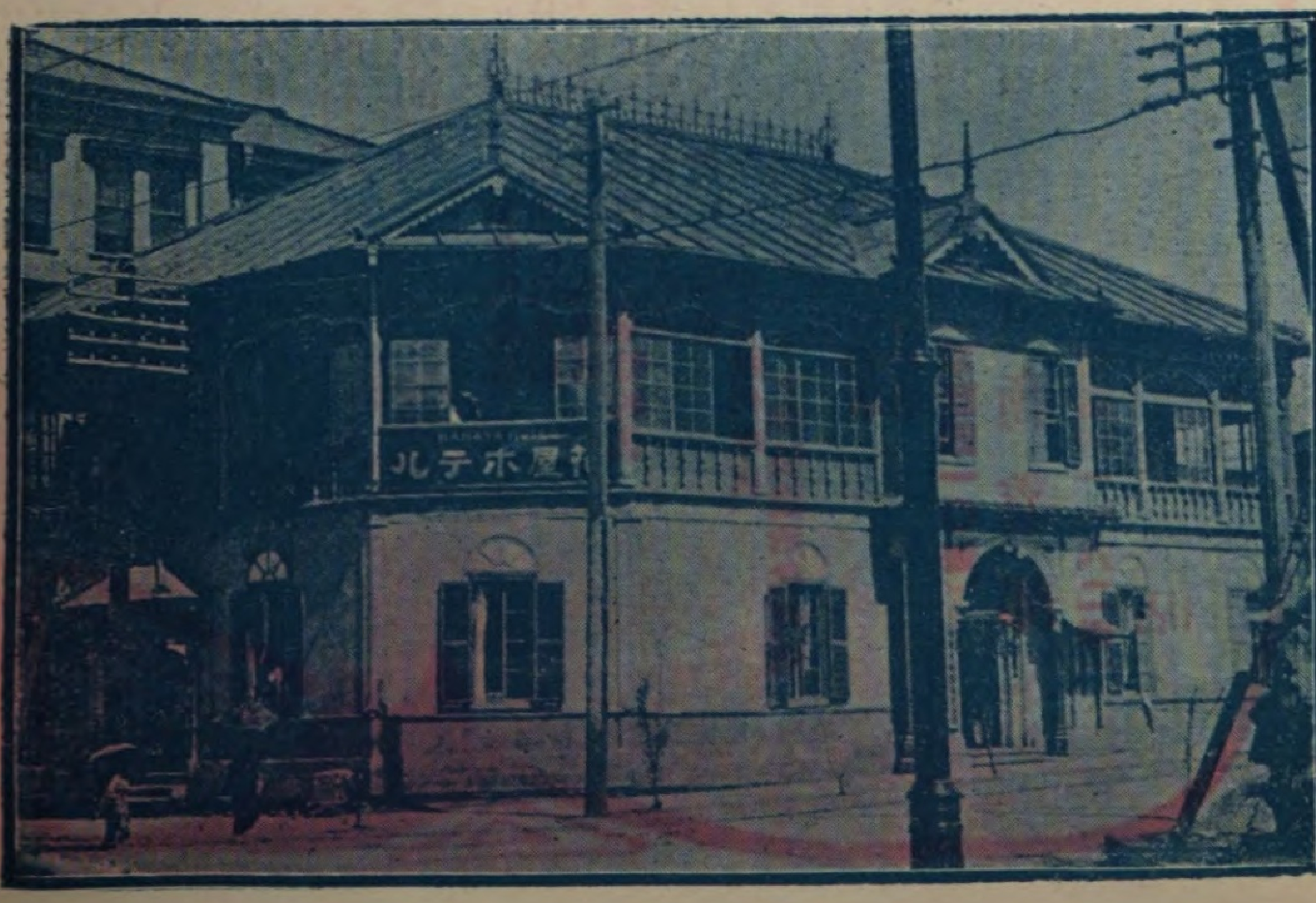
陸軍運輸部指定御旅館
南滿洲鐵道會社指定御旅館

大連市信濃町

花屋ホテル

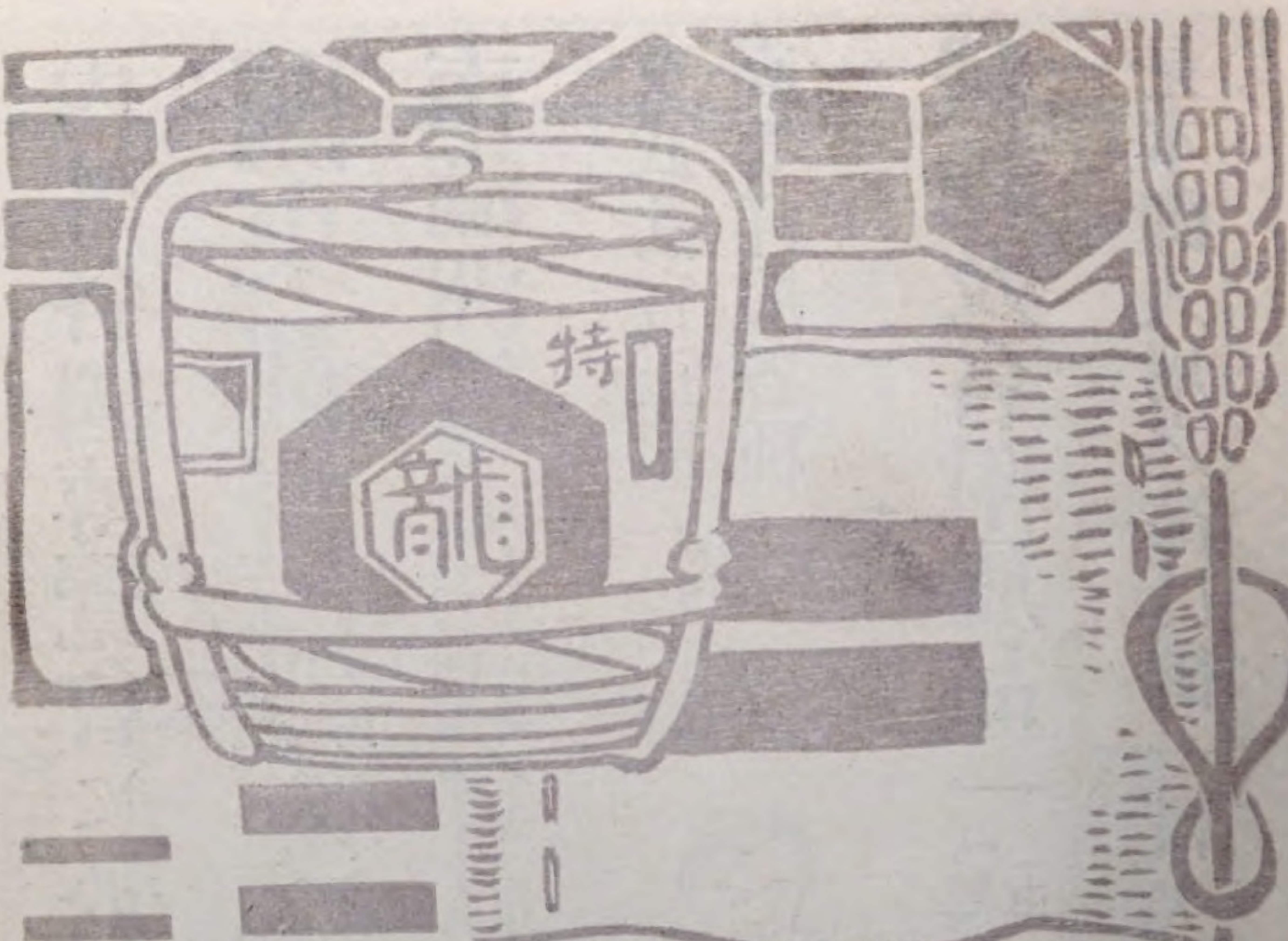
（電長七〇三）

市内中央ニ位シ諸官衙諸會社へ最モ御便利ニ候
棧橋及停車場ニハ店員御出迎致居候




御料理
大連市浪速町三丁目
電話 一六八番 一八二番


ユニオンビール
エビスビール
サッポロビール
アサヒビール
大日本麥酒株式會社


特
龍

内外各國博覽會に於て名譽金牌受領

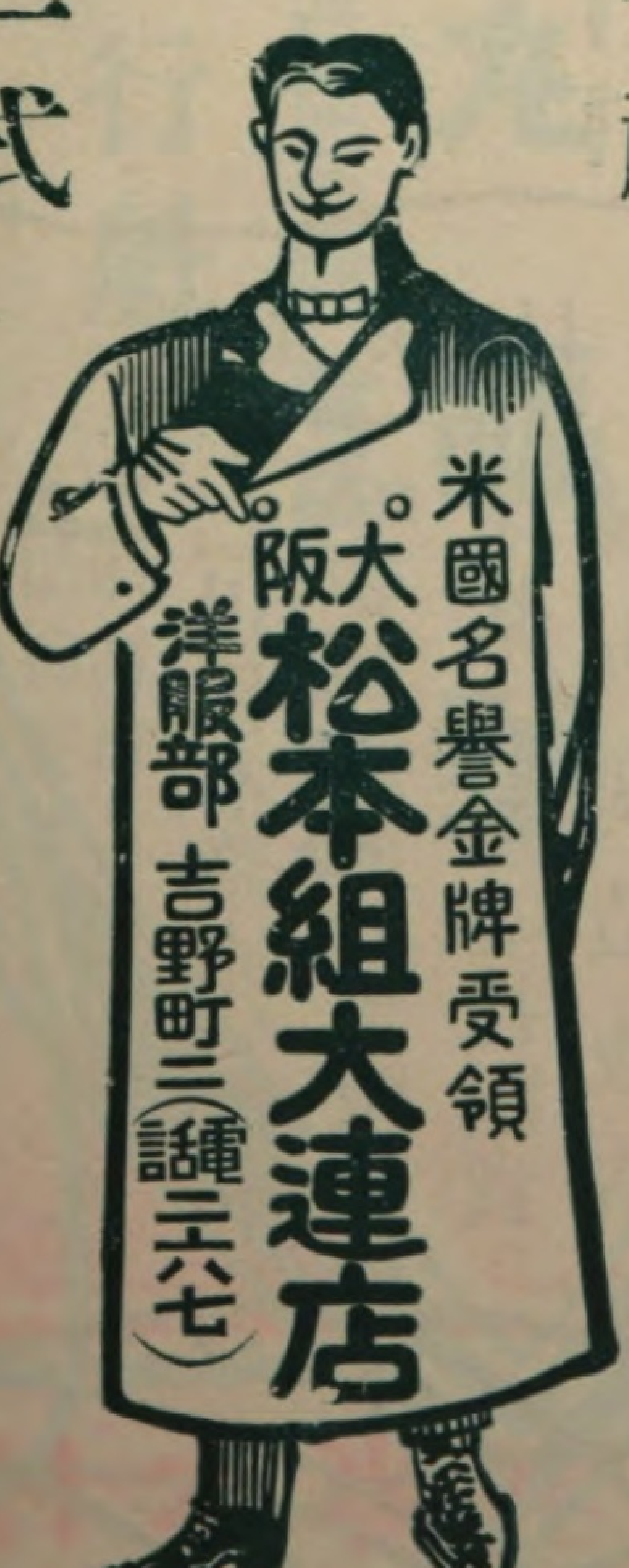
關東都督府 通信管理局 民政部 民政署

南滿洲鐵道株式會社

御用達

文武法官正服
高等洋服各種 調進

絨地及各附屬品一式



見本御入用之節は御一報次第御送遞申上候


御料理
食道楽
濱乃家
大連監部通
電二五五番



釀造元

攝津灘御影町

嘉納治兵衛

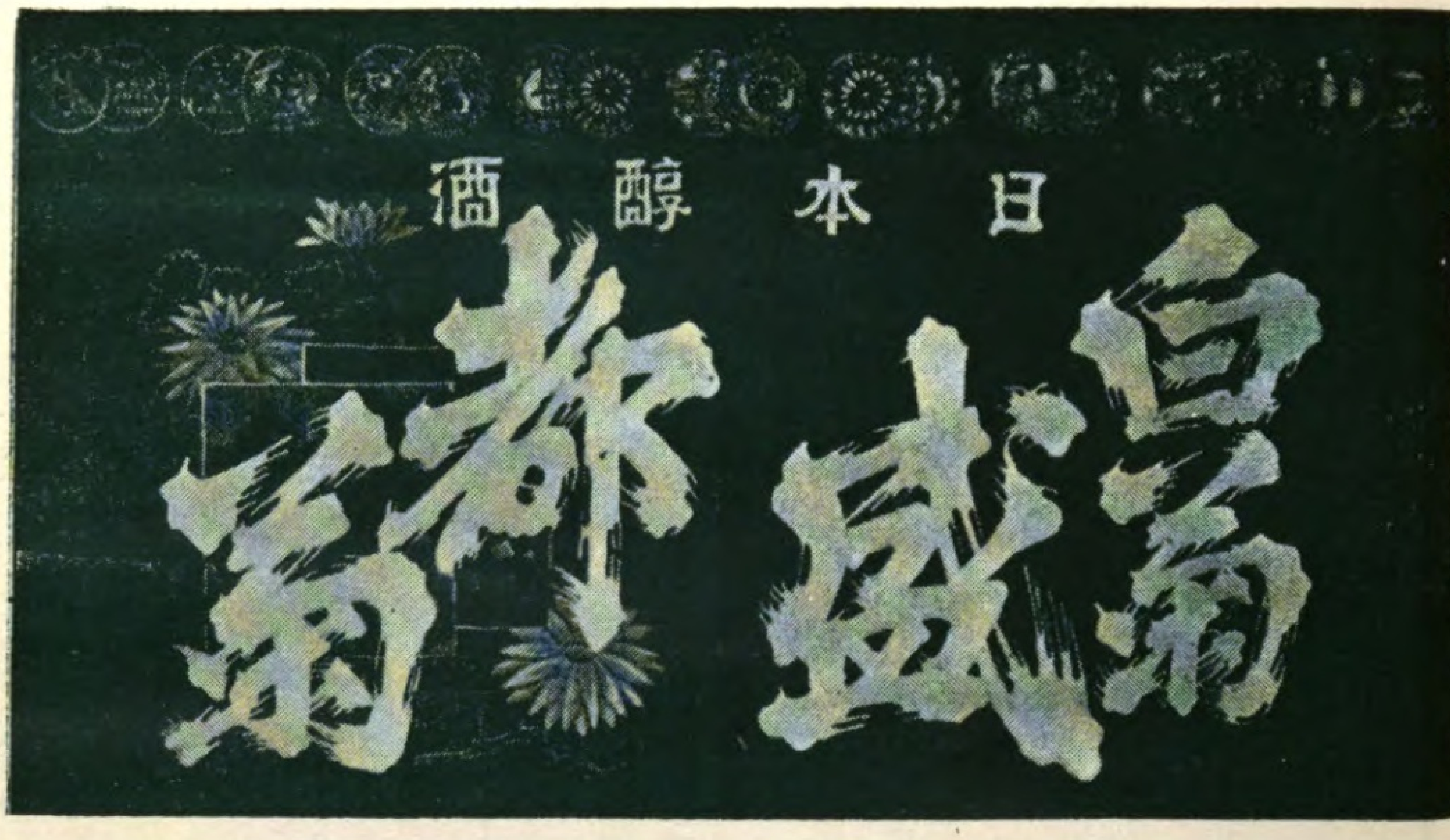
滿洲一手販賣元

大連市監部通

盛和洋行

電話一四四番


澤龜
清酒
澤龜釀造發賣元
洋酒、洋食料品 直輸入商
旭 札幌 ビール
大連市大山通二丁目
宅合名會社大連支店
電話長二四〇番



キリンビール

滿洲發賣元

長崎市本五島町
本店 肥塚與八郎

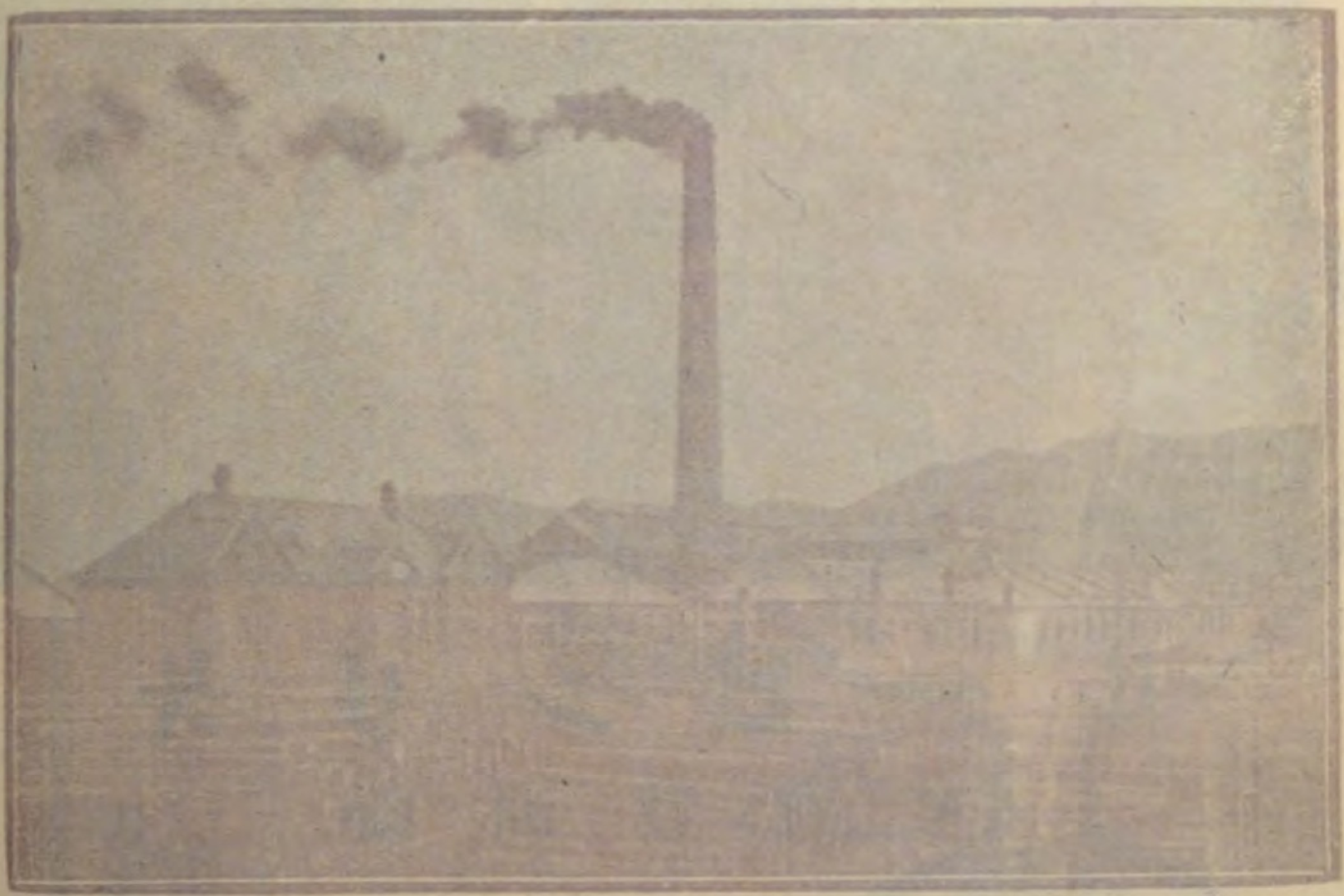
堺市熊野町西壹丁
釀造元 肥塚酒造店

支店 長崎築町支店
同 長崎樺島支店
同 佐世保支店
同 東京支店

肥塚大連支店

電話長一三六番

堺市熊野町西壹丁 第一釀造場
堺市熊野町東壹丁 第二釀造場
兵庫縣灘御影 第一釀造場
同 第二釀造場
同 魚崎 第一釀造場
同 第二釀造場

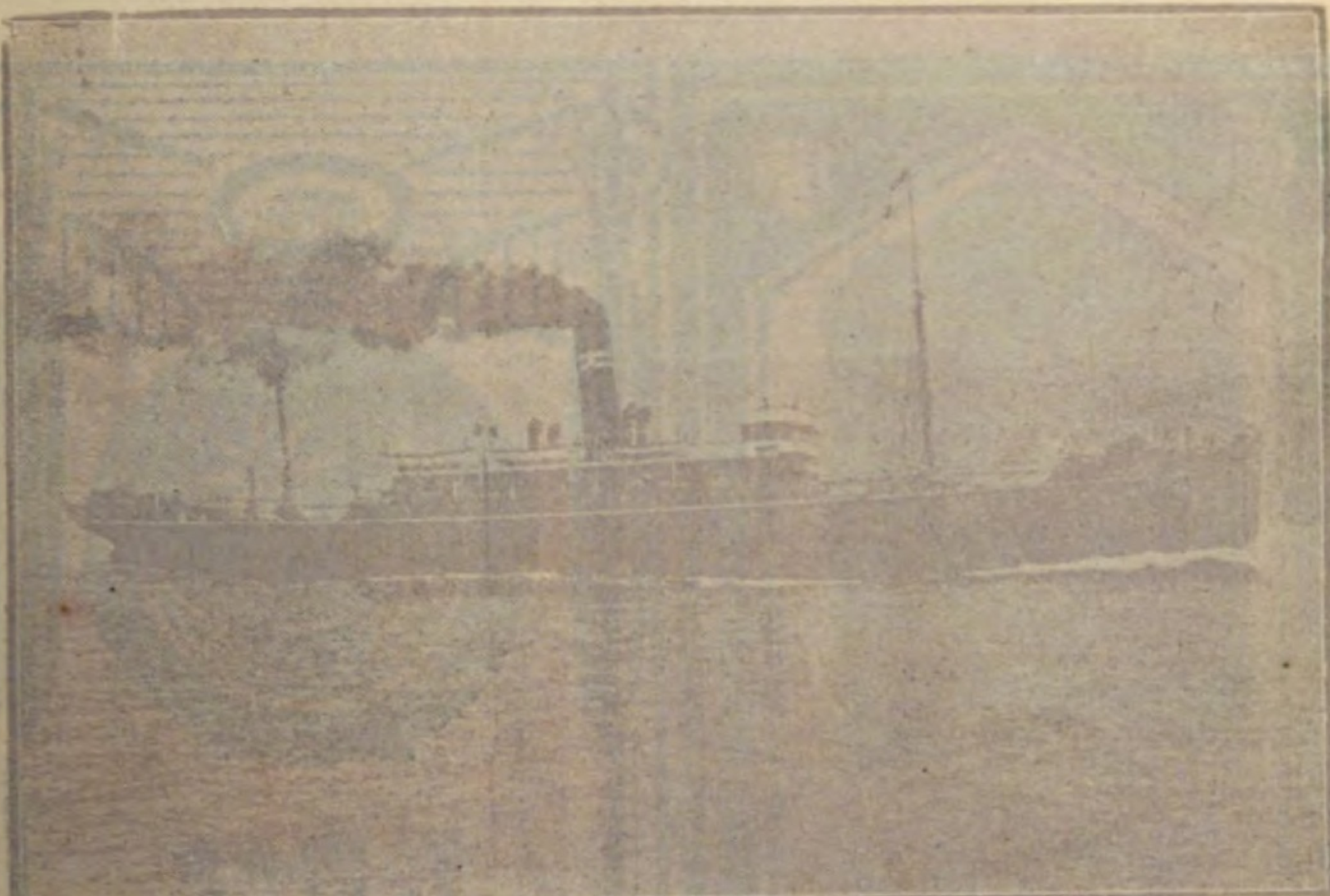




營業品目

洋酒、洋食料品
洋菓子、洋食器
葉卷莨、埃及莨
化粧品、∧上井醬油

直輸入商
大連市吉野町三丁目
株式會社 三星洋行
電話四一八番



大連線

天草丸（二、五一九噸）　鐵嶺丸（二、二一四噸）
嘉義丸（三、五〇八噸）　開城丸（二、〇八四噸）

大阪行　門司 神戸 寄港、毎木曜、日曜出帆
（嘉義丸往航、天草丸復航宇品寄港）

長崎行　{安東丸（八〇三噸） 隅田川丸（七四六噸）} {仁川寄港每月二回又ハ三回出帆 鎭南浦、仁川、木浦、釜山、巖原、鄉ノ浦}

橫濱行　{基隆丸（一、六六九噸） 潮洲丸（一、六七〇噸）} 寄港地不定

大阪商船株式會社大連支店

大連大山通二丁目日本橋詰

電話二二三〇番


醤油
河又出張所
大連信濃町
電話四六六番



◎材木板類　◎天井造作

◎床廻一切　◎左官材料

◎疊建具類　◎セメント

◎繩莚竹類　販賣商

大連市美濃町七十九號地

早野大連支店

電話長二〇七番

清韓臺灣貿易電柱土木建築造船用材各種左官材料一式廉價販賣

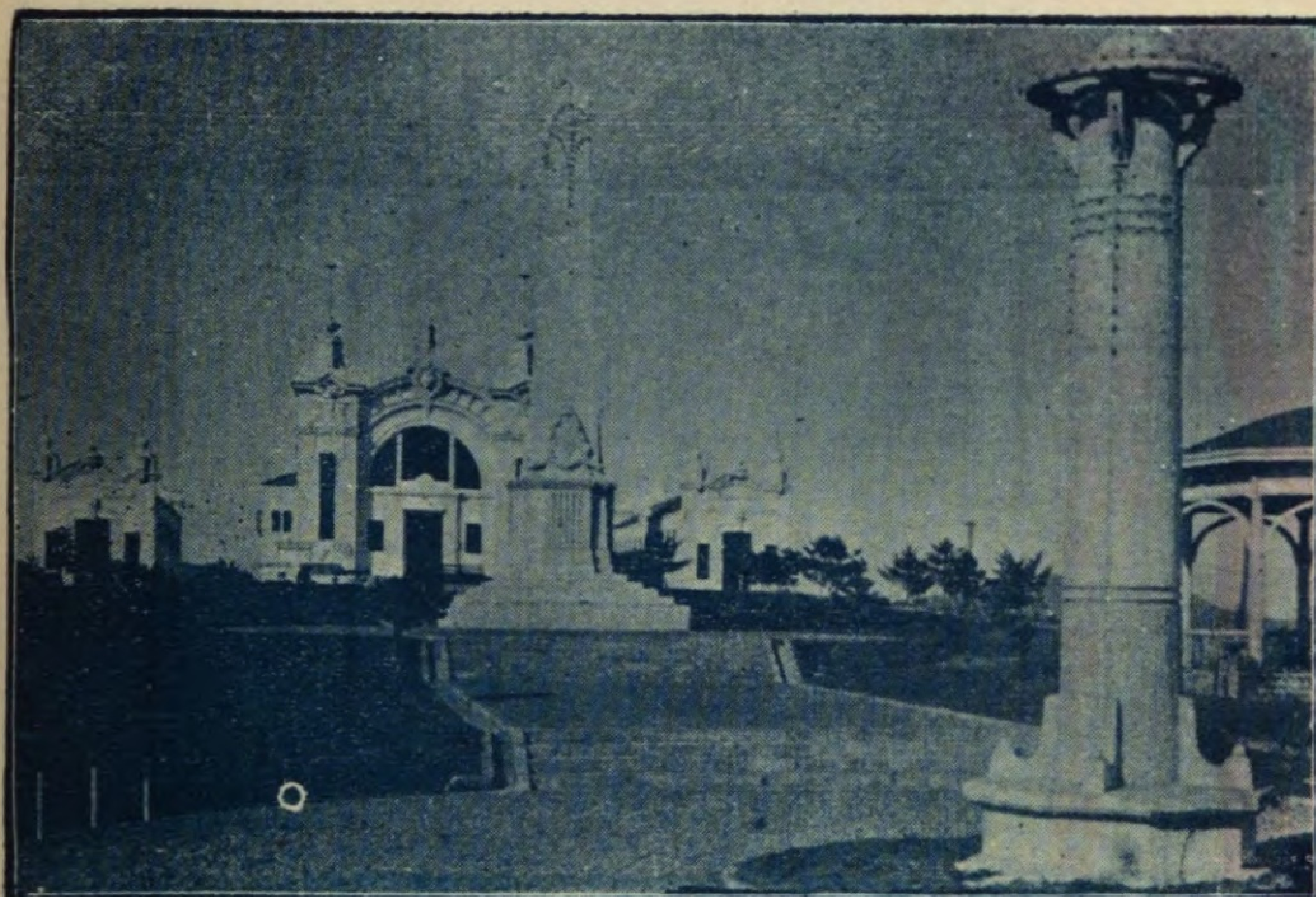
●內地產各種
●北海道產
●ハルピン產
●鴨綠江產
●米利堅產

下關東南部町
秋田商會
電話 特長一九番 三八五番

大連美濃町
秋田商會
電話四三七番

旅順乃木町
秋田商會
電話一七七番

急速の御注文に應ずる爲め大小の汽船を有し常に商品を貯藏し貴需に可供候



演藝館

西洋遊戲各種

動物、植物

大連 伏見臺電氣遊園

開園 每日正午

閉園 午後十時

四季の遊園に適せり

大阪商船會社 荷客取扱所

神戸市榮町通三丁目

山口運送本店

振替貯金口座大阪三三八八番

電話 四八番長二三〇番七〇〇番
長九〇六番長九一〇〇番

清國大連市監部通一丁目
山口運送店大連支店

山口運輸公司

振替貯金口座大阪三二八九番

萬話長三六九番五二四番

大阪市北區梅田町

山口運送店大阪支店

電話南長三六六番長東九三四番

振替貯金口座大阪六三九〇番

出張所及荷扱所

神戸

神戸	電長九〇三 電長九三〇
三宮	電長四一三
和田岬	電一、一九〇
兵庫	電二一四
兵庫運河	電二八九
高濱	電一、〇五〇
小野濱	電三、〇〇二

滿洲

大連大棧橋	電一三四
同第二ホーム	電八〇二
旅順	電六七
遼陽	電四一
奉天	電一四〇
鐵嶺	電五三
公主嶺	電三三
長春	電八一
千金寨	電一〇八
營口	電二六
西營口	電二七
四平街	
開原	
范家屯	

大阪

富嶋町	電西九三四
西横堀	電東二四六
天保山	電西五三四
安治川口	電西五三六
湊町	電南三六六

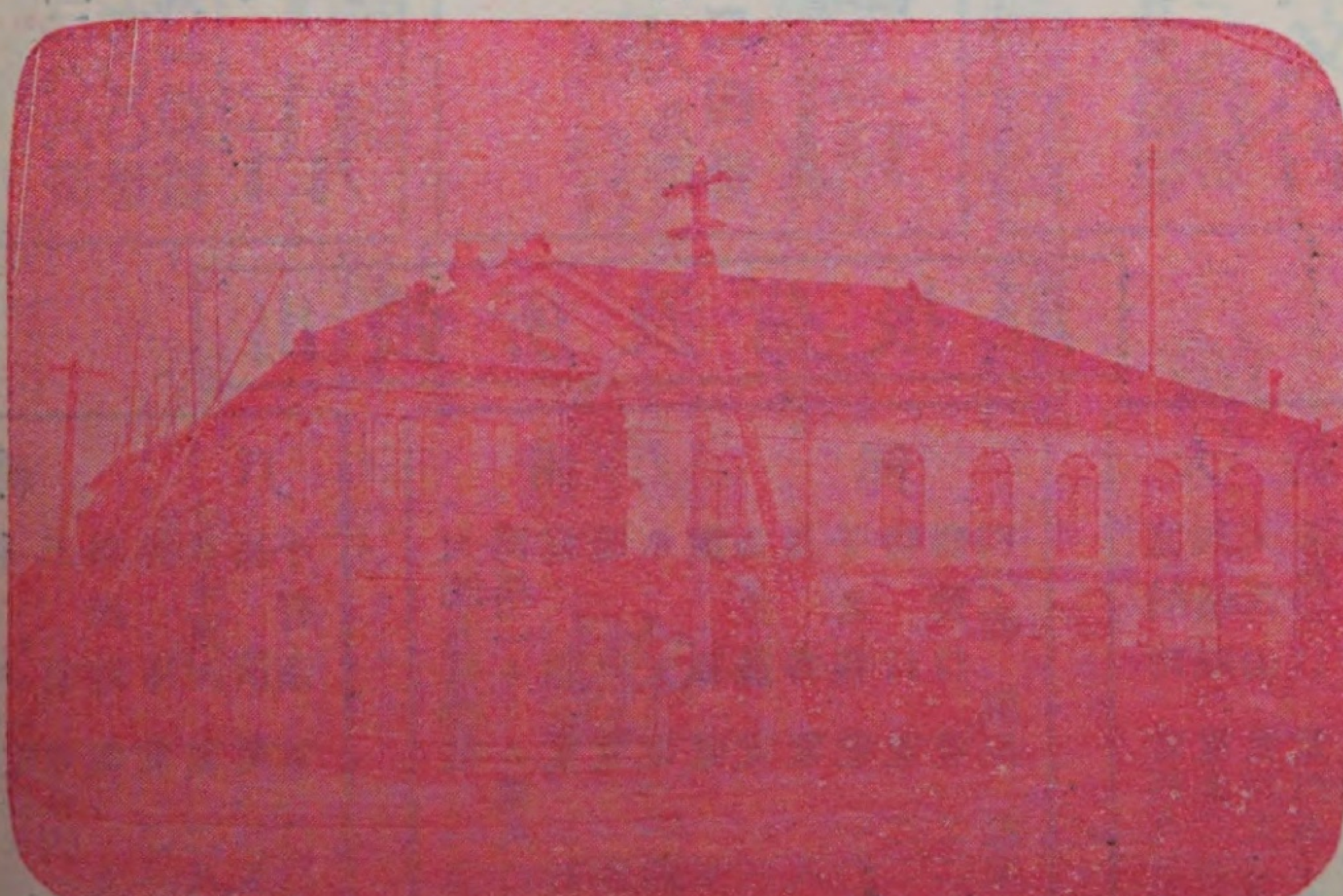
高等御料理

大連美濃町

千勝館

電話 一四六番 一四七話

弊館は百疊敷の廣間及新築八十疊の純日本風座敷を有す



砲臺案内
烏城燒取次

御旅館 寶來館

旅順郵便局前
（電話長五六番）

旅順名物　うづら鑵詰



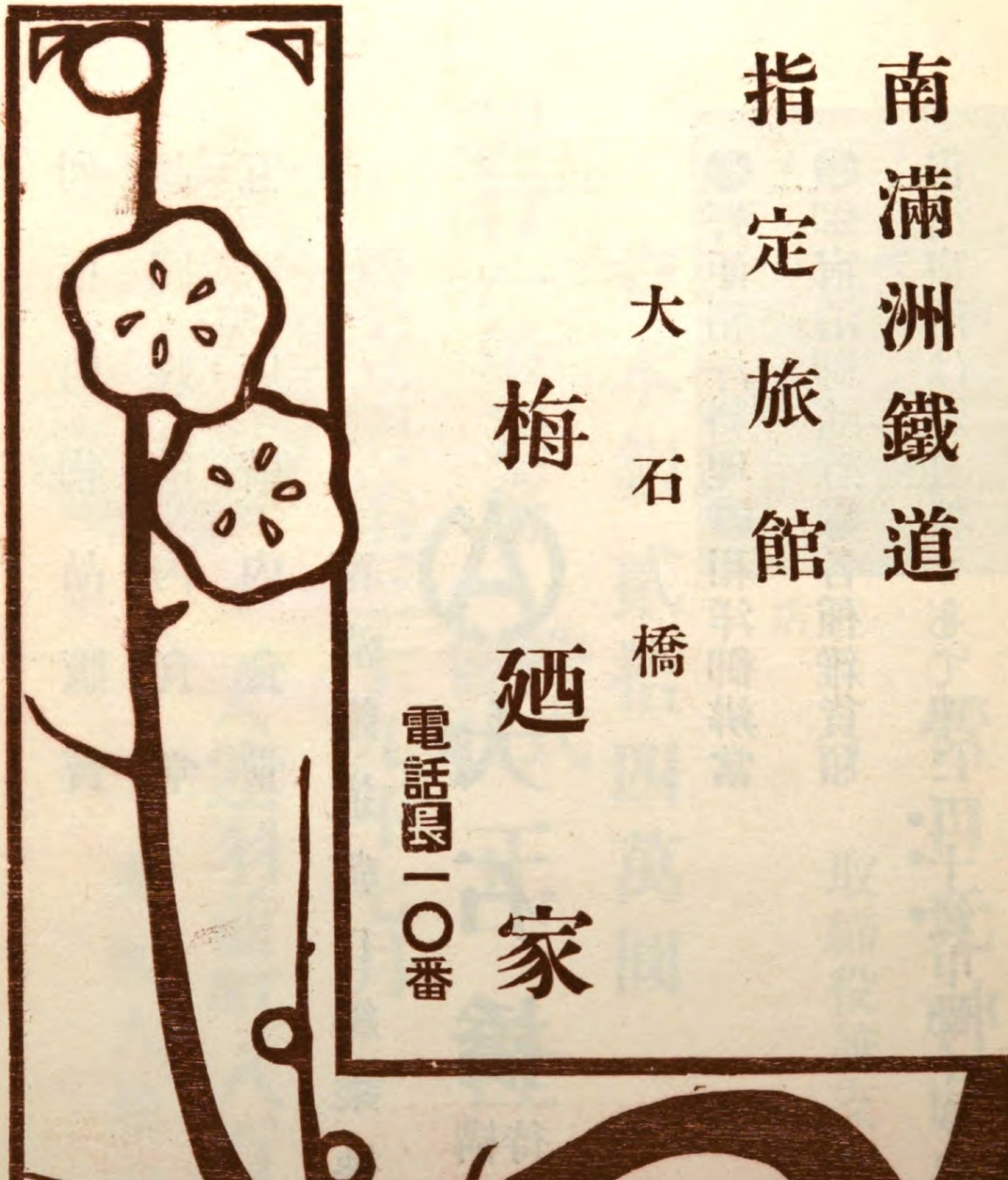
忠海町　勝野洋行
乃木町　金水商會

海陸運送業

旅順
乃木町三丁目

㊊
川久保洋行

電話五五番


南滿洲鐵道
指定旅館
大石橋
梅廼家
電話長一〇番

營口元神廟街

取締役兼支配人深水十八

電話二一〇番



本店

資本銀貳拾四萬圓

株式會社 正隆銀行

銀行一般業務

設立明治三十九年七月



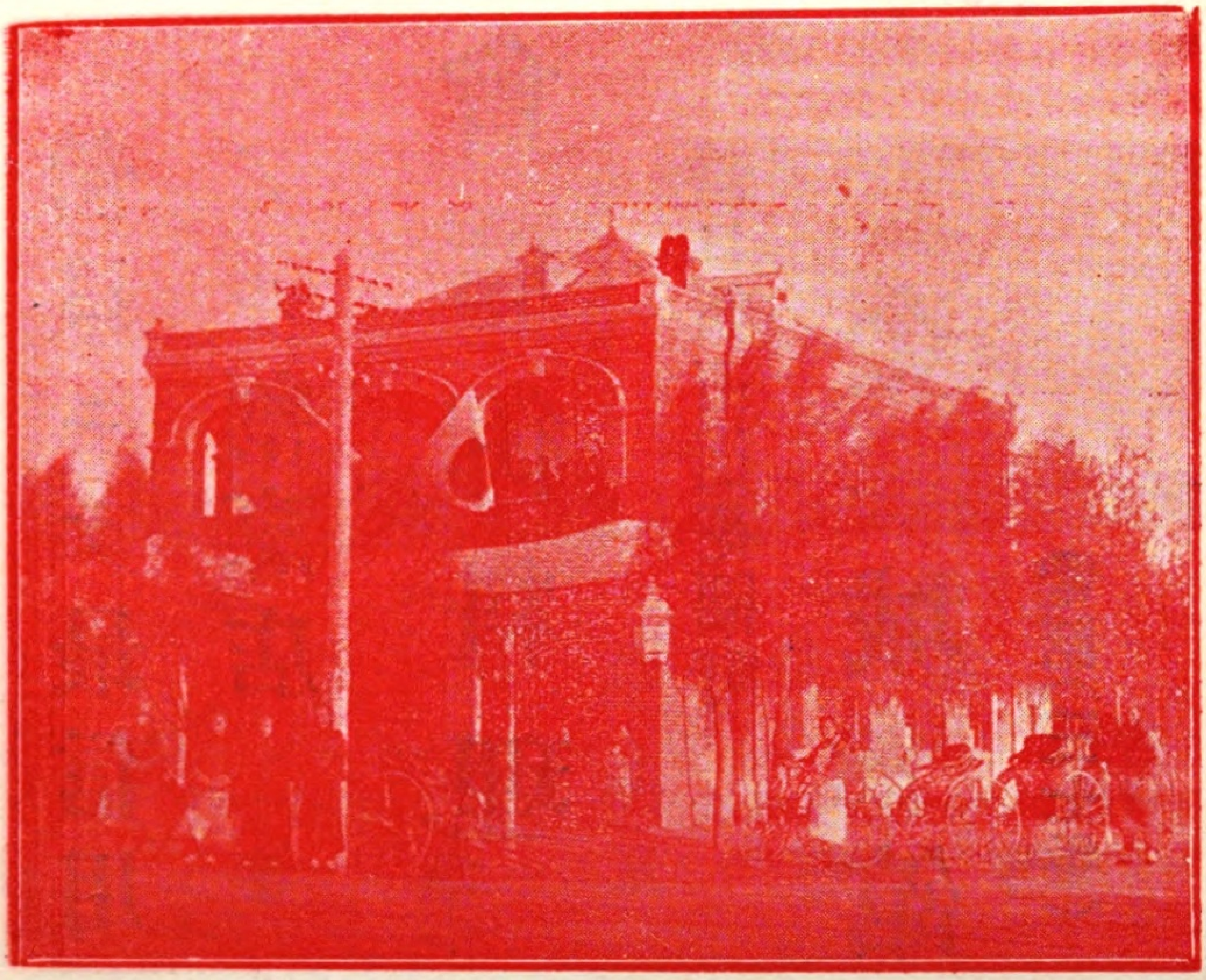
支店

大連羽前町八百拾五號地

支配人松村久兵衛

電話六八一番





營口ニテ最信用
アル割烹店

會席御料理

營口新市街花園町

金城舘

電話（三七番）



諸官衙御指定

高等
專業
旅館

大和屋ホテル

諸事完備
待遇叮嚀

各室共暖爐ノ設備アリ

長春停車場前

電話百〇九番
電信略號ヤマ

●北滿產木材各種
●露國建築用金物

長春旭町

松永洋行

（電話四五番）